京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　二〇二三－八　中久世遺跡

中 久 世 遺 跡

2024年

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

中 久 世 遺 跡

2024年

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

序　　文

京都市内には、いにしえの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、工場建設に伴う中久世遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

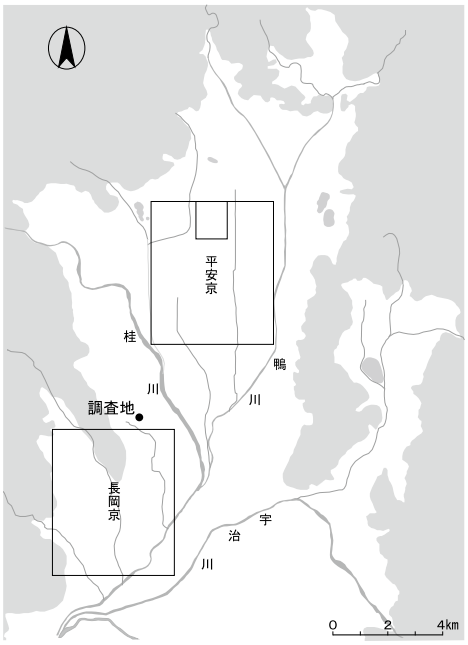
令和６年７月

公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

所　長　　井　上　満　郎

例　　言

1	遺　跡　名	中久世遺跡　（京都市番号　23 S 319）
2	調査所在地	京都市南区久世中久世町４丁目18-1, 18-2, 18-3
3	委　託　者	株式会社　山元塗装工業　代表取締役　山元純子
4	調 査 期 間	2023年11月27日～2024年２月２日
5	調 査 面 積	392㎡
6	調査担当者	渡邊都季哉・古閑正浩
7	使 用 地 図	京都市発行の都市計画基本図（縮尺１：2,500）「川島」・「吉祥院」・「寺戸」・「久世」を参考にし、作成した。
8	使用測地系	世界測地系　平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
9	使 用 標 高	T.P.：東京湾平均海面高度
10	使用土色名	農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』に準じた。
11	遺 構 番 号	通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。ただし、掘立柱建物・柱列は別に番号を付した。
12	遺 物 番 号	種類ごとに通し番号を付し、写真番号も同一とした。
13	本 書 作 成	渡邊都季哉
14	備　　考	上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。



（調査地点図）

目　　次

１．調査経過 …… 1
（１）調査に至る経緯 …… 1
（２）調査の経過 …… 1
２．位置と環境 …… 4
（１）歴史的環境と立地 …… 4
（２）既往の調査 …… 5
３．遺　　構 …… 9
（１）基本層序 …… 9
（２）弥生時代の遺構 …… 9
（３）奈良時代以降の遺構 …… 13
４．遺　　物 …… 15
（１）遺物の概要 …… 15
（２）土器類 …… 15
（３）石器 …… 20
（４）土製品 …… 21
５．ま と め …… 22
（１）遺構の変遷 …… 22
（２）弥生時代の中久世遺跡について …… 24

図　版　目　次

図版１　遺構　調査区平面図〔弥生時代〕（１：120）
図版２　遺構　調査区平面図〔奈良時代以降〕（１：120）
図版３　遺構　調査区西壁断面図（１：60）
図版４　遺構　調査区南壁断面図（１：60）
図版５　遺構　竪穴建物310・311実測図（１：60、土器は１：12）
図版６　遺構　竪穴建物480実測図（１：60）
図版７　遺構　竪穴建物320実測図（１：60）
図版８　遺構　竪穴建物312・500実測図（１：60）

図版９　遺構　竪穴建物340実測図（１：60）
図版10　遺構　竪穴建物355実測図（１：60）
図版11　遺構　竪穴建物250実測図（１：60、土器は１：12）
図版12　遺構　土坑309・316・295・497実測図（１：50）
図版13　遺構　土坑216・400・562・353・410・318・617・205実測図（１：50）
図版14　遺構　掘立柱建物１実測図（１：80）
図版15　遺構　掘立柱建物２、井戸332実測図（１：80、１：40）
図版16　遺構　柱列３・４実測図（１：80）
図版17　遺物　土坑309・318・216・497・316出土土器実測図（１：４）
図版18　遺物　土坑295・612・240・410、竪穴建物310・311出土土器実測図（１：４）
図版19　遺物　土坑400出土土器実測図１（１：４）
図版20　遺物　土坑400出土土器実測図２（１：４）
図版21　遺物　柱穴381、土坑205・562・379、竪穴建物312・320・600・500・355出土土器実測図（１：４）
図版22　遺物　竪穴建物250出土土器実測図１（１：４）
図版23　遺物　竪穴建物250出土土器実測図２、奈良時代以降の土器実測図（１：４）
図版24　遺物　石器実測図１（石１～12は１：２、石13～21は１：３）
図版25　遺物　石器実測図２（石22～30は１：２、石31～35は１：４）
図版26　遺物　石器実測図３（１：４）、土製品実測図（１：２、土７のみ１：４）
図版27　遺構　１　調査区全景〔弥生時代〕（北東から）
　　２　竪穴建物310（南から）
図版28　遺構　１　竪穴建物311（南東から）
　　２　竪穴建物480（南西から）
図版29　遺構　１　竪穴建物320（北東から）
　　２　竪穴建物600（北東から）
図版30　遺構　１　竪穴建物312・500（北東から）
　　２　竪穴建物340（北東から）
図版31　遺構　１　竪穴建物355（東から）
　　２　竪穴建物250（北東から）
図版32　遺構　１　土坑309（北から）
　　２　土坑316（東から）
　　３　土坑295（北から）
　　４　土坑318（東から）
図版33　遺構　１　土坑240（北から）
　　２　土坑353（北から）

３　土坑400（北西から）
４　土坑205（北から）
図版34　遺構　１　調査区全景〔奈良時代以降〕（北東から）
２　掘立柱建物１（北から）
図版35　遺構　１　掘立柱建物２（北から）
２　柱列３（北東から）
３　井戸332（北西から）
図版36　遺物　土器類１
図版37　遺物　土器類２
図版38　遺物　土器類３
図版39　遺物　土器類４
図版40　遺物　１　石鏃
２　石包丁
図版41　遺物　１　石斧
２　台石・敲石・砥石
図版42　遺物　１　石剣・石錐・石鋸・碧玉剥片・不明石器
２　土製品

挿　図　目　次

図１　調査位置図（１：10,000）　…… 1
図２　調査区配置図（１：300）　…… 2
図３　調査前全景（南東から）　…… 2
図４　作業状況（南東から）　…… 2
図５　周辺調査位置図（１：5,000）　…… 4
図６　竪穴建物600実測図（１：60）　…… 10
図７　土坑240・612実測図（１：50）　…… 12
図８　遺構変遷図（１：500）　…… 23
図９　中久世遺跡の弥生時代遺構分布図（１：5,000）　…… 25

表　目　次

表１　周辺調査一覧表 …… 6
表２　遺構概要表 …… 9
表３　遺物概要表 …… 15

付　表　目　次

付表１　出土土器観察表 ……26
付表２　石器観察表 ……31
付表３　土製品観察表 ……32

中 久 世 遺 跡

1．調査経過

（1）調査に至る経緯

本調査は、南区久世中久世町４丁目18番の久世中久世町開発計画（工場建設）に伴う発掘調査である。調査地は弥生時代から中世の複合遺跡である中久世遺跡にあたる。

調査に先立って実施された京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という）の試掘調査の結果、古代以前の遺構が良好に残存していることが確認され、発掘調査を行うこととなった。調査は、文化財保護課の指導の下、原因者より委託を受けた公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が実施した。

（2）調査の経過

調査区の設定は、文化財保護課の指導に従い行った。南北24.5ｍ、東西16.0ｍで、調査面積は392㎡である。調査は令和５年11月27日より開始した。重機を用いて現代盛土、近世・近代耕作土を

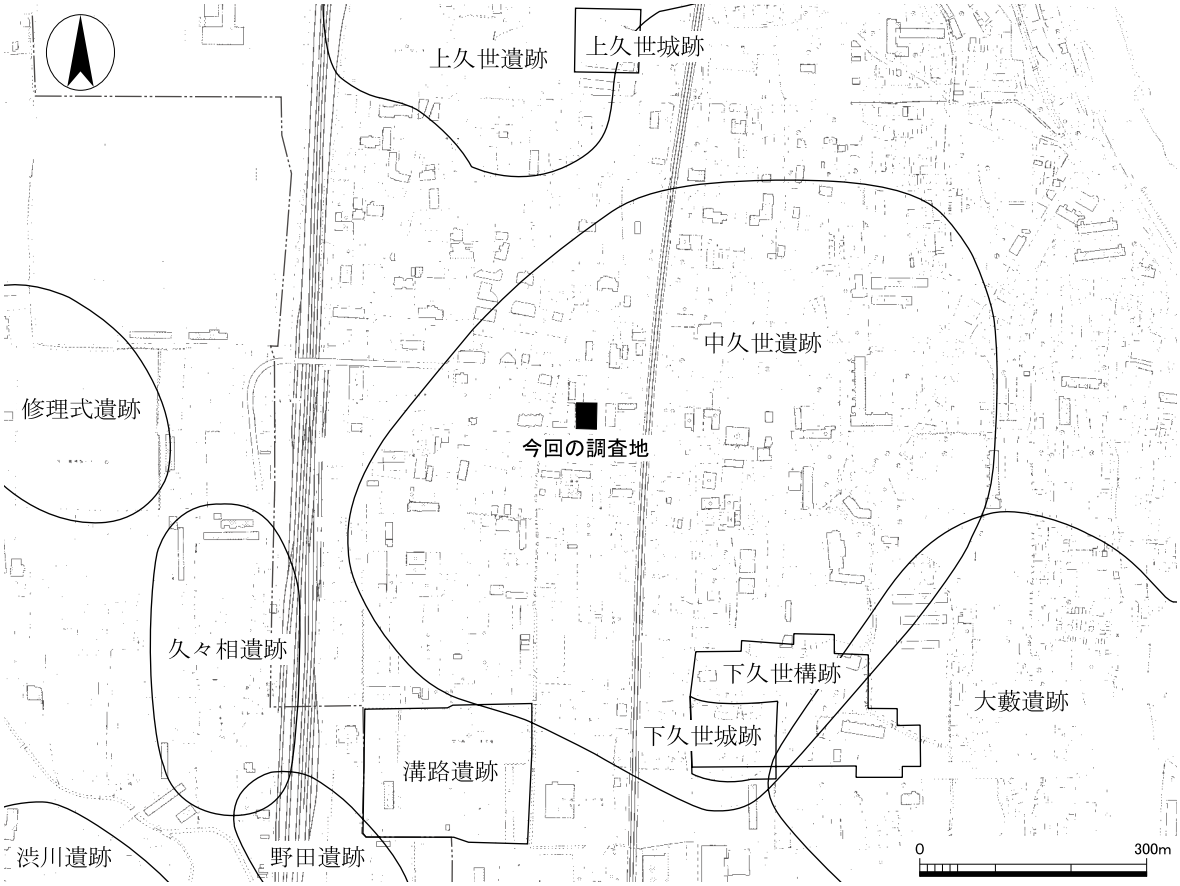


図１　調査位置図（１：10,000）

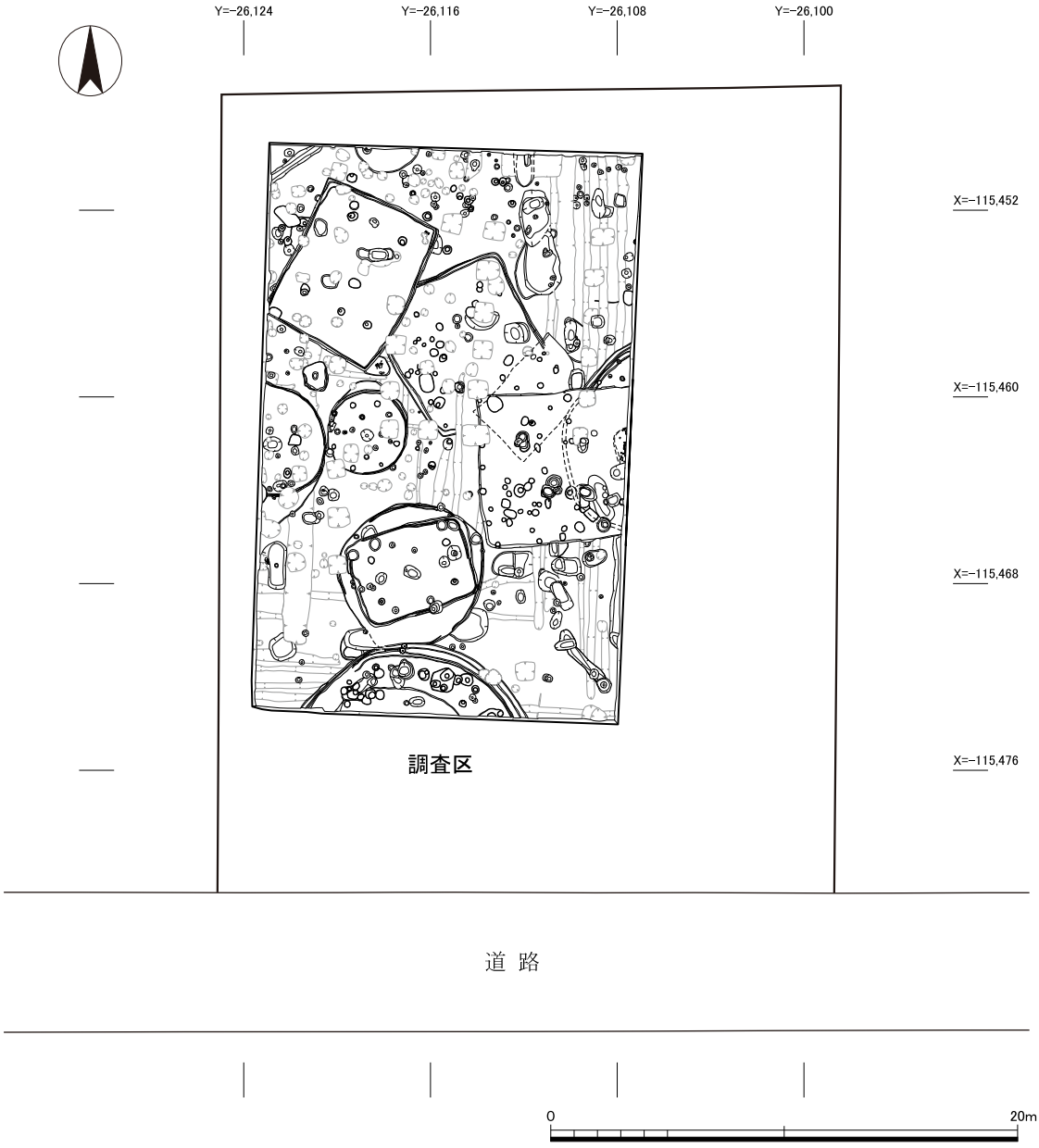


図２　調査区配置図（１：300）

図３　調査前全景（南東から）

図４　作業状況（南東から）

除去した後、人力で遺構の検出、掘り下げを行った。排土は風雨による流出を防ぐためにフレコンバッグとシートで養生した。

調査地内では、弥生時代中期から平安時代までの遺構をすべて基盤層上面で検出した。調査は、弥生時代の遺構と奈良時代以降の遺構に分けて遺構の掘り下げ・記録作業を１面２時期として行った。中でも弥生時代と奈良・長岡京期の遺構が顕著であった。弥生時代の遺構としては竪穴建物、土坑を多数検出した。奈良・長岡京期の遺構としては掘立柱建物、柱列を検出した。平安時代の遺構としては井戸を検出した。検出した遺構については、平面図および土層断面図の作成、写真撮影などの記録作業を行った。調査後は重機により埋め戻しを行い、令和６年２月２日にすべての現地作業を終了した。

調査中は適宜、文化財保護課による検査および、検証委員である龍谷大学國下多美樹教授の検証を受けた。

また、調査中および報告書作成にあたり、以下の方々から御指導・御教示を賜りました。記して感謝申し上げます。（五十音順・敬称略）

池浦里咲、伊藤淳史、梅本康広、式田　洸、高野陽子、中居和志、長友朋子、肥後弘幸、平尾政幸、村田裕介、森岡秀人、若林邦彦

２．位置と環境

（１）歴史的環境と立地

調査地は京都市南区久世中久世町にある。久世中久世町は南区の南西部にあり、桂川右岸に位置する。桂川水系の沖積地に立地しており、弥生時代から平安時代の複合遺跡である中久世遺跡の中心部に位置する。既往の調査から、調査地周辺は複数の旧流路が北西から南東方向に向かって流れており、調査地より南東方向に位置する大藪遺跡で合流すると考えられている[1)]。複数の流路から形成される微高地の上に、調査地は立地する。

調査地周辺の桂川右岸域一帯は乙訓郡と称され、調査地は乙訓郡十二条久世里にあたる[2)]。

また、調査地は長岡京の北限より約600ｍ北に位置しており、京域外ではあるものの、周辺調査では当該期の遺構も多く検出されている。

平安時代後期になると、当地一帯は久世荘として安楽寿院の荘園となる。鎌倉時代になると久世

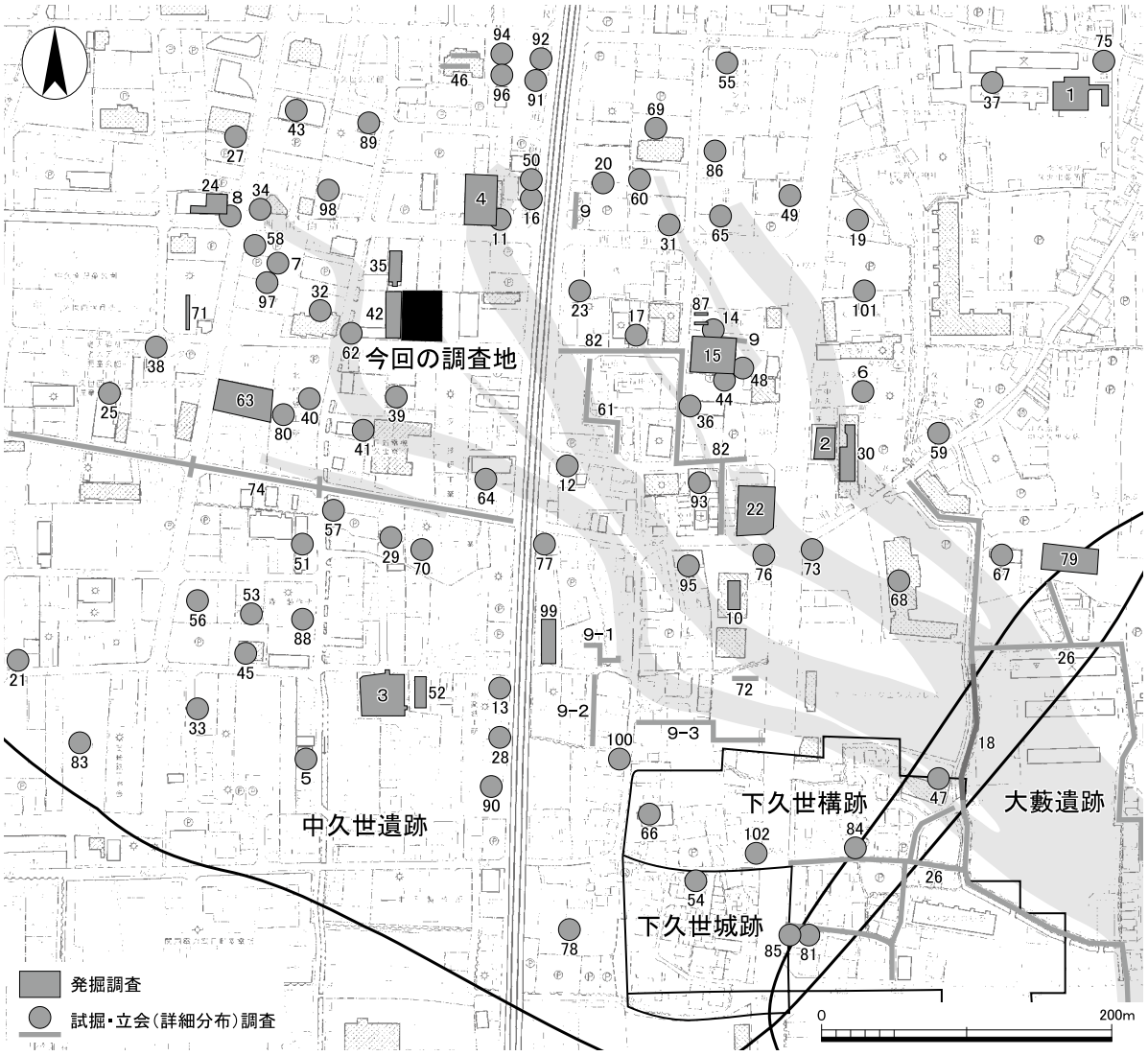


図５　周辺調査位置図（１：5,000）

荘は上久世荘・下久世荘・本久世荘（大藪荘）・東久世（築山荘）の４つに分かれ、その内上久世荘と下久世荘は、承久の乱後に北条家得宗が地頭職となった。南北朝時代になると足利尊氏によって上久世荘・下久世荘は東寺に寄進され、戦国時代末まで東寺の経済力の一端を担った[3)]。

また、下久世構や下久世城が中久世遺跡南端に造営され、中世後期には久世氏によって統治されていたと言われている[4)]。

（２）既往の調査（図５、表１）

調査地周辺では、発掘調査の数は少ないものの、試掘・立会調査は多く行われている。

弥生時代　弥生時代の遺構、遺物包含層は中久世遺跡全域で確認される。時期は弥生時代中期から後期である。中久世遺跡で多く検出されている遺構は流路跡である。弥生時代の流路と明確に報告されているのは調査２・４・９・14・15・17・20・24・26・30・31・58・72で、時期不明の流路や流れ堆積と報告されているものも加えると検出例はさらに増加する。この流路群はおおむね平安時代までに埋没している。竪穴建物は調査７・35・42で検出されている。また、調査48でも竪穴建物（報告では住居状遺構）の可能性のある遺構が検出されている。方形周溝墓は調査１・３・63・79・99で検出されている。

古墳時代　庄内式期を含めた古墳時代の遺構は、調査39・41・63・71で竪穴建物が検出されている。また、調査99では掘立柱建物が検出されている。

飛鳥時代から長岡京期　調査９－２では長岡京期の東西方向の道路側溝が８条検出されている。調査25では長岡京期の溝が検出されている。調査35では奈良時代中期から後期の掘立柱建物が検出されている。調査52・63では飛鳥時代から奈良時代にかけての掘立柱建物が検出されている。調査99では長岡京期の掘立柱建物が検出されている。中久世遺跡は長岡京の外側に位置しているものの、長岡京期あるいは長岡京期に近い時代の遺構が検出されていることがわかる。

平安時代以降　調査３では鎌倉時代の掘立柱建物が検出されている。調査63では平安時代の井戸が検出されている。調査78では平安時代後期の井戸や柱列が検出されている。調査79では室町時代の掘立柱建物が検出されている。調査81では中世の溝や柱穴が検出されている。調査85では中世の井戸が検出されている。

註

１）　図５の復元流路は『中久世遺跡発掘調査概報　平成元年度』 京都市文化市民局　1990年の図版１を引用、再トレースした。

２）『長岡京市史　本文編一』 長岡京市史編さん委員会　1996年

３）『講座　日本の荘園史　7』 吉川弘文館　1995年

４）『京都府中世城館調査報告書　第３冊　－山城編１－』 京都府教育庁指導部文化財保護課　2014年

表１　周辺調査一覧表

No.	調査方法	内　容	文　献
1	発掘	弥生時代中期の方形周溝墓。	百瀬正恒「中久世遺跡1」『昭和52年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2011年
2	発掘	弥生時代～平安時代の流路。	久世康博ほか「中久世遺跡2」『昭和52年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2011年
3	発掘	弥生時代中期の方形周溝墓と流路。平安時代、鎌倉時代の掘立柱建物。	辻 裕司「中久世遺跡」『昭和54年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2012年
4	発掘	弥生時代～平安時代の流路。流路に切られて弥生時代中期の土器と炭を含む土坑。	久世康博「中久世遺跡」『昭和56年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1983年
5	立会	GL-0.85mで時期不明の溝1条、土坑5基。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和57年度』京都市文化観光局　1983年
6	立会	GL-1.3mで古墳時代の遺物包含層、-1.7mで弥生時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和57年度』京都市文化観光局　1983年
7	試掘	GL-1.2mで平安時代後期～室町時代の柱穴・溝、弥生時代後期の竪穴建物状遺構2基。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和57年度』京都市文化観光局　1983年
8	立会	GL-0.66mで弥生時代中期～古墳時代前期の土坑、南北方向の溝。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和57年度』京都市文化観光局　1983年
9	立会	1:弥生時代の遺物包含層。2:長岡京期の条坊側溝8条と井戸。3:弥生時代～長岡京期の流路。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和58年度』京都市文化観光局　1984年
10	発掘	弥生時代の区画溝。	木下保明ほか「中久世遺跡」『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1985年
11	立会	GL-0.33mで平安時代前期の遺物包含層など。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和58年度』京都市文化観光局　1984年
12	立会	GL-0.64mで時期不明の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和59年度』京都市文化観光局　1985年
13	立会	GL-0.65mで時期不明の土坑。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和59年度』京都市文化観光局　1985年
14	試掘	GL-1.9mで北西－南東方向の弥生時代中・後期の流路。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和59年度』京都市文化観光局　1985年
15	発掘	弥生時代～鎌倉時代の流路。	吉村正親「中久世遺跡」『昭和59年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1987年
16	立会	GL-1.02mで時期不明の流路。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和59年度』京都市文化観光局　1985年
17	立会	GL-0.7mで弥生時代の流路2条、柱穴・土坑。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和60年度』京都市文化観光局　1986年
18	立会	GL-0.42mで時期不明の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和60年度』京都市文化観光局　1986年
19	試掘	GL-1.02mで時期不明の流れ堆積。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和60年度』京都市文化観光局　1986年
20	試掘	GL-0.25mで弥生時代～平安時代の東西方向の河川。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和60年度』京都市文化観光局　1986年
21	立会	GL-0.75mで時期不明の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和61年度』京都市文化観光局　1987年
22	発掘	弥生時代の溝。	上村和直「中久世遺跡1」『昭和61年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1989年
23	立会	GL-0.27mで弥生時代・長岡京期～平安時代の土坑。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和61年度』京都市文化観光局　1987年
24	発掘	弥生時代の流路。	上村和直「中久世遺跡2」『昭和61年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1989年
25	立会	1Tr. GL-0.92mで長岡京期の土坑。 2Tr. GL-1.2mで長岡京期の溝。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和61年度』京都市文化観光局　1987年
26	立会	弥生時代～平安時代の流路。	吉崎 伸「大藪遺跡・中久世遺跡」『昭和62年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1991年
27	試掘	GL-0.27mで弥生時代の湿地状堆積。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和63年度』京都市文化観光局　1989年
28	立会	GL-0.64mで時期不明の落込み。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和63年度』京都市文化観光局　1989年
29	立会	GL-0.64mで時期不明の流れ堆積。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和63年度』京都市文化観光局　1989年
30	発掘	弥生時代～長岡京期の流路。	西大條哲ほか「中久世遺跡」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1993年
31	試掘	GL-1.0mで弥生土器多量出土の流路。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和63年度』京都市文化観光局　1989年
32	立会	GL-0.75mで北西－南東方向の弥生時代の溝。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　昭和63年度』京都市文化観光局　1989年
33	試掘	GL-0.6mで時期不明の南北方向の溝。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　平成元年度』京都市文化観光局　1990年
34	立会	GL-1.45mで弥生時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　平成元年度』京都市文化観光局　1990年

No.	調査方法	内　容	文　献
35	発掘	弥生時代～古墳時代の竪穴建物、弥生時代中期の土坑、奈良時代中期～後期の掘立柱建物。	吉崎 伸「中久世遺跡」『平成元年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　1994年
36	立会	GL-0.65mで弥生時代の土坑。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　平成元年度』京都市文化観光局　1990年
37	試掘	時期不明の落込み。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　平成2年度』京都市文化観光局　1991年
38	試掘	GL-0.8mで弥生時代の土坑。	『京都市内遺跡試掘立会調査概報　平成2年度』京都市文化観光局　1991年
39	立会	GL-0.7mで古墳時代前期の竪穴建物。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成3年度』京都市文化観光局　1992年
40	立会	GL-1.02mで時期不明の遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成3年度』京都市文化観光局　1992年
41	立会	庄内式期の竪穴住居。弥生時代中期の遺物が多量に出土する土坑。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成3年度』京都市文化観光局　1992年
42	試掘	弥生時代の竪穴建物。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成3年度』京都市文化観光局　1992年
43	試掘	GL-0.7～0.8mで流路。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成3年度』京都市文化観光局　1992年
44	立会	GL-0.7mで時期不明の溝。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成4年度』京都市文化観光局　1993年
45	立会	GL-0.3mで時期不明の遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成4年度』京都市文化観光局　1993年
46	試掘	GL-0.25mで弥生時代の溝状遺構。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成5年度』京都市文化観光局　1994年
47	試掘	GL-0.6mで古墳時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成5年度』京都市文化観光局　1994年
48	立会	GL-1.8mで弥生時代の土坑・柱穴・住居状遺構。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成5年度』京都市文化観光局　1994年
49	試掘	GL-1.5mで湿地状堆積。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成5年度』京都市文化観光局　1994年
50	立会	GL-1.35mで平安時代の須恵器を含む流れ堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成6年度』京都市文化観光局　1995年
51	立会	GL-0.3mで弥生時代～古墳時代の落込み。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成6年度』京都市文化観光局　1995年
52	試掘	東西方向の弥生時代中期の溝、飛鳥・奈良時代の溝や掘立柱建物、鎌倉時代の井戸など。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成7年度』京都市文化観光局　1996年
53	立会	GL-0.58mで近世の遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成8年度』京都市文化観光局　1997年
54	立会	GL-0.53mで平安時代の土坑。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成9年度』京都市文化観光局　1998年
55	立会	GL-1.5mで時期不明の遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成9年度』京都市文化観光局　1998年
56	試掘	GL-1.7mで奈良時代の流路。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成10年度』京都市文化観光局　1999年
57	立会	GL-0.85mで弥生時代の遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成10年度』京都市文化観光局　1999年
58	立会	No.1：GL-1.3mで弥生～古墳時代の流路の西肩。 No.2：GL-1.85mで流路。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成10年度』京都市文化観光局　1999年
59	立会	No.1：GL-1.11mで古墳時代の遺物包含層。 No.1：GL-0.33mで遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成10年度』京都市文化観光局　1999年
60	試掘	GL-0.8mで溝、方形土坑。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成10年度』京都市文化観光局　1999年
61	試掘	弥生時代中期の溝、土器多量出土土坑。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成11年度』京都市文化市民局　2000年
62	立会	GL-0.52mで飛鳥時代の須恵器を含む遺物包含層、-0.6mで庄内式期の土師器を含む湿地状堆積。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成11年度』京都市文化市民局　2000年
63	発掘	弥生時代後期の方形周溝墓、古墳時代の竪穴建物、飛鳥時代～奈良時代の掘立柱建物、平安時代の井戸。	出口 勲「中久世遺跡」『平成11年度　京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2002年
64	立会	No.1：GL-0.27mで平安時代中期の遺物包含層。 No.2：GL-0.35mで古墳時代の須恵器を含む遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成11年度』京都市文化市民局　2000年
65	試掘	南下がりの弥生時代の湿地状堆積。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成12年度』京都市文化市民局　2001年
66	試掘	南北方向の溝2条。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成12年度』京都市文化市民局　2001年
67	立会	GL-0.4mで時期不明の落込み。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成12年度』京都市文化市民局　2001年
68	試掘	GL-1.4mで平安時代以降の南北溝、柱穴など。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成13年度』京都市文化市民局　2002年
69	試掘	弥生時代の湿地帯と陸部の境界付近を検出。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成14年度』京都市文化市民局　2003年
70	試掘	GL-1.0mで湿地状堆積。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成15年度』京都市文化市民局　2004年
71	試掘	GL-0.7mで古墳時代後期の竪穴建物。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成15年度』京都市文化市民局　2004年

No.	調査方法	内　容	文　献
72	試掘	弥生時代の流路。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成15年度』京都市文化市民局　2004年
73	試掘	GL-1.4mで旧西国街道に沿う溝。	『京都市内遺跡試掘調査概報　平成16年度』京都市文化市民局　2005年
74	立会	No.1：GL-1.01m、No.2：GL-0.68m、No.4：GL-0.99m、No.5：GL-0.84m、No.8：GL-1.04m、No.10：GL-0.68m、の各地点で平安時代前期の遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成16年度』京都市文化市民局　2005年
75	立会	GL-0.52mで時期不明の遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成18年度』京都市文化市民局　2007年
76	立会	No.1：GL-1.05mで時期不明の落込みを切って平安時代後期の落込み（瓦器椀など）。 No.4：GL-1.2mで時期不明の遺物包含層。 No.5：GL-0.3mで近世の遺物包含層。 No.8：GL-1.04mで平安時代前期の遺物包含層。 No.10：GL-0.68mで平安時代前期の遺物包含層。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成18年度』京都市文化市民局　2007年
77	立会	GL-0.8mで時期不明の遺物包含層（須恵器甕出土）。	『京都市内遺跡立会調査概報　平成18年度』京都市文化市民局　2007年
78	試掘	平安時代後期の井戸や柱列など。	『京都市内遺跡試掘調査報告　平成18年度』京都市文化市民局　2007年
79	発掘	弥生時代の方形周溝墓、室町時代の掘立柱建物。	平田 泰・能芝 勉『中久世遺跡・大藪遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-19　財団法人京都市埋蔵文化財研究所　2007年
80	試掘	GL-0.78mで平安時代、-1.08mで弥生時代の遺構面を確認。	『京都市内遺跡試掘調査報告　平成19年度』京都市文化市民局　2008年
81	試掘	GL-0.3mで下久世構に伴う溝・柱穴・土坑を確認。	『京都市内遺跡試掘調査報告　平成19年度』京都市文化市民局　2008年
82	立会	No.2：GL-1.0mで平安時代の遺物包含層。 No.9：GL-0.44mで弥生時代後期の土坑。 No.13：GL-0.34mで時期不明の遺物包含層、-0.56mで鎌倉時代の土坑。	『京都市内遺跡立会調査報告　平成20年度』京都市文化市民局　2009年
83	試掘	GL-1.0～1.5mで弥生時代の柱穴多数。	『京都市内遺跡試掘調査報告　平成20年度』京都市文化市民局　2009年
84	詳細分布	GL-0.16mで近世以降の遺物包含層。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成21年度』京都市文化市民局　2010年
85	試掘	中世の井戸。	『京都市内遺跡試掘調査報告　平成22年度』京都市文化市民局　2011年
86	試掘	湿地状堆積を確認、一部は陸部。	『京都市内遺跡試掘調査報告　平成22年度』京都市文化市民局　2011年
87	試掘	中世の溝、弥生時代Ⅲ様式土器出土の溝・落込み。	『京都市内遺跡試掘調査報告　平成24年度』京都市文化市民局　2013年 『京都市内遺跡試掘調査報告　平成25年度』京都市文化市民局　2014年
88	試掘	鎌倉時代の柱穴・土坑。	『京都市内遺跡試掘調査報告　平成25年度』京都市文化市民局　2014年
89	試掘	GL-0.9mで中世の遺物包含層。	『京都市内遺跡試掘調査報告　平成26年度』京都市文化市民局　2015年
90	詳細分布	GL-1.11mで黄色泥砂の流路堆積。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成27年度』京都市文化市民局　2016年
91	詳細分布	GL-0.28mで時期不明の東西溝。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成29年度』京都市文化市民局　2018年
92	試掘	時期不明の南北溝・土坑・柱穴。	『京都市内遺跡試掘調査報告　平成29年度』京都市文化市民局　2018年
93	詳細分布	GL-1.02mで時期不明の遺物包含層。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成29年度』京都市文化市民局　2018年
94	詳細分布	GL-0.36～0.64mで時期不明の東西溝。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成30年度』京都市文化市民局　2019年
95	試掘	GL-0.9mで流路。	『京都市内遺跡試掘調査報告　平成30年度』京都市文化市民局　2019年
96	詳細分布	GL-1.16mで弥生時代の溝。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成30年度』京都市文化市民局　2019年
97	詳細分布	GL-1.08mで弥生時代～古墳時代の湿地状堆積、-1.41～1.91mで河川堆積。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告　平成30年度』京都市文化市民局　2019年
98	試掘	GL-0.9mで湿地状堆積。	『京都市内遺跡試掘調査報告　平成30年度』京都市文化市民局　2019年
99	発掘	弥生時代中期前葉の方形周溝墓、古墳時代の掘立柱建物、長岡京期の掘立柱建物。	辰巳陽一・野地ますみ『中久世遺跡発掘調査報告書』 株式会社文化財サービス　2019年
100	詳細分布	GL-0.38～0.5mで時期不明の遺物包含層。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告　令和元年度』京都市文化市民局　2020年
101	試掘	GL-2.2～2.5mで時期不明の水田耕作土。	『京都市内遺跡試掘調査報告　令和2年度』京都市文化市民局　2021年
102	詳細分布	No.1：GL-0.42mで流れ堆積。	『京都市内遺跡詳細分布調査報告　令和2年度』京都市文化市民局　2021年

3．遺　　構

（1）基本層序（図版３・４）

現地表面の標高は16.8ｍで、基盤層（地山）の標高は調査区北側で16.2ｍ、調査区南側で16.0ｍである。

基本層序は、調査区南壁Y=－26,110付近の層序を基準とする。現地表面から、現代盛土、現代耕作土、近世・近代耕作土、遺物包含層１、遺物包含層２、基盤層となる。基盤層は基本的にシルトだが、砂礫が堆積する箇所もある。遺物包含層１は弥生時代から中世までの遺物を包含する。調査区東側は、土壌化した遺物包含層２が、遺物包含層１と基盤層の間に堆積する。遺物包含層２は弥生時代の遺物を包含する。奈良時代以降の遺構については、断面観察の結果、遺物包含層１・２上面で成立するものもある。

（2）弥生時代の遺構（図版１・27）

竪穴建物310（図版５・27）　調査区中央で検出した平面円形の竪穴建物である。直径3.4～3.6ｍ、深さは検出面から約0.1ｍある。周囲には壁溝が巡り、幅0.1～0.15ｍ、深さは0.05ｍある。床面直上と埋土から弥生時代中期の土器が出土した。主柱穴は６基検出した（柱穴494・526・528・531・532・630）。径0.15～0.25ｍ、深さは約0.2ｍある。中心部では炉491を検出した。直径約0.5ｍで、深さは約0.25ｍある。

竪穴建物311（図版５・28）　調査区西側で検出した平面円形の竪穴建物である。直径約4.6ｍ、深さは検出面から約0.1ｍある。西側は調査区外に続く。周囲には壁溝が巡り、幅0.1ｍ、深さは0.05ｍある。埋土から弥生時代中期の土器が出土した。主柱穴の可能性のあるものは２基検出した（柱穴346・349）。径0.2～0.5ｍ、深さは約0.45ｍある。中心部では炉485を検出した。長径約0.8ｍ、短径0.6ｍで、深さは約0.3ｍある。

竪穴建物480（図版６・28）　調査区東側で検出した平面円形の竪穴建物である。最大径約8.1ｍ、深さは検出面から約0.25ｍある。東側は調査区外に続く。周囲には壁溝が巡り、幅0.2ｍ、深さは0.05～0.1ｍある。北側のみ壁溝が二重にめぐる。埋土から弥生時代中期の土器が出土した。主

表２　遺構概要表

時　　代	遺　　構	備　　考
弥生時代中期	竪穴建物310・311・312・320・480・600、土坑205・216・240・295・309・316・318・353・400・410・497・548・562・612・617、溝572、柱穴群	
弥生時代後期	竪穴建物250・340・355・500	
奈良時代以降	掘立柱建物１・２、柱列３・４、柱穴171、井戸332、柱穴群、耕作溝群	

柱穴は３基検出した（柱穴573・587・591）。径約0.25ｍ、深さは約0.15～0.4ｍある。土坑400を削平する一方、遺構の上部は、竪穴建物355により削平されている。

竪穴建物320（図版７・29） 調査区南側で検出した平面円形の竪穴建物である。最大径約9.8ｍ、深さは検出面から約0.3ｍある。南側は調査区外に続く。北端は竪穴建物312に接し、前後関係は竪穴建物320のほうが新しい。周囲には二重に壁溝が巡り、縮小が考えられる。外側は幅0.2～0.3ｍ、深さは0.05ｍある。内側の壁溝は幅0.15～0.25ｍ、深さ0.05ｍで、西側には見られない。埋土から弥生時代中期の土器が出土した。主柱穴の可能性のあるものは５基検出した（柱穴373・421・427・434・454）。径0.3～0.6ｍ、深さは約0.35～0.5ｍある。ベッド状遺構と考えられる１段高い段を検出した。ベッド状遺構を除いた大きさは最大径5.3ｍ、ベッド状遺構の高さは床面から0.1ｍある。

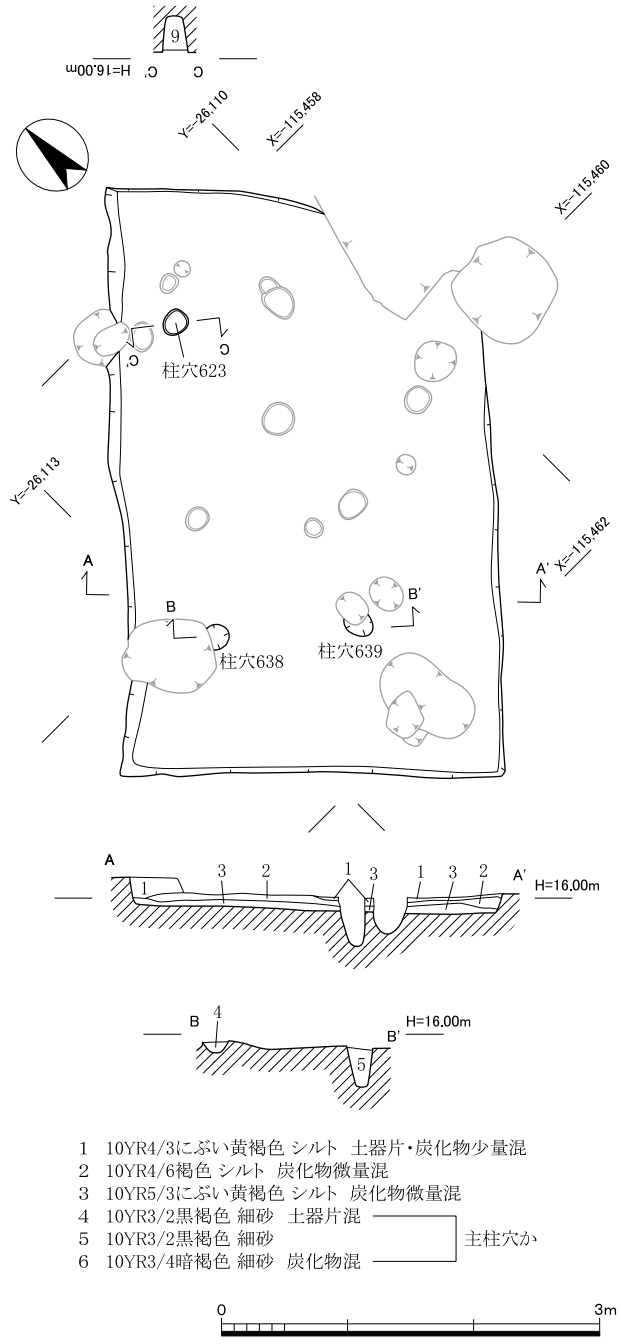


図６　竪穴建物600実測図（１：60）

竪穴建物600（図６、図版29） 調査区中央で検出した平面方形の竪穴建物である。遺構の上面が竪穴建物340・355に削平されている。また東側は土坑617に削平されている。建物の主軸方位は、北に対して東へ約45度傾く。全体の規模は長軸4.5ｍ、短軸3.0ｍの長方形を呈し、深さは検出面から約0.25ｍある。埋土から弥生時代中期の土器がわずかに出土した。主柱穴の可能性のあるものは３基検出した（柱穴623・638・639）。径約0.2ｍ、深さは約0.15～0.3ｍある。炉や壁溝などの竪穴建物に付属する遺構は確認できなかった。

竪穴建物312（図版８・30） 調査区南側で検出した平面円形あるいはややいびつな五角形の竪穴建物である。直径6.0～6.3ｍ、深さは検出面から0.03～0.1ｍある。南端は竪穴建物320に接し、わずかに削平される。周囲には壁溝が巡り、幅0.1ｍ、深さは0.05ｍある。中心部は竪穴建物500に削平されている。埋土から弥生時代中期の土器が出土した。主柱穴の可能性のあるものは４基検出した（柱穴520・523・553・554）。径約0.25ｍ、深さは0.1～0.15

mある。中心部では土坑676を検出した。長径0.75m、短径約0.5mで、深さは約0.4mある。

竪穴建物500（図版８・30） 調査区南側で検出した平面隅丸方形の竪穴建物である。建物の主軸方位は、東に対して北へ約15度傾く。全体の規模は東西約5.3m、南北約3.9mと東西に長い長方形を呈し、深さは検出面から約0.2mある。周囲には壁溝が巡り、幅0.1～0.2m、深さは0.05mある。弥生時代後期の土器が少量出土した。主柱穴は４基検出した（柱穴505・508・512・517）。径0.3～0.35m、深さは約0.15～0.2mある。

竪穴建物340（図版９・30） 調査区中央で検出した平面隅丸方形の竪穴建物である。西隅と東隅はそれぞれ竪穴建物250・355に削平を受けている。建物の主軸方位は、北に対して西へ約28度傾く。全体の規模は東西約6.1m、南北約6.5mと南北に長い長方形を呈し、深さは検出面から約0.1mある。周囲には壁溝が巡り、幅0.1～0.25m、深さは0.05～0.1mある。弥生時代中期の土器がわずかに出土した。主柱穴の可能性のあるものは３基検出した（柱穴333・555・558）。径0.3～0.6m、深さは約0.1～0.6mある。中心部には炉550を検出した。直径0.4mで、深さは約0.2mある。焼土塊が南肩部に浅く残る。

竪穴建物355（図版10・31） 調査区東側で検出した平面隅丸方形の竪穴建物である。建物の主軸方位は、東に対して北へ約2.8度傾く。全体の規模は東西約6.5m以上、南北約6.5mと東西に長い長方形を呈し、深さは検出面から約0.2mある。西辺と南辺には壁溝が巡り、幅0.1～0.3m、深さは0.05～0.1mあることを断面から確認した（Ａ－Ａ’、Ｂ－Ｂ’の第３層）。弥生時代後期の土器がわずかに出土した。主柱穴の可能性のあるものは２基検出した（柱穴375・391）。径0.6m、深さは約0.2mある。炉状の施設は認められなかったが、焼土を部分的に確認した。また、土坑379からは弥生時代後期の土器が出土した。

竪穴建物250（図版11・31） 調査区北西部で検出した平面隅丸方形の竪穴建物である。建物の主軸方位は、北に対して東へ約27度傾く。全体の規模は東西約5.5m、南北約6.7mと南北に長い長方形を呈し、深さは検出面から約0.2mある。周囲には壁溝が巡り、幅0.1～0.2m、深さは0.05～0.1mある。厚さ約0.03mの貼床を行う（Ａ－Ａ’、Ｂ－Ｂ’の第７層）。床面直上と埋土から弥生時代後期の土器が多量に出土した。主柱穴は４基検出した（柱穴359・360・459・483）。径0.3～0.5m、深さは約0.2～0.3mある。中心部では炉431を検出した。長径約0.5m、短径約0.4mで、深さは約0.15mある。

土坑309（図版12・32） 調査区南西部で検出した長楕円形の土坑である。遺構の主軸は正方位である。長径2.0m、短径0.7～1.0m、深さ0.4mある。下部は炭化物や焼土ブロックが少量混じった土で埋まり（第４～６層）、その後炭化物が全面的に堆積する（第３層）。上部は炭化物、焼土、土器が多く混じる土で埋まる（第２層）。炭化物には、広葉樹散孔材、イネ、被熱した骨片を含む。埋没後、中央に径0.15m、深さ0.55mのピットが成立する。

土坑316（図版12・32） 調査区南側で検出した長楕円形の土坑である。遺構の主軸方位は、東に対して南へ約6.5度傾く。長径1.8m、短径0.9m、深さ0.35mある。弥生時代中期の土器片が少量出土した。竪穴建物312の壁溝に破壊される。

土坑295（図版12・32） 調査区西側で検出した不定形の土坑である。南北1.2ｍ、東西1.0ｍ、深さ0.35ｍある。中央が１段下がり、中央が凹むようにレンズ状に堆積する。第１層に広葉樹散孔材をはじめとする炭化物・焼土ブロックを多く含む。弥生時代中期の土器片が少量出土した。

土坑497（図版12） 調査区東側で検出した長楕円形の土坑である。遺構の主軸方位は、北に対して西へ約17度傾く。長径2.0ｍ、短径0.7ｍ、深さ0.3ｍある。上面は竪穴建物355・480に削平される。埋土の炭化物は少量である。弥生時代中期の土器片が少量出土した。

土坑240・612（図７、図版33） 調査区北側で検出した長楕円形の土坑である。一部が重複しており、土坑612が古く、土坑240のほうが新しい。遺構の主軸は正方位である。

土坑240は長径2.4ｍ、短径1.4ｍ、深さ0.4ｍある。北側が１段下がる。第１層で炭化物と弥生時代中期の土器片が中量出土した。

土坑612は長径2.8ｍ、短径1.9ｍ、深さ0.6ｍある。中央にかけて緩やかに堆積する。炭化物は少なく、弥生時代中期の土器片が少量出土した。

土坑216（図版13） 調査区北側で検出した長楕円形の土坑である。北側は調査区外に伸びる。遺構の主軸は正方位である。長径1.3ｍ、短径0.8ｍ、深さ0.3ｍある。北から南にかけて堆積する。第１層に炭化物を含み、弥生時代中期の土器片が中量出土した。

土坑318（図版13・32） 調査区南側で検出した不定形の土坑である。遺構の主軸は正方位であり、東西方向に長い。長径2.2ｍ、短径1.4ｍ、深さ0.45ｍある。上面西半は竪穴建物312に削平される。埋土はレンズ状に堆積する。第３層に炭化物・焼土ブロックを多く含む。弥生時代中期の土器片が少量出土した。

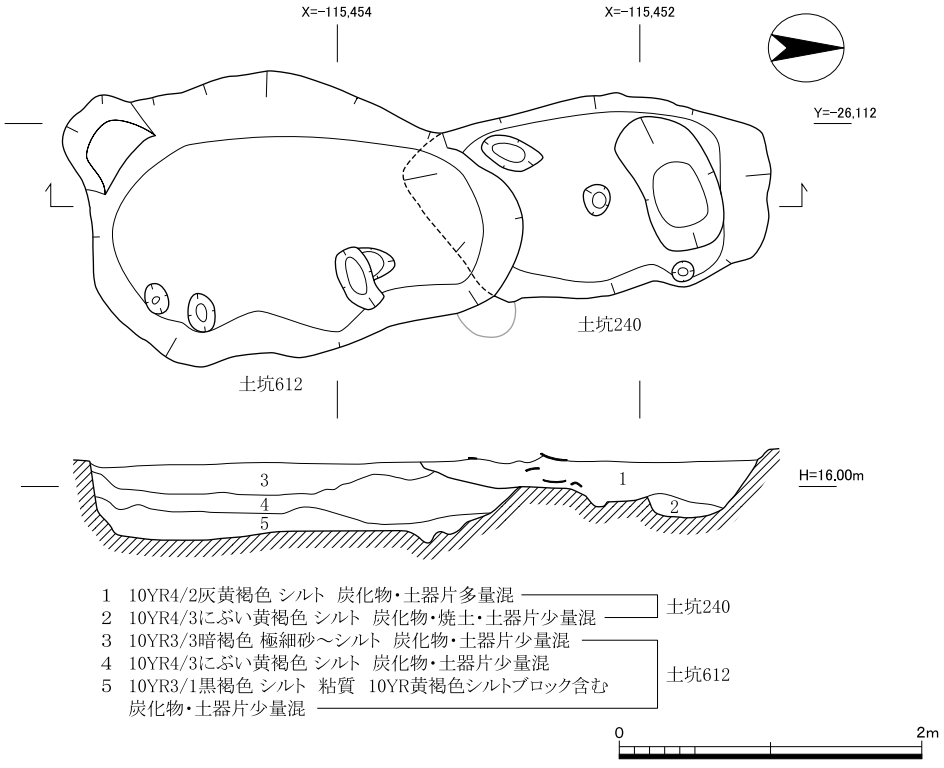


図７　土坑240・612実測図（１：50）

土坑410（図版13） 調査区で東側で検出した長楕円形の土坑である。遺構の上面は竪穴建物355に削平されている。遺構の主軸は正方位である。長径1.8ｍ、短径0.4ｍ、深さ0.25ｍある。弥生時代中期の土器片が少量出土した。

土坑400（図版13・33） 調査区東側で検出した長楕円形の土坑である。東側は調査区外に伸びる。遺構の主軸方位は、北に対して西へ約17度傾く。遺構上面は竪穴建物480に削平されている。長径1.4ｍ、短径0.5ｍ、深さ0.4ｍある。南から北に下がるように堆積する。第３層は炭化物が多量に含まれており、内容は針葉樹ヒノキ科、広葉樹散孔材、同放射孔材などが含まれる。第１層と第３層で弥生時代中期の土器片が多量出土した。また、シカの右足根骨が出土した。

土坑353（図版13・33） 調査区東側で検出した長楕円形の土坑である。遺構の主軸は正方位である。長径1.3ｍ、短径0.5ｍ、深さ0.6ｍある。下部は炭化物や焼土ブロックが少量混じった土で埋まり（第３～６層）、その後炭化物が全面的に堆積する（第２層）。第１層に炭化物は認められない。弥生時代中期の土器片が微量出土した。

土坑617（図版13） 調査区東側で検出した長楕円形の土坑である。遺構の主軸は正方位である。長径1.1ｍ、短径0.7ｍ、深さ0.35ｍある。竪穴建物600を削平する一方、南側は竪穴建物355に削平される。東から西に下がるように堆積する。埋土の炭化物は少ない。弥生時代中期の土器片が微量出土した。

土坑548 調査区北西部で検出した不定形の土坑である。遺構の西側は竪穴建物250に削平される。長径0.7ｍ、短径0.5ｍ、深さ0.4ｍある。弥生時代中期の土器と石器が出土した。

土坑205（図版13・33） 調査区北東部で検出した長楕円形の土坑である。遺構の主軸は正方位である。長径1.3ｍ、短径0.5ｍ、深さ0.5ｍある。炭化物を多く含む埋土からは、弥生時代中期の土器片が少量出土した。

土坑562（図版13） 調査区南東部で検出した長楕円形の土坑である。遺構の主軸方位は、北に対して西へ約31.7度傾く。長径1.3ｍ、短径0.5ｍ、深さ0.3ｍある。北西から南東に向かって緩やかに下がりながら堆積する。第２層に炭化物を多く含む。弥生時代中期の土器片が少量出土した。

溝572 調査区南東で検出した南北方向の溝である。遺構の主軸は正方位である。北側は竪穴建物355に削平される。長径5.0ｍ、短径0.5ｍ、深さ0.3ｍある。碧玉の剥片が出土した。

柱穴群 調査区全域で多数検出した。平面形は円形で、深さは0.1～0.8ｍと多様である。いずれの柱穴からも弥生土器片が出土した。柱穴381からは弥生時代中期の高杯が出土した。また、柱穴342・392・424からは石器・土錘が出土した。

（３）奈良時代以降の遺構（図版２・34）

掘立柱建物１（図版14・34） 調査区中央で検出した南北棟の掘立柱建物である。規模は梁行２間、桁行５間で、柱間は梁行1.95ｍ（６尺５寸）、桁行1.8ｍ（６尺）である。方位は北に対して東へ約5.2度傾く。柱穴の掘形は一辺0.7～1.1ｍの隅丸方形で、深さは0.2～0.7ｍである。柱痕跡は径0.2～0.3ｍである。掘形から奈良・長岡京期の遺物が出土した。

掘立柱建物２（図版15・35） 調査区南西部で検出した南北にやや長い掘立柱建物である。規模は梁行２間、桁行２間で、柱間は梁行1.65ｍ（５尺５寸）、桁行1.95ｍ（６尺５寸）である。方位は北に対して東へ約1.8度傾く。柱穴の掘形は一辺0.65～0.9ｍの隅丸方形で、深さは0.3～0.4ｍである。柱痕跡は径0.2ｍである。掘形から奈良・長岡京期の遺物が出土した。

柱列３（図版16・35） 調査区北西部で検出した南北方向の柱列である。検出長は7.5ｍで、柱間は2.1ｍ（７尺）、1.95ｍ（６尺５寸）、1.5ｍ（５尺）があり、不等間である。方位は北に対して東へ約１度傾く。また、柱穴９・20は、それぞれ柱穴10・21と重複していることから、一部の柱は建て直しが考えられる。柱穴の掘形は一辺0.4～0.8ｍの隅丸方形あるいは長方形で、深さは0.18～0.45ｍである。柱痕跡は径0.1～0.2ｍである。

柱列４（図版16） 調査区北東部で検出した南北方向の柱列である。検出長は8.75ｍで、柱間は2.1ｍ（７尺）、1.8ｍ（６尺）、1.5ｍ（５尺）、1.35ｍ（４尺５寸）があり、不等間である。方位は北に対して東へ約6.4度傾く。0.6～1.0ｍの隅丸方形で、深さは0.2～0.6ｍである。柱痕跡は径0.2～0.3ｍである。掘立柱建物１の東に位置し、柱穴の規模や主軸の方向が類似する。

柱穴171 調査区南部で検出した。掘形は一辺0.9ｍの隅丸方形で、深さは0.5ｍである。単独で成立しており、建物を構成する柱穴は周囲に確認できなかった。奈良・長岡京期の遺物が出土した。

井戸332（図版15・35） 調査区南壁東側で検出した井戸である。遺物包含層２上面で成立している。検出規模は、掘形最大径1.1ｍ、深さ0.8ｍである。第２層は井戸枠の痕跡と考えられる。掘形の最下層に径0.35ｍの曲物を据え、掘形第５層を埋める。その後井戸枠を据えて掘形第４層を埋める。曲物の中から黒色土器椀が正位置で出土した。

柱穴群 調査区全域、特に調査区西部で多数検出した。平面形は円形のものと隅丸方形のものがある。深さは0.2～0.8ｍと多様である。いずれの柱穴からも土器が出土した。柱穴52・293からは石器・土錘が出土した。

耕作溝群 調査区全域で素掘りの小溝を検出した。遺物包含層１上面で成立している。南北方向の溝は、基本的には正方位のものと、北で東にやや傾くものがある。東西方向の溝はそれらに直交する。弥生時代から中世の遺物を包含する。また、耕作溝176からは石器・土馬が出土した。

４．遺　　物

（１）遺物の概要

遺物は整理コンテナにして113箱出土した。出土遺物には、土器類、石器、土製品、瓦類があり、全体の９割を土器類が占める。

土器類には、弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・瓦器がある。石器には、打製石鏃・磨製石鏃・石包丁・石剣・石錐・石鋸・碧玉剥片・扁平片刃石斧・太型蛤刃石斧・台石・敲石・砥石・不明石器がある。土製品には、土錘・土馬・把手付円面硯がある。瓦類には、丸瓦・平瓦がある。

遺物の時期は、弥生時代から平安時代まで各時期のものがある。弥生時代の遺物が８割を占め[1)]、次いで奈良・長岡京期の遺物が多い[2)]。

以下では遺物種別に概要を述べる。各遺物の詳細については付表にまとめた。

（２）土器類（付表１）

弥生時代の土器

土坑309出土土器（図版17・36　１～５）　１は壷の体部で、ミガキののちに櫛描波状文を施す。２～５は甕である。２は口縁部内面に粗いヨコハケが見られる。３は底部で、外面はタテハケである。木葉痕が残る。４は底部で、外面にわずかにタタキが見られる。底部は焼成前に両方向から穿孔されている。５は如意形の口縁部である。外面はタテハケである。口縁部内面はヨコハケで、体部内面はユビナデののち、一部縦方向の板ナデを施す。弥生時代中期前葉から中葉（Ⅱ～Ⅲ－１様式）である。

土坑318出土土器（図版17・36　６・７）　６・７は甕である。６はくの字状に外傾する。両面とも摩滅が著しい。口縁部は外反気味に立ち上がる。外面はタテハケ、口縁部内面はナデを施す。７は口縁部が肥厚して外反する。外面はタテハケ、口縁部内面はヨコハケである。弥生時代中期中

表３　遺物概要表

時　代	内　　容	コンテナ箱数	Ａランク点数	Ｂランク箱数	Ｃランク箱数
弥生時代	弥生土器、土製品、石器		弥生土器120点、土製品４点、石器38点		
奈良・長岡京期	土師器、須恵器、黒色土器、土製品		土師器１点、須恵器10点、土製品３点		
平安時代～中世	黒色土器、緑釉陶器、瓦器、瓦類		黒色土器１点		
合　計		129箱	177点（14箱）	15箱	100箱

※　コンテナ箱数の合計は、整理後、Ａランクの遺物を抽出したため、出土時より16箱多くなっている。

葉（Ⅲ－１様式）である。

土坑216出土土器（図版17・36　8～12）　8～10・12は甕である。体部外面はタテハケ、口縁部内面はヨコハケを施す。8・9の口縁部はゆるやかに外反し、10・12の口縁部はくの字状に外傾する。12は口縁端部が少し垂下し、櫛描波状文を施す。11は壷の底部である。外面はタテハケを施し、底部接地面近くはユビオサエを施す。弥生時代中期中葉（Ⅲ－１様式）である。

土坑497出土土器（図版17　13）　13は甕である。如意形の口縁部で、口縁端部には刻目がめぐる。外面はタテハケである。口縁部内面はヨコハケで、体部は板状工具で斜め方向のナデを施す。底部に木葉痕が残る。弥生時代中期中葉（Ⅲ様式）である。

土坑316出土土器（図版17・36　14～18）　14は甕である。如意形の口縁部で、外面はタテハケ、口縁部内面はヨコハケ、体部内面は指ナデを施す。15～18は壷である。15は口縁部内面に４条１単位の櫛描直線文がめぐる。その内側に内面突起が付く。16は口縁部内面に４条１単位の櫛描直線文を縦方向に施す。櫛描直線文の間に内面突起が付く。外面は５条１単位の櫛描直線文を４段以上施す。17は口縁部内面に２条１単位の櫛描波状文がめぐり、その内側に内面突起が付く。18は３条１単位の櫛描きで、上から波状文、直線文、波状文、直線文がめぐる。弥生時代中期中葉（Ⅲ－１様式）である。

土坑295出土土器（図版18　19～21）　19・21は甕である。19は口縁部が緩やかに外反する。外面はタテハケ、口縁部内面はヨコハケである。21は底部で、外面タテハケ、内面ユビオサエである。木葉痕が残る。20は壷である。外面は摩滅して調整不明である。口縁部内面はヨコハケである。弥生時代中期中葉（Ⅲ様式）である。

土坑612出土土器（図版18　22）　22は壷である。口縁端部上端に刻目文を施す。弥生時代中期中葉（Ⅲ様式）である。

土坑240出土土器（図版18・36　23～26）　23～25は甕である。23は波状口縁部をもつ近江系である。外面は櫛描直線文を、内面は櫛描波状文を施す。24はくの字状に外傾する。外面はタテハケ、口縁部内面はヨコハケを施す。25はゆるやかに外反する。口縁端部に刻目文を施す。外面はタテハケを、口縁部内面はヨコハケを施す。26は壷の底部である。内外面ともタテハケを施す。弥生時代中期中葉（Ⅲ様式）である。

土坑410出土土器（図版18・36　27）　27は甕である。口縁部はゆるやかに外傾する。外面はタテハケで、口縁部内面はヨコハケである。体部外面には煤が、体部内面下部には炭化物が付着する。弥生時代中期中葉（Ⅲ様式）である。

竪穴建物311出土土器（図版18　28・29）　28は甕である。口縁端部に刻目をもち、内面はヨコハケである。29は壷の頸部である。８条１単位の櫛描直線文が４段見られる。弥生時代中期中葉（Ⅲ様式）である。

竪穴建物310出土土器（図版18・36　30・31）　30は甕である。波状口縁をもつ近江系である。口縁端部外面に面を作る。面にはヨコハケを施す。体部外面はタテハケ、口縁部内面はヨコハケである。底部は被熱している。31は摂津地域の鉢である。口縁端部外面に刻目文がめぐる。刻目文の

下には、２条の刻目突帯をめぐらせ、２個１対の棒状浮文が付く。体部は、全体に縦方向のミガキを施し、その上から６条１単位の櫛描きで波状文、直線文、波状文、直線文を施す。内面は風化が著しい。弥生時代中期中葉（Ⅲ－２様式）である。

土坑400出土土器（図版19・20・37・38　32～74）　32～48は壷である。口縁部は外反するもの（32～39・41・42）と、直線的に立ち上がるもの（40）がある。口縁部が外反するものについては、口径が12～13cm前後（32～34）、約17cm（35）、20～21cm（36・37・41・42）、約24cm（38・39）に分かれる。口縁端部の厚さについては、肥厚しないもの（32～34・36）、肥厚して両端が広がるもの（35・37・39・41・42）、肥厚せずに垂下するもの（38）に分かれる。口縁端部の装飾は、無文（32・34）、上端に刻目文（33・36・41）、両端に刻目文（35・37）、１段の刺突文（42）、２段の刺突文（38）、円形浮文（38）、斜格子文（39）がある。口縁部内面の装飾については、突起を有するもの（35）、扇形文（38）を施すものがある。体部外面はタテハケののちに装飾を施す。頸部には、櫛描直線文（41）、櫛描波状文（32・42）、突帯を巡らせるもの（43・44）がある。45は壷の底部である。外面はタテハケ、内面はハケとユビオサエである。46～48は壷の体部である。46・47は櫛描直線文の上下に斜格子文を施す。48は櫛描波状文の上から円形浮文を施す。49は細頸壷である。外面はタテハケののちに、上から９条１単位の櫛描きで波状文、直線文２段を施す。50は直口壷である。口縁端部に刻目文を施す。口縁部外面には二重の櫛描波状文を施す。51・52は無頸壷である。52は口縁端部に斜格子文を施し、その上から２個１対の円形浮文を貼り付ける。頸部には突帯がめぐり、爪で刻目を付ける。その下には６条１単位の櫛描直線文を施す。53は台付壷あるいは鉢の脚部である。外面には縦方向のミガキを施す。54～64は甕である。口径は17～21cmのもの（54～56）と、28cm前後のもの（57～61）がある。口縁部の形状は、丸く外反するもの（54～56・58・60）と、くの字状に外傾するもの（57・59・61）と、近江系の波状口縁をもつもの（62）がある。口縁端部の装飾には、無文のもの（57）、刻目文（56・59・60）、櫛描波状文（58）、刺突文（61）がある。外面はタテハケである。内面は、口縁部はヨコハケがほとんどで、頸部以下の調整はヨコハケ、ナナメハケ、板ナデなどがある。底部には木葉痕を残すものもある（64）。65～67は高杯の口縁部、68～72は高杯の脚部である。73は蓋のつまみである。74は蓋で、円形透かし孔が開く。以上の土器の中には、精良で白色の胎土を持つものが多い。これらの土器は、乙訓地域で産出されるものではなく、搬入品と考えられる。38・40・41・43・44・46～48・50・52・57・61が該当する。播磨からのものか。弥生時代中期中葉（Ⅲ－２様式）である。なお、細片のため図化できなかったが、水差も出土した。

土坑205出土土器（図版21　75・76）　75は受口壷である。口縁部に４条の凹線文を施す。頸部には突帯が付く。76は壷である。口縁部には３条の凹線文ののちに４条１単位の縦方向の櫛目文を施す。弥生時代中期後葉（Ⅳ－１様式）である。

竪穴建物312出土土器（図版21　77～81）　77は受口状口縁をもつ近江系の甕である。口縁部外面には４点１単位の刺突列点文がめぐる。78は壷あるいは高杯の口縁部である。口縁に３条の凹線文を施す。79は高杯の脚部である。外面に３条の凹線文を施す。内面はケズリ調整である。80は

高杯の脚部である。中空である。81は器台の脚部と考えられる。外面には突帯と凹線文、羽状刺突文を施す。弥生時代中期後葉（Ⅳ－２様式）である。

竪穴建物320出土土器（図版21　82～84）　82は高杯の口縁部と考えられる。２条の凹線文を施す。83は壷である。口縁に３条の凹線文を施す。84は甕である。受口状口縁をもつ近江系である。外面は摩滅が著しい。口縁部には斜め方向のハケ目が見られる。内面は４点１単位の刺突列点文がめぐる。弥生時代中期後葉（Ⅳ－２様式）である。

竪穴建物600出土土器（図版21　85～89）　85～87は壷である。85は口縁部内面はヨコハケである。86は口縁端部両端に刻目を施し、１条の凹線文がめぐる。87は底部で、外面は縦方向のミガキを施す。内面はユビオサエである。木葉痕が残る。88・89は甕である。88は口縁端部がわずかに垂下する。外面はタテハケ、口縁部内面はヨコハケである。89は口縁部外面に波状文を施す。外面はタテハケである。弥生時代中期後葉（Ⅳ様式）である。

柱穴381出土土器（図版21　90）　90は高杯の脚部である。５方向に円形透かし孔が開く。外面はタテハケ、脚部内面はケズリである。

土坑562出土土器（図版21・38　91～95）　91～95は甕である。91は口縁部が肥厚し、１条の凹線文を施す。体部外面は平行タタキののちに刺突列点文を施す。92は外面はタテハケ、内面はヨコハケを施す。93は口縁端部がやや肥厚して、１条の凹線文がめぐる。体部外面は右下がりのタタキののちにタテハケを施す。内面は口縁部がヨコナデ、体部がタテハケを施す。外面に煤が付着する。94は底部に木葉痕が残る。95は外面にタテハケを施す。底部が中央が上方にへこむ。弥生時代中期後葉（Ⅳ－２様式）である。

竪穴建物500出土土器（図版21　96～98）　96・97は甕の口縁部である。96は近江系で、受口状の口縁部で端部はつまみ上げる。外面には４点１単位の刺突列点文を施す。内面は、口縁部はヨコナデ、頸部以下はハケを施す。97はくの字状口縁で、端部は立ち上がる。外面は右上がりのタタキで、内面はヨコナデである。胎土に角閃石が見られ、生駒山西麓産である。98は高杯の脚部である。裾が広がり、３方向に円形透かし孔が開く。外面は縦方向のミガキを施す。内面にはしぼった痕跡が見られる。弥生時代後期中葉（Ⅴ－３・４様式）である。

竪穴建物355出土土器（図版21　99・100）　99は甕である。受口状口縁をもつ。端部はつまみ上げる。100は高杯の脚部である。外面は縦方向のミガキを施す。内面にはしぼった痕跡が見られる。

土坑379出土土器（図版21　101・102）　101は近江系の甕で、受け口状口縁をもち、底部は中央が上方にへこむ。体部外面には直線文と刺突列点文を施す。内外面ともにハケ調整を施す。102は壷あるいは鉢の底部である。両面ともに摩滅している。外面はタテハケ、内面はヨコハケである。

竪穴建物250出土土器（図版22・23・38・39　103～120）　103は台付鉢である。脚部をユビオサエで作る。104は有孔鉢である。焼成前に内面側から穿孔される。器面は摩滅が著しい。105・106は器台である。105は口縁端部に４条の擬凹線文を施す。106は脚部のみで、直線的に伸び、縦

方向のミガキを施す。３方向に円形透かし孔が開く。107・108は高杯である。107は口縁部に２条の擬凹線文を施す。108は中空で、内部に刺突痕が見られる。109～118は甕である。109～113は受口状口縁をもつ。109は体部外面に斜め方向のハケと、頸部内面に横方向のハケを施す。110は口縁部に刻目文を、体部外面に５条１単位の櫛描直線文を施す。111は口縁部に刻目文を、頸部はタテハケののちに２条１単位の櫛描直線文を施す。体部は上から４条１単位の櫛描直線文、10点１単位の刺突列点文、10条１単位の上向き連弧文、10条１単位の櫛描波状文を施す。体部下半はタテハケである。体部内面は粗いヨコハケである。112も口縁部が外反気味に立ち上がる。口縁部に刻目文、頸部に５条１単位の櫛描直線文、３点１単位の刺突列点文を施す、最大径より上は細かいハケで、下は縦方向のミガキを施す。内面はハケが見られる。113は口縁部に３点１単位の刺突列点文を、体部はハケののち、上から複帯直線文、刺突列点文（６点１単位）、タテハケを最大径までに施す。内面は頸部に横方向のハケを、体部に粗いハケが見られる。114～116は口縁部がくの字状に外傾する。114は内面はナデである。また、外面は右上がりのタタキののちハケを施す。115・116は内外面ともにハケである。117は底部で木葉痕が残る。118は底部で内外面ともにタテハケを施す。底部の中央が上方にへこむ。119は壷の底部である。120は直口壷である。体部外面上半はタタキののち、右上がりのハケである。下半はタテハケとヨコハケである。弥生時代後期後葉（Ⅴ－５・６様式）である。

奈良・長岡京期の土器

掘立柱建物１出土土器（図版23　121・122）　121は須恵器杯Ｂ。高台端部は外側へ広がる。122は須恵器杯Ａである。

掘立柱建物２出土土器（図版23　123～126）　123は須恵器蓋。自然釉が外面に厚くかかる。124は須恵器杯Ａ。125・126は須恵器杯Ｂで、いずれも底部のみ残る。

その他出土土器（図版23・39　127～131）　127は土師器皿Ａである。摩滅が著しいが、ヘラケズリ調整と見られる。口縁端部を上方へつまみ上げる。包含層掘下げ時に出土した。128は須恵器杯Ａ。柱穴126から出土した。129は須恵器杯Ｆ。底部から体部にかけて明確な屈曲部を持たず、丸く立ち上がり、口縁部は外反する。外面に薄く自然釉がかかる。柱穴12から出土した。130は須恵器杯Ｂである。高台は方形に近い。131は須恵器鉢である。焼成不良で軟質である。130・131は柱穴171から出土した。

平安時代の土器

井戸332出土土器（図版23・39　132）　132は黒色土器椀。両面が黒色のＢ類である。両面ともに緻密なミガキを施し、見込みにはジグザグの暗文が見られる。口縁端部には沈線を施す。

（3）石器（付表２）

打製石鏃（図版24・40　石１～９）　10点出土し、９点を図化した。石材はサヌカイトと粘板岩がある。平基式、凹基式、凸基無茎式、凸基有茎式、未成品に分類できる。

石１～３は平基式である。石４は凹基式である。柱列３から出土した混入品である。石５～７は凸基無茎式である。石６は横断面が円形に近い。石８は凸基有茎式である。先端が欠けている。石９は未成品である。凸基有茎式で、鏃身が約7.5㎝で、茎も含めると9.3㎝ある。

磨製石鏃（図版24・40　石10～12）　３点出土した。石材は粘板岩である。石鏃の矢柄を装着する基部の形状が判別できる２点については、平基式、凸基式に分類できる。石11は平基式である。鏑があり、横断面は菱形を呈する。石12は凸基式である。横断面は扁平である。

石包丁（図版24・40　石13～21）　18点出土し、６点図化した。石材は粘板岩である。石13は２方向に刃部をもつ。剥片および未成品は13点出土し、未成品３点を図化した（石19～21）。

磨製石剣（図版25・42　石22・23）　２点出土した。いずれも小片で、全長は不明である。石材は粘板岩である。石22は断面が菱形である。石23は銅剣を模倣した樋が見られる。

石錐（図版25・42　石24・25）　２点出土した。石材はサヌカイトである。石24は頭部をもち、頭部の断面は三角形である。

石鋸（図版25・42　石26）　１点出土した。石材は紅簾片岩である。刃部は摩滅している。

碧玉剥片（図版25・42　石27）　１点出土した。２方向に分割溝が見られる。

不明石器（図版25・42　石28）　両端が尖り、中央にかけて細くなる。縄文時代の両頭尖頭器に似る。石材はサヌカイトである。

扁平片刃石斧（図版25・41　石29・30）　３点出土し、２点図化した。石29は小型の長方形で、刃部に擦痕が見られる。石材は砂岩質である。石30は緑色岩類である。

太型蛤刃石斧（図版25・41　石31・32）　２点出土した。２点とも刃部が摩耗している。石31は閃緑岩である。石32は深成岩で、赤色顔料状の粒子が付着している。

台石（図版25・41　石33）　１点出土した。石材は深成岩類である。敲打痕が見られる。また、部分的に被熱しており、赤変している。

敲石（図版25・41　石34・35）　３点出土し、２点図化した。石34は砂岩で、側面に敲打痕が見られる。石35は斑れい岩で、敲打痕が全体に見られる。

砥石（図版26・41　石36～38）　４点出土し、３点図化した。石材はいずれも砂岩質で、形状は角柱状のものと不定形なものがある。擦痕が部分的に残る。

（４）土製品（付表３）

土錘（図版26・42　土１～５）　５点出土した。後世の遺構に混入したものや、遺構検出時などの出土が多い。管状土錘である。土１は土師質で大型である。竪穴建物250から出土した。土２は土師質で、胎土には粒径の大きい石粒が多く混じる。重機掘削中に出土した。土３は土師質で両端がすぼまる。遺構検出中に出土した。土４は土師質で小型である。柱穴342から出土した。土５は須恵質である。柱穴52から出土した。

土馬（図版26・42　土６）　１点出土した。下半身が部分的に残る。耕作溝176から出土した。

円面硯（図版26・42　土７）　須恵器の把手が付く中空の円面硯である。硯面は摩耗しており、朱が付着している。掘立柱建物１の柱穴47から出土した。

註

１）　弥生土器の型式については、森岡秀人「山城地域」『弥生土器の様式と編年』近畿編Ⅱ　木耳社　1990年に準拠した。また、以下の文献も参考にし、協力者各位にご教示を賜った。
　　國下多美樹「山城地域における中期弥生土器編年　－搬入土器と地域色を中心に－」『第11回近畿地方埋蔵文化財研究会資料』　近畿地方埋蔵文化財研究会　1993年。
　　藤井　整「山城地域における弥生時代中期の編年」『京都府埋蔵文化財論集　第４集　－創立二十周年記念誌－』　財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター　2001年。
　　若林邦彦「各地の弥生土器及び並行期土器群の研究　４近畿」『弥生土器』考古学調査ハンドブック12　ニューサイエンス社　2015年。

２）　奈良・長岡京期の型式・年代については、『平城宮発掘調査報告Ⅶ』　奈良国立文化財研究所　1976年に準拠し、『古代の土器１　都城の土器集成』　古代の土器研究会　1992年も参考にした。

5．まとめ

（1）遺構の変遷（図８）

今回の調査では弥生時代中期から中世にわたる遺構・遺物を検出した。調査地における土地利用の変遷について、その一端を窺える資料が得られた。以下では、隣接地の調査35・42とともにその変遷をたどる。

弥生時代中期中葉　竪穴建物310・311および土坑216・240・295・309・316・318・353・400・497・612を検出した。今回の調査地周辺では、試掘・立会調査を含め、竪穴建物が多く検出されているが、中久世遺跡において弥生時代中期の竪穴建物を明確に検出したのは、今回の調査が初めてである。この時期の土坑は、埋土に炭化物を多量に含み、その内容は広葉樹や針葉樹のほかに炭化米などがある。調査35でも同様の土坑が検出されている。

竪穴建物310からは摂津系の土器、土坑400からは近江や播磨からの搬入品と考えられる土器が出土するなど、他地域からの搬入品も多い。また、後世の遺構からではあるが、当該時期のものと考えられる、調査地周辺では産出されない紅簾片岩製の石鋸と碧玉の剥片が出土していることから、玉生産を行っていたと考えられ、地域間交流も活発であったことがわかる。

弥生時代中期後葉　竪穴建物312・320・480・600および土坑205・562・617を検出した。遺物の残りは不良なものが多い。土坑の数は中期中葉から減少する。

弥生時代後期　竪穴建物250・340・355・500を検出した。中期にみられた炭化物や土器を多量に含む土坑は見られなくなる。出土土器から見ると、竪穴建物500が竪穴建物250よりも古相を示し、弥生時代後期中葉から後葉まで継続的に居住地として機能していたことがわかる。隣接地では調査35・42でも竪穴建物が検出されている。調査35では方形の竪穴建物が４基検出されている。時期は古墳時代に属すると報告されているが、掲載された出土遺物を再検討したところ、弥生時代後期後葉に比定できることから、竪穴建物250と同時期ととらえても差し支えはないことが明らかとなった。調査42の試掘調査でも、竪穴建物２基が検出されている。埋土から弥生時代後期の遺物が出土したと報告されている。また、調査地から約100ｍ北西にある調査７でも弥生時代後期の竪穴建物が２基検出されており、弥生時代後期の竪穴建物は合計で12基検出されていることになる。このように今回の調査地周辺では、弥生時代後期の竪穴建物が多数検出されていることから、居住の中心地であったと考えられる。

竪穴建物500からは生駒山西麓産の土器が、竪穴建物250からは近江の土器が搬入されているなど、他地域との交流も行われていたことが明らかとなった。

奈良・長岡京期　掘立柱建物１・２、柱列３・４を検出した。遺物の年代は奈良時代後半から長岡京期と、厳密に比定することは難しい。また、調査35でも掘立柱建物２棟と柱列２列が検出されている。それらの遺構の方位は北でやや西に傾いており、今回検出した、北で東に傾く掘立柱建物１・柱穴列４や、正方位を向く掘立柱建物２・柱穴列３とは異なる。しかし、出土遺物の年代から

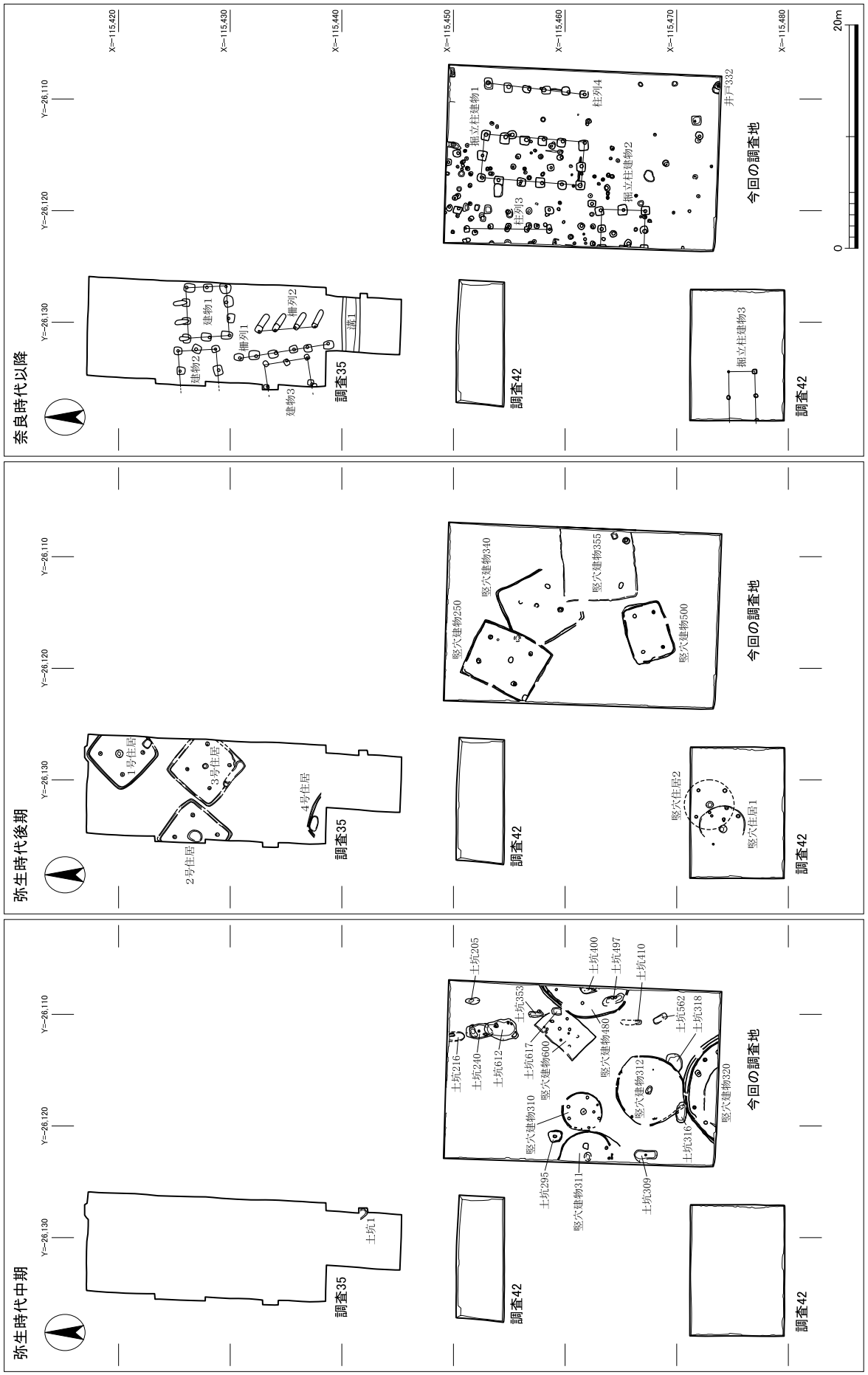


図８　遺構変遷図（１：500）

同時期、あるいは近い時期に存在したと考えられる。調査地は当該期、建物と柱穴列からなる柵が密集していた土地であったことが復元される。

２－（２）「既往の調査」で述べたように、中久世遺跡は長岡京の北郊に位置しており、今回の調査地は長岡京の北京極大（小）路から660ｍ離れているが、奈良・長岡京期の遺構を多数検出した。中久世遺跡以外でも、長岡京の北側では当該期の条坊遺構や建物跡が多数検出されている。

長岡京の宮城及び左京域にかけて、北一条大路より北側４町分は、条坊施工がなされ、また、北側８町までは遺構が広がり、長岡京域としてと考え機能したと考えられている[1)]。調査地は北側８町分の内側に収まる。今回検出した遺構が長岡京期のものであった場合、調査地もその一部であったと考えられる。

なお、検出した遺構が長岡京以前の奈良時代の場合、朱の付着した硯が出土していることを踏まえると、一般的な集落では認められない、官衙的な性格を有する特別な施設が建っていたことが推測される。

平安時代以降　平安時代以降の遺構は井戸332、耕作溝群がある。遺構は希薄ではないものの、平安京遷都後は主に耕作地として利用されたと考えられる。

（２）弥生時代の中久世遺跡について（図９）

２－（２）「既往の調査」で述べたように、中久世遺跡は弥生時代の遺構・遺物が各所で検出されている。周辺調査から、北西から南東方向に向かって流路が流れており、出土遺物からおおむね平安時代ごろまでに埋没したと考えられている[2)]。

調査地を居住地とすると、流路近くの微高地に立地する居住地であることがわかる。また、墓域を見てみると、復元流路からやや離れた場所で、方形周溝墓が成立している。方形周溝墓の時期は、調査１・３・63・99が弥生時代中期に比定されている。なお、調査63の方形周溝墓はⅢ様式の土器が出土している。調査99の方形周溝墓は、周溝からⅡ様式の土器が出土している。

以上のように、弥生時代中期においては、流路の合間に立地する居住地と、流路から離れて立地する墓域という集落構造が見える。

弥生時代後期になると、調査地近隣で竪穴建物が密集するようになり、居住地として活発に利用されていたことがわかる。墓域は後期の方形周溝墓が検出された調査79が現在検出されている唯一の例であり、調査地とは約500ｍ離れている。また、調査地より南東の大藪遺跡で遺物が見つかり始める時期でもあり、調査地一帯で人々の生活が活発になったことがわかる。なお、弥生時代中期も含め、水田などの生産域は未検出であり、今後の課題である。

庄内式期から古墳時代後期の竪穴建物検出場所（調査39・41・63・71）を含めても、調査地および近隣は竪穴建物が連続的に作られる安定した土地であったと考えられる。

従来、中久世遺跡は流路などから出土する多量の遺物から、乙訓地域における弥生時代中期の主要な集落遺跡と評価されることが多かった[3)]。一方で、集落域の明確な位置や、動態などは不明な点も多かった。今回の調査で、当地一帯が少なくとも弥生時代中期中葉から居住地であったこと、弥

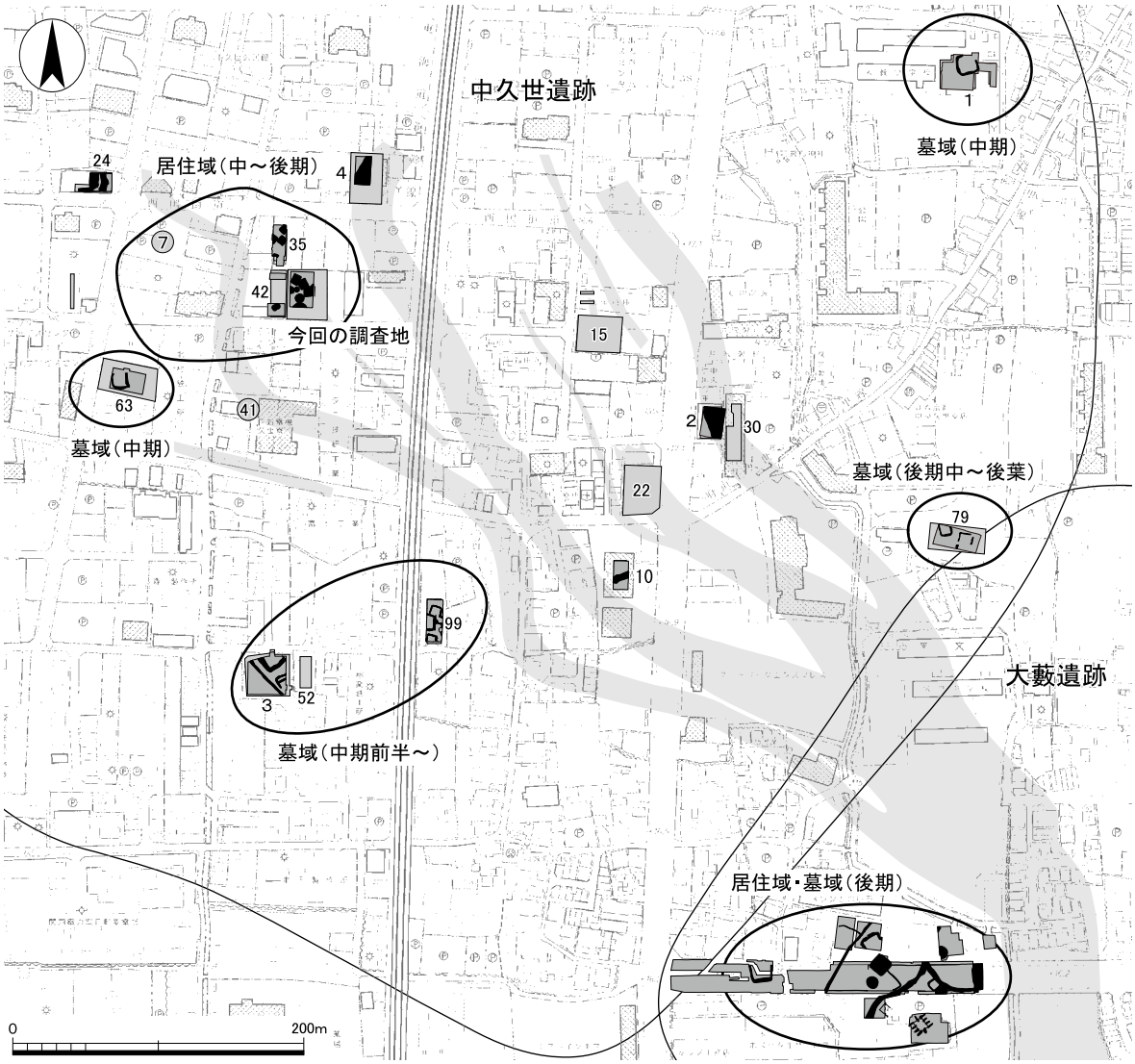


図９　中久世遺跡の弥生時代遺構分布図（１：5,000）

生時代後期中葉から後葉にかけても竪穴建物が密集する居住地であることが明らかとなったことは大きな成果である。

註

1）　a　梅本康広「長岡京の条坊施工範囲と造営計画」『平成24年度　公益財団法人向日市埋蔵文化財センター年報　都城25』　公益財団法人向日市埋蔵文化財センター　2016年。

b　國下多美樹「都の北に何があったか　－方格地割都市プラン－の拡大－」『難波宮と古代都城』同成社　2020年。

2）　図５・９の流路復元図では、複数の流路が流れているように見えるが、調査地一帯は勾配が低く、自然堤防を形成する蛇行原にあたり、流路が網目状になることは考え難い。流路は時期差を持って、１本ずつ機能していたと考えられる。また、図９の復元流路は『中久世遺跡発掘調査概報　平成元年度』京都市文化市民局　1990年の図版１を引用、再トレースした。

3）　a　伊藤淳史「山城地域における弥生集落の動態」『みずほ』第32号　大和弥生文化の会　2000年。

b　上村和直「Ⅵ　大藪遺跡」『京都市内遺跡発掘調査報告　平成24年度』　京都市文化市民局　2013年

付表１　出土土器観察表

（ ）は残存値、単位はcm

No.	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	色調	胎土	備考
1	弥生土器	壷	土坑309		(6.4)		7.5YR8/3浅黄橙色	φ3mm以下の石英・チャート	
2	弥生土器	甕	土坑309	19.6	(4.3)		5YR7/3にぶい橙色	φ2mm以下の長石・チャート・赤色粒	
3	弥生土器	甕	土坑309		(6.6)	5.6	2.5YR7/4淡赤橙色～5YR6/3にぶい橙色	φ3mm以下のチャート、φ2mm以下の長石・石英	外面被熱
4	弥生土器	甕	土坑309		(3.6)	6.8	7.5YR8/2灰白色	φ4mm以下の長石・石英・チャート	
5	弥生土器	甕	土坑309	16.5～18.5	21.5	5.1	10YR8/3浅黄橙色～5YR7/6橙色	φ3mm以下の長石・チャート	ハケ8本/1.7cm 口縁部楕円形
6	弥生土器	甕	土坑318	23.0	(8.6)		10YR8/2灰白色	φ3mm以下の石英・チャート	
7	弥生土器	甕	土坑318	18.6	(4.7)		7.5YR5/2灰褐色	φ3mm以下の石英・チャート	
8	弥生土器	甕	土坑216	13.0	(7.8)		5YR8/1灰白色～7/3にぶい橙色	φ3mm以下の石英・チャート	
9	弥生土器	甕	土坑216	20.2	(8.9)		5YR8/3淡橙色	φ3mm以下の石英・チャート	
10	弥生土器	甕	土坑216	14.6	(7.5)		7.5YR8/3浅黄橙色	φ4mm以下のチャート	
11	弥生土器	壷	土坑216		(13.0)	9.6	5YR8/3淡橙色～7/2明褐灰色	φ4mm以下の長石・チャート	
12	弥生土器	甕	土坑216	40.2	(9.5)		7.5YR8/4淡黄橙色	φ3mm以下の長石・石英	ハケ7本/2.1cm
13	弥生土器	甕	土坑497	15.2	(5.1)	5.7～6.0	7.5YR8/1灰白色	φ2mm以下の長石・チャート	
14	弥生土器	甕	土坑316	17.0	(12.8)		7.5YR7/2明褐灰色	φ3mm以下の石英・チャート	
15	弥生土器	壷	土坑316	10.8	(3.2)		7.5YR6/1褐灰色	φ3mm以下の石英・チャート	内面突起2個
16	弥生土器	壷	土坑316	9.2	(8.6)		7.5YR6/1褐灰色	φ3mm以下の石英・チャート	内面突起2個
17	弥生土器	壷	土坑316	12.0	(4.8)		7.5YR6/1褐灰色	φ3mm以下の石英・チャート	内面突起1個
18	弥生土器	壷	土坑316		(5.8)		外 7.5YR6/1褐灰色 内 N5/0灰色	φ3mm以下の長石・石英	
19	弥生土器	甕	土坑295	14.2	(3.9)		外 7.5YR5/2灰褐色 内 7.5YR6/3にぶい褐色	φ2mm以下の長石・チャート	
20	弥生土器	壷	土坑295	18.2	(2.3)		7.5YR6/2灰褐色	φ3mm以下の長石・チャート	
21	弥生土器	甕	土坑295		(5.8)	5.4	外 7.5YR5/2灰褐色 内 7.5YR6/3にぶい褐色	φ2mm以下の長石・チャート	
22	弥生土器	壷	土坑612	18.0	(8.0)		10YR7/4にぶい黄橙色	φ3mm以下の長石・チャート	
23	弥生土器	甕	土坑240		(6.5)		7.5YR6/1褐灰色	φ3mm以下の長石・石英	近江系
24	弥生土器	甕	土坑240	25.4	(9.9)		5YR6/6橙色	φ2mm以下の長石・チャート	内面摩滅
25	弥生土器	甕	土坑240	19.2	28.1	5.9	2.5YR7/6橙色	φ3mm以下の長石・石英	外面に煤付着
26	弥生土器	壷	土坑240		(13.5)	11.8	外 5YR8/2灰白色 内 N5/0灰色	φ3mm以下の長石・石英	
27	弥生土器	甕	土坑410	28.0	(25.0)		5YR7/3にぶい橙色	φ3mm以下の長石・石英	
28	弥生土器	甕	竪穴建物311	17.0	(4.2)		外 5YR8/2灰白色 内 N5/0灰色	φ2mm以下の長石・石英・チャート	
29	弥生土器	壷	竪穴建物311		(7.2)		5YR8/3淡橙色	φ2mm以下の石英・チャート・赤色粒	
30	弥生土器	甕	竪穴建物310	17.8	(6.7)		10YR7/3浅黄色	φ2mm以下の長石・チャート	

( )は残存値、単位はcm

No.	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	色調	胎土	備考
31	弥生土器	鉢	竪穴建物310	28.4	(21.5)		7.5YR7/6橙色	φ3mm以下の長石・チャート・赤色粒	摂津系
32	弥生土器	壷	土坑400	11.5	(6.5)		10YR8/1灰白色	φ1.5mm以下の長石・石英・チャート	
33	弥生土器	壷	土坑400	12.5	(3.1)		2.5Y8/1灰白色	φ1.5mm以下の長石・石英・チャート	
34	弥生土器	壷	土坑400	13.0	(6.5)		5YR7/4にぶい橙色	φ3mm以下の長石・石英・チャート	
35	弥生土器	壷	土坑400	16.8	(3.7)		2.5Y8/1灰白色	φ3mm以下の石英・チャート	内面突起1個残存
36	弥生土器	壷	土坑400	19.8	(5.0)		10YR8/1灰白色	φ1mm以下の長石・石英・チャート	
37	弥生土器	壷	土坑400	19.6	(6.5)		7.5YR7/3にぶい橙色	φ3mm以下のチャート	
38	弥生土器	壷	土坑400	22.1	(3.3)		2.5Y8/1灰白色	φ2mm以下の長石・チャート	搬入品(播磨か)
39	弥生土器	壷	土坑400	23.9	(2.3)		7.5YR8/3浅黄橙色	φ1mm以下のチャート・赤色粒、微細な黒雲母	
40	弥生土器	壷	土坑400	13.2	(13.7)		7.5YR8/3浅黄橙色	φ1mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒、微細な黒雲母	搬入品(播磨か)
41	弥生土器	壷	土坑400	19.6	(13.5)		2.5Y8/1灰白色	φ3mm以下のチャート	
42	弥生土器	壷	土坑400	20.0	(11.7)		7.5YR8/2灰白色	φ3mm以下の長石・石英	
43	弥生土器	壷	土坑400		(8.2)		2.5Y8/1灰白色	φ2mm以下の長石・石英・チャート	搬入品(播磨か)
44	弥生土器	壷	土坑400		(21.7)		2.5Y8/1灰白色	φ1mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒、微細な黒雲母	搬入品(播磨か)
45	弥生土器	壷	土坑400		(18.7)	9.0	2.5Y8/2灰白色	φ2mm以下の長石・石英	
46	弥生土器	壷	土坑400		(5.2)		10YR8/1灰白色	φ2mm以下の長石・チャート	搬入品(播磨か)
47	弥生土器	壷	土坑400		(7.8)		10YR8/1灰白色	φ2mm以下の長石・チャート	搬入品(播磨か)
48	弥生土器	壷	土坑400		(6.0)		外 7.5YR7/4にぶい橙色 内 10YR8/1灰白色	φ2mm以下の長石・石英・チャート	搬入品(播磨か)
49	弥生土器	細頸壷	土坑400	7.6	(8.3)		2.5Y8/1灰白色	φ1.5mm以下の長石・石英・チャート	
50	弥生土器	直口壷	土坑400	10.0	(8.3)		10YR8/1灰白色	φ1mm以下の長石・石英・チャート、微細な黒雲母	搬入品(播磨か)
51	弥生土器	無頸壷	土坑400	8.0	(5.2)		10YR8/1灰白色	φ1.5mm以下の長石・石英・チャート	
52	弥生土器	無頸壷	土坑400	23.6	(5.3)		7.5YR6/2灰褐色	φ2mm以下の長石・石英・チャート	搬入品(播磨か)
53	弥生土器	台付壷か鉢	土坑400		(3.7)	9.4	10YR8/2灰白色	φ2mm以下の長石・石英	
54	弥生土器	甕	土坑400	17.0	(4.7)		10YR8/1灰白色	φ3mm以下の石英・チャート	
55	弥生土器	甕	土坑400	18.6	(6.5)		10YR7/2にぶい黄橙色	φ3mm以下の長石・石英	
56	弥生土器	甕	土坑400	21.0	(9.6)		10YR8/2灰白色	φ2mm以下の長石・石英・チャート	
57	弥生土器	甕	土坑400	27.8	(6.4)		10YR8/2灰白色	φ2mm以下のチャート	搬入品(播磨か)
58	弥生土器	甕	土坑400	28.6	(12.3)		10YR8/2灰白色	φ3mm以下の石英・チャート	
59	弥生土器	甕	土坑400	28.4	(8.6)		外 7.5YR7/4にぶい橙色 内 10YR8/1灰白色	φ3mm以下の長石・チャート	
60	弥生土器	甕	土坑400	28.6	(9.7)		10YR8/2灰白色	φ3mm以下の長石・石英	

（ ）は残存値、単位はcm

No.	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	色調	胎土	備考
61	弥生土器	甕	土坑400	28.8	15.1		10YR8/2灰白色	φ2mm以下のチャート	
62	弥生土器	甕	土坑400		(4.2)		10YR8/2灰白色	φ2mm以下の長石	近江系
63	弥生土器	甕	土坑400		(3.6)	5.8	7.5YR8/2灰白色	φ2mm以下の長石	
64	弥生土器	甕	土坑400		(2.3)	6.4	10YR8/2灰白色	φ3mm以下の長石・石英・チャート	木葉痕
65	弥生土器	高杯	土坑400	20.7	(4.6)		7.5YR6/1褐灰色	φ1mm以下の長石・石英・チャート、微細な黒雲母	
66	弥生土器	高杯	土坑400	25.1	(4.4)		5YR6/8橙色	φ0.5mm以下の長石・石英・チャート、微細な黒雲母	
67	弥生土器	高杯	土坑400	24.8	(5.3)		5YR8/3淡橙色	φ1mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒、微細な黒雲母	
68	弥生土器	高杯	土坑400		(8.0)		7.5YR7/2明褐灰色	φ1mm以下の長石、φ5mm以下の赤色粒	
69	弥生土器	高杯	土坑400		(4.5)		5YR8/3淡橙色	φ1mm以下の長石・石英・チャート・泥岩	外面被熱
70	弥生土器	高杯	土坑400		(4.9)	7.9	7.5YR5/2灰褐色	φ1mm以下の長石・石英・チャート	
71	弥生土器	高杯	土坑400		(5.3)		7.5YR8/2灰白色	φ1mm以下の長石・石英	
72	弥生土器	高杯	土坑400		(2.2)	7.1	7.5YR5/2灰褐色	φ1mm以下の長石・石英・チャート、微細な黒雲母	
73	弥生土器	蓋	土坑400	4.1	(3.7)		7.5YR6/6橙色	φ1mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒	
74	弥生土器	蓋	土坑400		(1.4)	15.0	7.5YR8/2灰白色	φ1.5mm以下の長石・石英・チャート	
75	弥生土器	受口壺	土坑205	15.0	(8.1)		5YR7/2明褐灰色	φ2mm以下の長石・チャート	
76	弥生土器	壺	土坑205	22.2	(4.6)		5YR8/3淡橙色	φ2mm以下のチャート	
77	弥生土器	甕	竪穴建物312		(2.0)		7.5YR8/3浅黄橙色	φ1mm以下の長石	近江系
78	弥生土器	壺か高杯	竪穴建物312		(2.2)		7.5YR8/2灰白色	φ2mm以下の長石・チャート	
79	弥生土器	高杯	竪穴建物312		(4.2)	11.6	7.5YR6/2灰褐色	φ2mm以下の長石・チャート	
80	弥生土器	高杯	竪穴建物312		(7.6)		10YR7/3にぶい黄橙色	φ5mm以下の長石・チャート	搬入品
81	弥生土器	器台	竪穴建物312		(7.2)		10YR7/2にぶい黄橙色	φ2mm以下の長石・チャート	
82	弥生土器	高杯	竪穴建物320		(2.1)		2.5YR7/4淡赤橙色	φ2mm以下のチャート	
83	弥生土器	壺	竪穴建物320		19.8	(5.5)	5YR7/4にぶい橙色	φ2mm以下の長石	
84	弥生土器	甕	竪穴建物320	16.0	(2.6)		5YR6/4にぶい橙色	φ2mm以下の長石	
85	弥生土器	壺	竪穴建物600	12.6	(5.8)		7.5YR8/1灰白色	φ2mm以下の長石・チャート	
86	弥生土器	壺	竪穴建物600	15.6	(4.0)		5YR8/4淡橙色	φ3mm以下の石英・チャート	
87	弥生土器	壺	竪穴建物600		(4.8)	8.4	10YR7/2にぶい黄橙色	φ3mm以下の長石・石英	外面に煤、木葉痕
88	弥生土器	甕	竪穴建物600	19.0	(5.7)		5YR8/3淡橙色	φ3mm以下の長石・チャート	
89	弥生土器	甕	竪穴建物600	24.0	(7.4)		7.5YR8/3浅黄橙色	φ3mm以下の石英・チャート	
90	弥生土器	高杯	柱穴381		(7.3)	8.8	7.5YR8/3浅黄橙色	φ2mm以下のチャート・赤色粒	透かし孔5点

( )は残存値、単位はcm

No.	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	色調	胎土	備考
91	弥生土器	甕	土坑562	15.6	(12.4)		10YR8/1灰白色	φ2㎜以下の長石・赤色粒	
92	弥生土器	甕	土坑562	17.2	(6.1)		外 7.5YR6/2灰褐色 内 7.5YR7/1明褐灰色	φ2㎜以下の長石・石英	
93	弥生土器	甕	土坑562	15.7	24.9	5.4	5YR7/4にぶい橙色	φ2㎜以下の長石	
94	弥生土器	甕	土坑562		(4.3)	5.8	7.5YR7/2明褐灰色	φ2㎜以下の長石・石英	
95	弥生土器	甕	土坑562		(14.5)	5.6	5YR6/4にぶい橙色	φ3㎜以下の長石・石英・ チャート	
96	弥生土器	甕	竪穴建物500	14.4	(2.4)		7.5YR5/2灰褐色	φ2㎜以下の長石・石英	
97	弥生土器	甕	竪穴建物500	18.6	(4.7)		7.5YR5/2灰褐色	φ2㎜以下の角閃石・雲母・ 長石	生駒山西麓産
98	弥生土器	高杯	竪穴建物500		(9.2)		7.5YR7/3にぶい橙色	φ2㎜以下の長石・チャート・ 赤色粒	
99	弥生土器	甕	竪穴建物355		(7.9)		外 5YR7/3にぶい橙色 内 5YR7/6橙色	φ2㎜以下の長石・チャート	
100	弥生土器	高杯	竪穴建物355		(7.0)		10YR8/2灰白色	φ3㎜以下の石英	
101	弥生土器	甕	土坑379	15.0	9.4	1.0	7.5YR7/2明褐灰色	φ3㎜以下の長石・チャート・ 赤色粒	
102	弥生土器	壷か鉢	土坑379		(4.4)	4.4	5YR7/4にぶい橙色	φ3㎜以下の長石・チャート	
103	弥生土器	台付鉢	竪穴建物250	13.6	8.0	5.8	5YR8/2灰白色	φ3㎜以下の石英・チャート・ 赤色粒	
104	弥生土器	有孔鉢	竪穴建物250	13.2	6.8	3.2	5YR8/2灰白色	φ2㎜以下の長石・チャート	
105	弥生土器	器台	竪穴建物250	18.6	(3.9)		5YR8/3淡橙色	φ4㎜以下の長石・石英・ チャート	
106	弥生土器	器台	竪穴建物250		(6.3)		5YR7/3にぶい橙色	φ3㎜以下の石英	
107	弥生土器	高杯	竪穴建物250	24.8	(6.1)		5YR8/2灰白色	φ2㎜以下の長石・チャート・ 赤色粒	
108	弥生土器	高杯	竪穴建物250		(6.6)		5YR7/4にぶい橙色 ～7/6橙色	φ2㎜以下のチャート・赤色粒	
109	弥生土器	甕	竪穴建物250	11.6	(12.6)		5YR7/6橙色	φ3㎜以下の長石・チャート	
110	弥生土器	甕	竪穴建物250	15.6	(10.9)		5YR8/3淡橙色	φ5㎜以下のチャート・赤色粒	
111	弥生土器	甕	竪穴建物250	14.0 ～14.4	(20.2)		5YR7/4にぶい橙色 ～7/6橙色	φ3㎜以下の石英・チャート	
112	弥生土器	甕	竪穴建物250	11.6	18.1	4.3	10YR8/3浅黄橙色 ～5YR7/6橙色	φ3㎜以下の長石・石英・ チャート	
113	弥生土器	甕	竪穴建物250	14.6	(13.2)		5YR7/3にぶい橙色	φ3㎜以下の長石・石英・ チャート	
114	弥生土器	甕	竪穴建物250	14.0	(28.6)		5YR7/3にぶい橙色	φ3㎜以下のチャート・赤色粒	
115	弥生土器	甕	竪穴建物250	17.6	(10.0)		7.5YR8/2灰白色	φ3㎜以下の石英・チャート	
116	弥生土器	甕	竪穴建物250	18.4	27.9	5.0	7.5YR7/2明褐灰色 ～6/3にぶい褐色	φ2～3㎜の長石、 φ8㎜以下のチャート	
117	弥生土器	甕	竪穴建物250		(4.3)	6.0	外 10YR5/2灰黄褐色 内 5Y2/1黒色	φ3㎜以下の石英・チャート	
118	弥生土器	甕	竪穴建物250		(9.5)	4.2	7.5YR6/2灰褐色	φ3㎜以下の石英・チャート	
119	弥生土器	甕	竪穴建物250		(9.3)	3.8	外 5YR7/3にぶい橙色 内 2.5Y7/4浅黄色	φ4㎜以下の石英・チャート	
120	弥生土器	直口壷	竪穴建物250	13.8	(20.6)		2.5YR7/4淡赤橙色	φ5㎜以下の石英・チャート	

（ ）は残存値、単位はcm

No.	器種	器形	遺構名	口径	器高	底径	色調	胎土	備考
121	須恵器	杯B	掘立柱建物1 柱穴47		(1.4)	9.4	N7/0灰白色	φ2mm以下の長石	
122	須恵器	杯A	掘立柱建物1 柱穴113	12.0	(3.3)		2.5Y8/1灰白色	粒子細かい　軟質	
123	須恵器	蓋	掘立柱建物2 柱穴65		(1.9)	14.4	N4/0灰色	φ1mm以下の長石	自然釉
124	須恵器	杯A	掘立柱建物2 柱穴91	13.0	3.5		10YR8/1灰白色	φ1mm以下の長石　軟質	
125	須恵器	杯B	掘立柱建物2 柱穴58		(2.2)	7.2	N6/0灰色	φ2mm以下の長石	
126	須恵器	杯B	掘立柱建物2 柱穴65		(1.7)	7.2	N7/0灰白色	φ1mm以下の長石 粒子やや粗い	
127	土師器	皿	遺物包含層2 掘下げ	18.0	2.2		7.5YR6/3にぶい橙色	φ3mm以下の長石・チャート・ 赤色粒	外面器面剥離著しい
128	須恵器	杯A	柱穴126	12.4	4.5		N7/0灰白色	φ3mm以下の長石	
129	須恵器	杯F	柱穴12	15.0	3.6		2.5Y7/1灰白色	φ2mm以下の長石	内面うすく被灰
130	須恵器	杯B	柱穴171	12.2	4.6		N6/0灰色	φ2mm以下の長石	
131	須恵器	鉢	柱穴171	29.0	(14.8)		N8/0～7/0灰白色	φ3mm以下の長石・チャート 軟質	
132	黒色土器	椀	井戸332	15.6	5.1	5.8	N3/0暗灰色	φ1mm以下の長石・雲母	両面黒色（B類）

付表２　石器観察表

（ ）は残存値、単位はcm

No.	器種	遺構名	長	幅	厚	重量(g)	石材	備考
石1	打製石鏃	柱穴424	(2.9)	1.9	0.5	2.4	サヌカイト	平基式
石2	打製石鏃	竪穴建物320	5.2	1.9	0.5	8.6	粘板岩	平基式
石3	打製石鏃	竪穴建物355	3.8	2.4	0.5	5.0	サヌカイト	平基式
石4	打製石鏃	柱列3 柱穴30	2.1	(1.5)	0.4	0.7	サヌカイト	凹基式
石5	打製石鏃	竪穴建物250	3.2	1.5	0.5	1.8	サヌカイト	凸基無茎式
石6	打製石鏃	土坑316	(3.5)	1.4	0.7	4.5	サヌカイト	凸基無茎式
石7	打製石鏃	土坑400	3.6	1.7	0.5	3.4	サヌカイト	凸基無茎式
石8	打製石鏃	竪穴建物250	(1.9)	1.5	0.4	1.9	サヌカイト	凸基有茎式
石9	石鏃未製品	竪穴建物355	9.3	2.5	0.5	16.3	粘板岩	凸基有茎式
石10	磨製石鏃	竪穴建物355	(3.3)	(1.9)	0.3	2.3	粘板岩か	
石11	磨製石鏃	土坑401	(3.5)	2.2	0.5	4.0	粘板岩	平基式
石12	磨製石鏃	検出	(4.9)	1.9	0.3	2.9	粘板岩	凸基無茎式
石13	石包丁	検出	(9.2)	3.6	0.5	20.7	粘板岩	
石14	石包丁	柱穴392	7.8	2.8	0.5	15.2	粘板岩	
石15	石包丁	竪穴建物311	(7.8)	3.8	0.5	22.6	粘板岩	
石16	石包丁	竪穴建物600	(7.5)	(3.5)	0.6	20.8	粘板岩	
石17	石包丁	竪穴建物600	3.4	3.1	0.4	7.4	粘板岩	
石18	石包丁	掘立柱建物1 柱穴116	(4.0)	3.4	0.6	13.0	粘板岩	
石19	石包丁未製品	土坑400	10.8	5.8	0.9	58.2	粘板岩	
石20	石包丁未製品	土坑316	13.4	7.7	2.0	234.5	粘板岩	
石21	石包丁未製品	検出	15.2	5.5	0.4	48.3	粘板岩	
石22	磨製石剣	竪穴建物320	2.8	2.7	0.9	8.7	粘板岩	
石23	磨製石剣	遺物包含層2掘下	(5.0)	(3.5)	1.2	24.1	粘板岩	
石24	石錐	土坑318	6.0	1.6	1.1	8.1	サヌカイト	
石25	石錐	土坑295	3.6	1.0	0.7	2.2	サヌカイト	
石26	石鋸	耕作溝176	(9.4)	2.0	0.4	14.3	紅簾片岩	
石27	剥片	溝572	1.4	1.0	1.0	1.5	碧玉	
石28	不明石器	土坑400	10.4	2.6	1.0	24.5	サヌカイト	
石29	扁平片刃石斧	竪穴建物340	3.1	1.7	0.6	6.0	砂岩質	
石30	扁平片刃石斧	竪穴建物312	7.4	5.4	1.4	87.9	緑色岩類	

( )は残存値、単位はcm

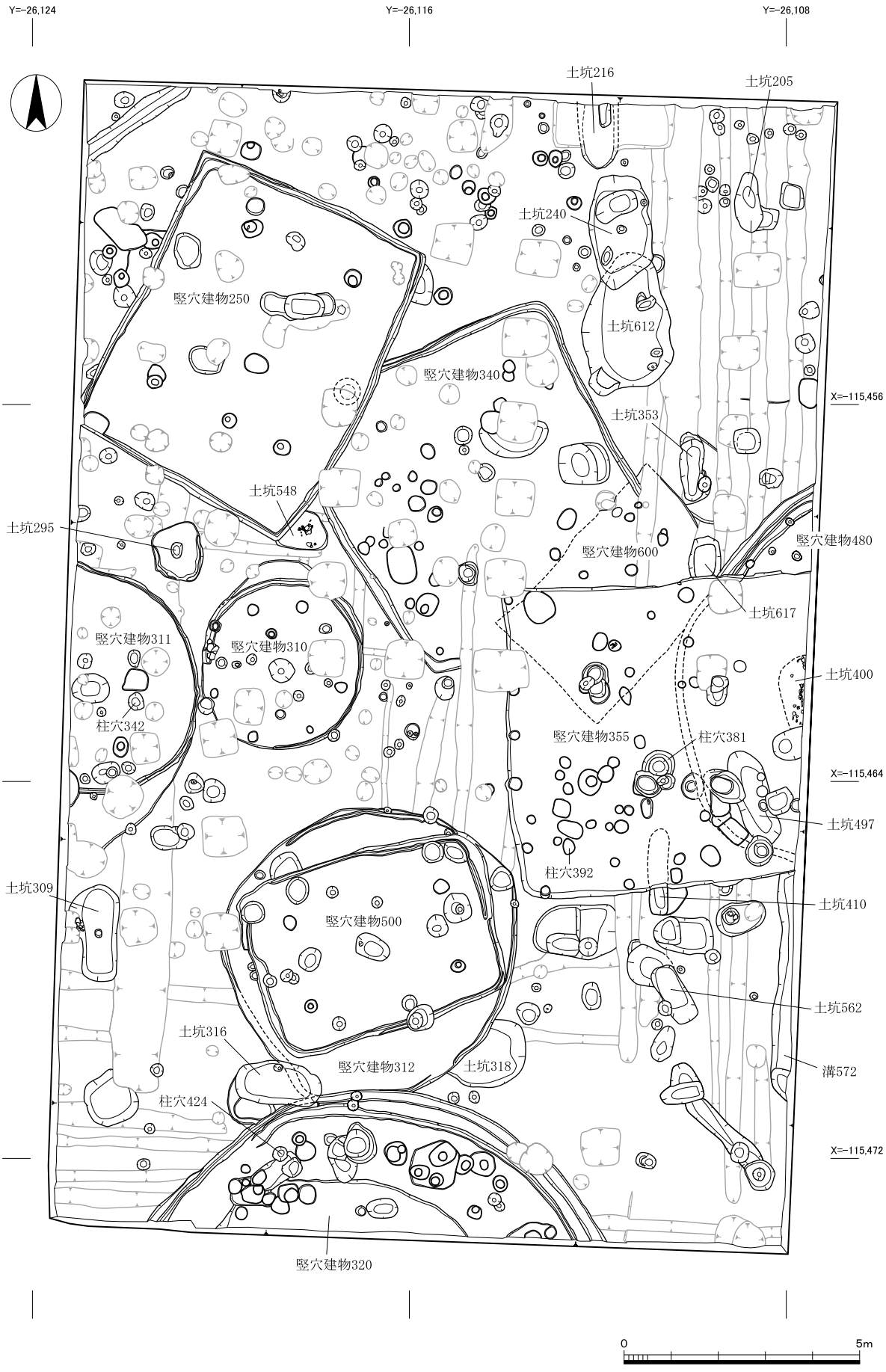
No.	器種	遺構名	長	幅	厚	重量(g)	石材	備考
石31	太型蛤刃石斧	竪穴建物500	12.5	6.3	4.4	637.5	閃緑岩	
石32	太型蛤刃石斧	柱穴293	15.6	7.8	4.4	960	深成岩	
石33	台石	竪穴建物250	20.6	15.2	14.2		深成岩類	
石34	敲石	土坑548	12.0	7.1	1.9	187.1	砂岩	
石35	敲石	土坑205	8.7	7.4	4.8	467.5	斑糲岩	
石36	砥石	竪穴建物320	19.5	5.2	3.4	536.5	砂岩	
石37	砥石	竪穴建物250	12.8	10.0	2.7	268	砂岩	
石38	砥石	土坑240	12.4	13.5	6.2	1415.0	砂岩	

付表３　土製品観察表

( )は残存値、単位はcm

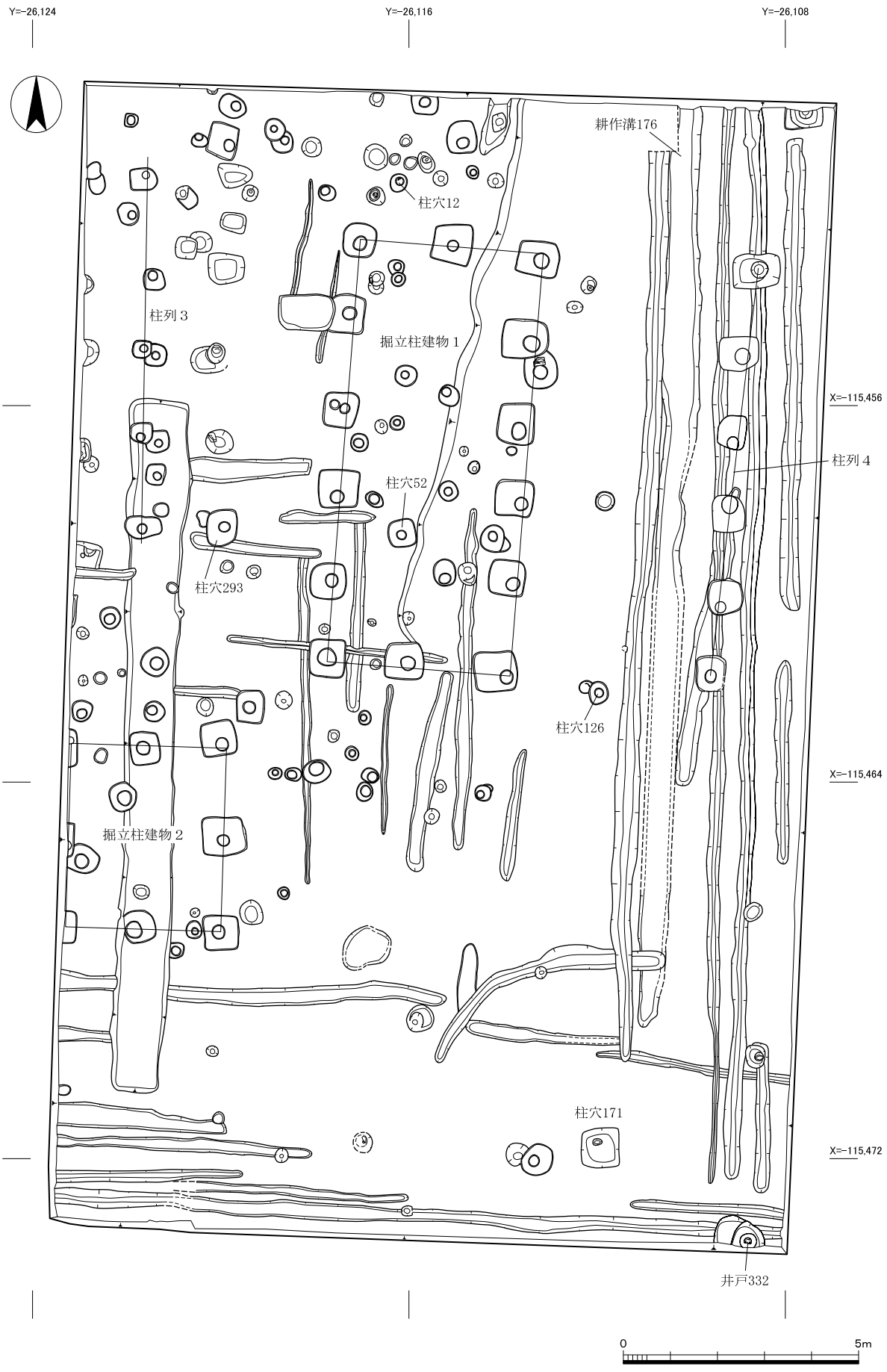
No.	器種	遺構名	長	幅	孔径	重量(g)	色調	胎土	備考
土1	土錘	竪穴建物250	(5.7)	4.7	1.2	107.9	乳白色	φ2㎜までの長石・チャート少量	
土2	土錘	重機掘削中	7.4	2.7	0.8 ～0.9	51.5	2.5Y5/6黄褐色	φ3㎜までの長石・石英、硬質	
土3	土錘	遺構検出中	5.5	2.9	0.8	39.4	7.5YR8/3浅黄橙色	φ1㎜までの長石少量、粒子細かい	
土4	土錘	柱穴342	4.1	1.0	0.4	4.0	5YR6/6橙色	φ1㎜までの長石少量	
土5	土錘	柱穴52	(2.6)	0.9	0.3	2.8	N6/0灰色	φ1㎜までの長石、須恵質	
土6	土馬	耕作溝176	(5.7)	(5.0)			5YR7/6橙色	φ1㎜までの黒色粒	
土7	把手付円面硯	掘立柱建物1 柱穴47	12.7				N6/0灰色	φ0.5㎜までの長石・黒色粒、須恵質	中空、硯面に朱残存

図　　版



調査区平面図〔弥生時代〕（1 ：120）

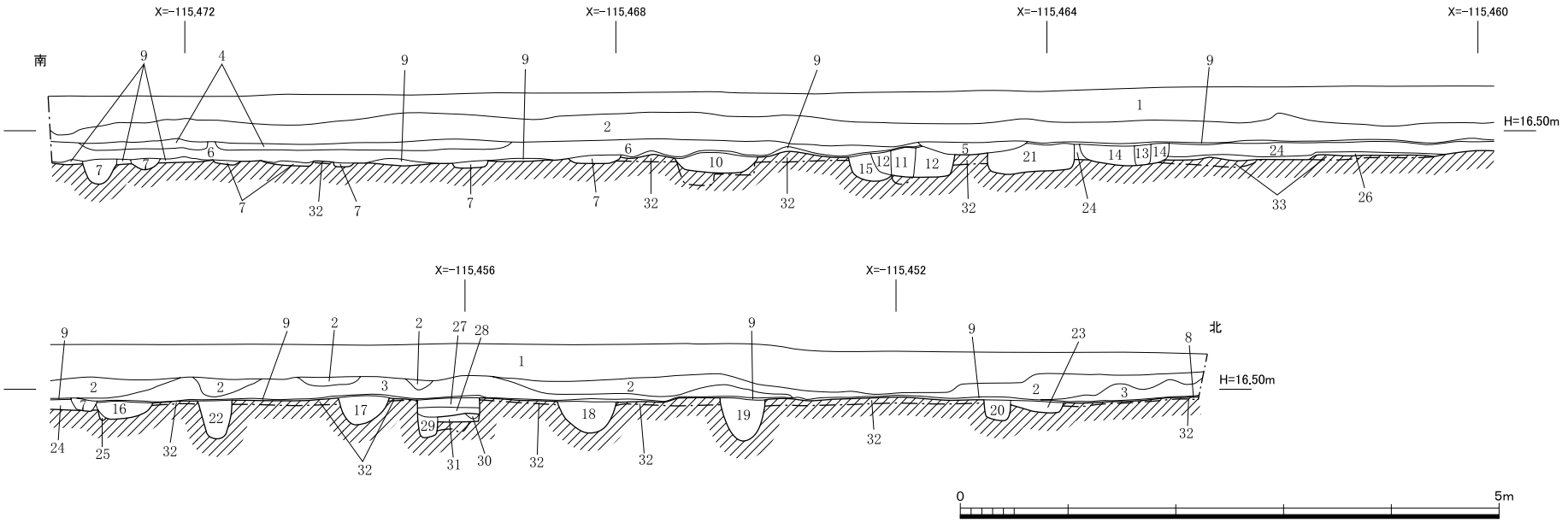
図版2 遺構



調査区平面図〔奈良時代以降〕（１：120）

図版3　遺構

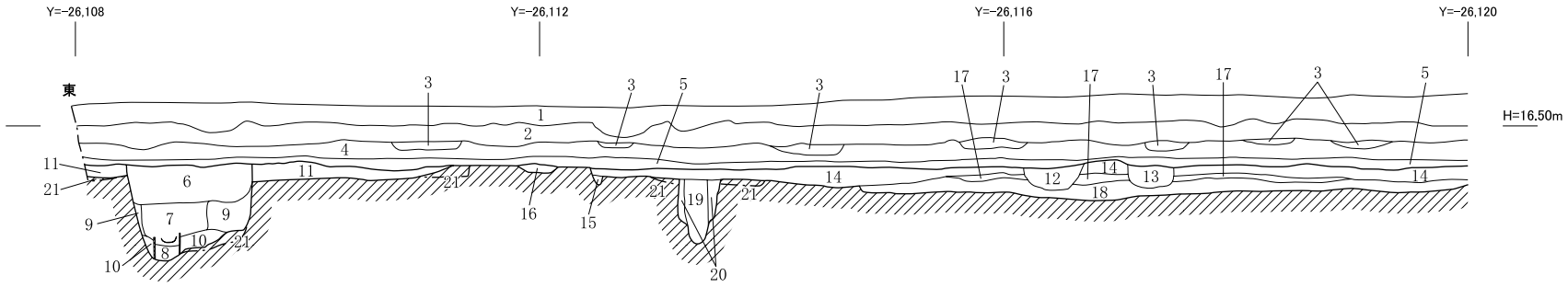
調査区西壁断面図（1：60）

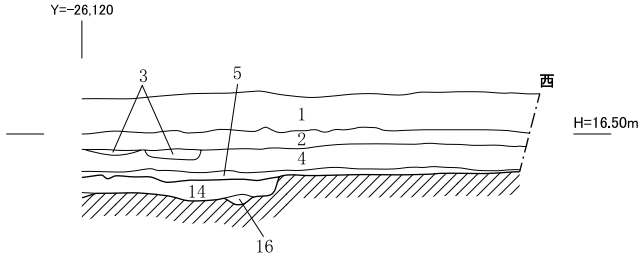


1　現代盛土
2　7.5Y3/2オリーブ黒色 極細砂～シルト　炭化物・φ2㎜以下の礫微量混
3　10YR4/2にぶい黄褐色 細砂～極細砂　炭化物微量混　土器片少量混　　現代耕作土
4　7.5Y5/2灰オリーブ色 極細砂　炭化物・土器片微量混
5　7.5YR2/2黒褐色 細砂～シルト　炭化物・土器片少量混　焼土微量混　　近世・近代耕作溝
6　10YR5/3にぶい黄褐色 細砂～極細砂　炭化物・土器片微量混
床面鉄分沈着　　近世・近代耕作土
7　10YR4/2灰黄褐色 細砂～極細砂　炭化物微量混　　耕作溝
8　10YR4/3にぶい黄褐色 細砂　土器片少量混
9　7.5YR3/2黒褐色 極細砂～シルト　鉄分凝固　　遺物包含層1
10　7.5YR3/2黒褐色 細砂～シルト　炭化物・土器片微量混(柱穴84)
11　7.5YR4/2灰褐色 細砂　マンガン少量　土器片微量混(柱穴79)
12　7.5YR3/2黒褐色 細砂～シルト　炭化物・土器片少量混(柱穴79)
13　2.5Y3/2黒褐色 細砂　やや粘質　土器片微量混(柱穴58)
14　7.5YR3/2黒褐色 細砂～シルト　炭化物・土器片微量混(柱穴58)　　掘立柱建物2
15　10YR3/1黒褐色 細砂　炭化物・土器片少量混　　柱穴80
16　10YR3/3暗褐色 細砂～シルト　炭化物・土器片微量混
10YR6/4にぶい黄橙色極細砂ブロック混　　柱穴34
17　10YR4/4褐色 極細砂　炭化物・土器片微量混
下層10YR3/2黒褐色　　柱穴24
18　7.5YR4/2灰褐色 極細砂～シルト　土器片少量混　　柱穴292
19　10YR4/2灰黄褐色 細砂～シルト　炭化物・土器片微量混　　柱穴291
20　10YR3/3暗褐色 極細砂～シルト　炭化物・土器片微量混　　柱穴571
21　7.5YR4/2灰褐色 極細砂～シルト　炭化物・土器片微量混
10YR5/4にぶい黄褐色シルトブロック混　　柱穴348
22　10YR4/2灰黄褐色 極細砂～シルト　炭化物・土器片微量混
下層2.5Y4/3オリーブ褐色細砂　　柱穴289
23　10YR4/1褐灰色 細砂～シルト　炭化物・土器片微量混　　溝290
24　10YR5/1褐灰色 極細砂～シルト　φ2㎝以下の礫少量混
炭化物・土器片少量混(覆土)
25　10YR6/1褐灰色 シルト(壁溝)
26　2.5Y5/1黄灰色 細砂～シルト　炭化物微量混(硬化面)　　竪穴建物311
27　10YR5/1褐灰色 細砂　炭化物・土器片多量
φ2㎝以下の礫少量混(覆土)
28　10YR4/1褐灰色 細砂～泥砂　炭化物・土器片少量混(覆土)
29　10YR3/3暗褐色 細砂　土器片混(土坑442)
30　10YR3/4暗褐色 細砂～泥砂(壁溝)
31　10YR5/6黄褐色 細砂～泥砂　炭化物微量混　硬く締まる(貼床)　　竪穴建物250
32　10YR4/4褐色 細砂～極細砂
33　10YR6/6明黄褐色 シルト　　基盤層

図版4　遺構

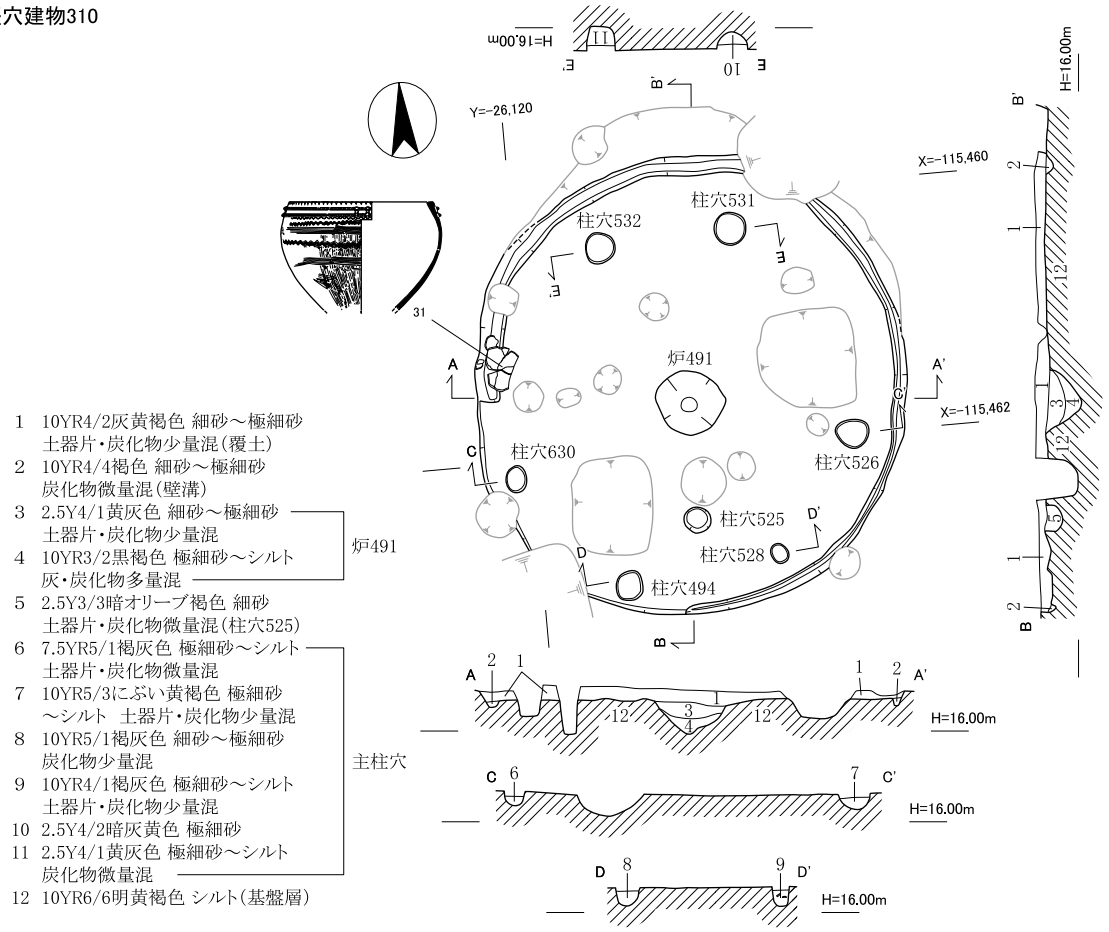
調査区南壁断面図（1：60）





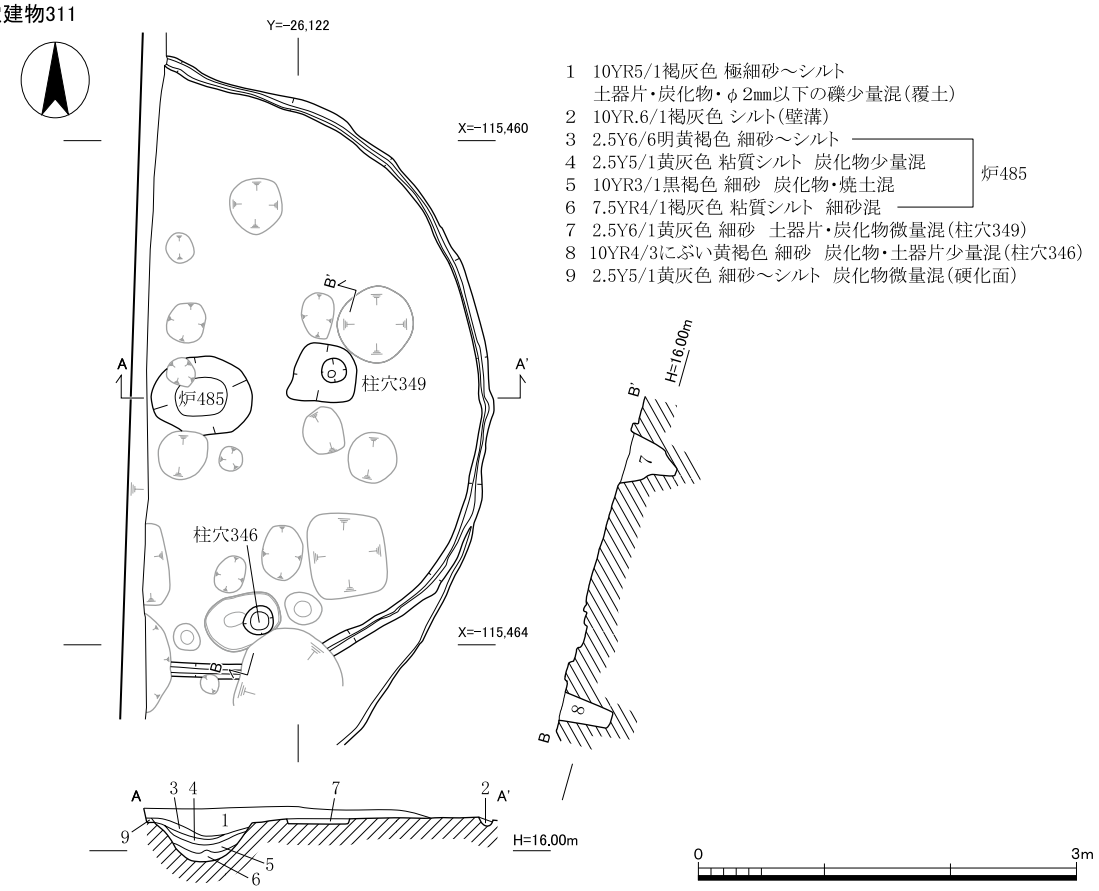
1　現代盛土
2　7.5Y3/2オリーブ黒色 極細砂～シルト
　炭化物・φ2㎜以下の礫微量混　―― 現代耕作土
3　7.5Y5/2灰オリーブ色 極細砂　炭化物・土器片微量混　―― 近世・近代耕作溝
4　10Y6/2オリーブ灰色 細砂～極細砂　炭化物・土器片微量混　―― 近世・近代耕作土
5　2.5Y4/1黄灰色 極細砂　やや粘質　炭化物・土器片少量混
　鉄分多量含む　―― 遺物包含層1
6　2.5Y3/3暗オリーブ褐色 極細砂
7　2.5Y4/2暗灰黄色 細砂～シルト
8　2.5Y4/2暗灰黄色 中砂～粗砂
9　2.5Y6/6黄灰色 細砂
10　10YR4/4褐色 細砂　―― 井戸332
11　2.5Y3/3暗オリーブ褐色 中砂～粗砂　土壌化　―― 遺物包含層2
12　2.5Y5/1黄灰色 極細砂　炭化物・土器片少量混
13　5Y5/1灰色 極細砂～シルト　炭化物微量混
14　2.5Y4/2暗灰黄色 細砂　炭化物・土器片少量混(覆土)
15　10YR5/1褐灰色 細砂　炭化物微量混(壁溝)
16　10YR3/1黒褐色 細砂　炭化物少量混(壁溝)
17　10YR4/1褐灰色 細砂　炭化物中量混
18　10YR4/2灰黄褐色 極細砂～粘質シルト　炭化物・土器片少量混
19　10YR2/1黒色 粘質シルト　炭化物・土器片微量混(柱穴427)
20　10YR5/1褐灰色 極細砂～粘質シルト(柱穴427)　―― 竪穴建物320
21　10YR4/4褐色 細砂～中砂　―― 基盤層

竪穴建物310



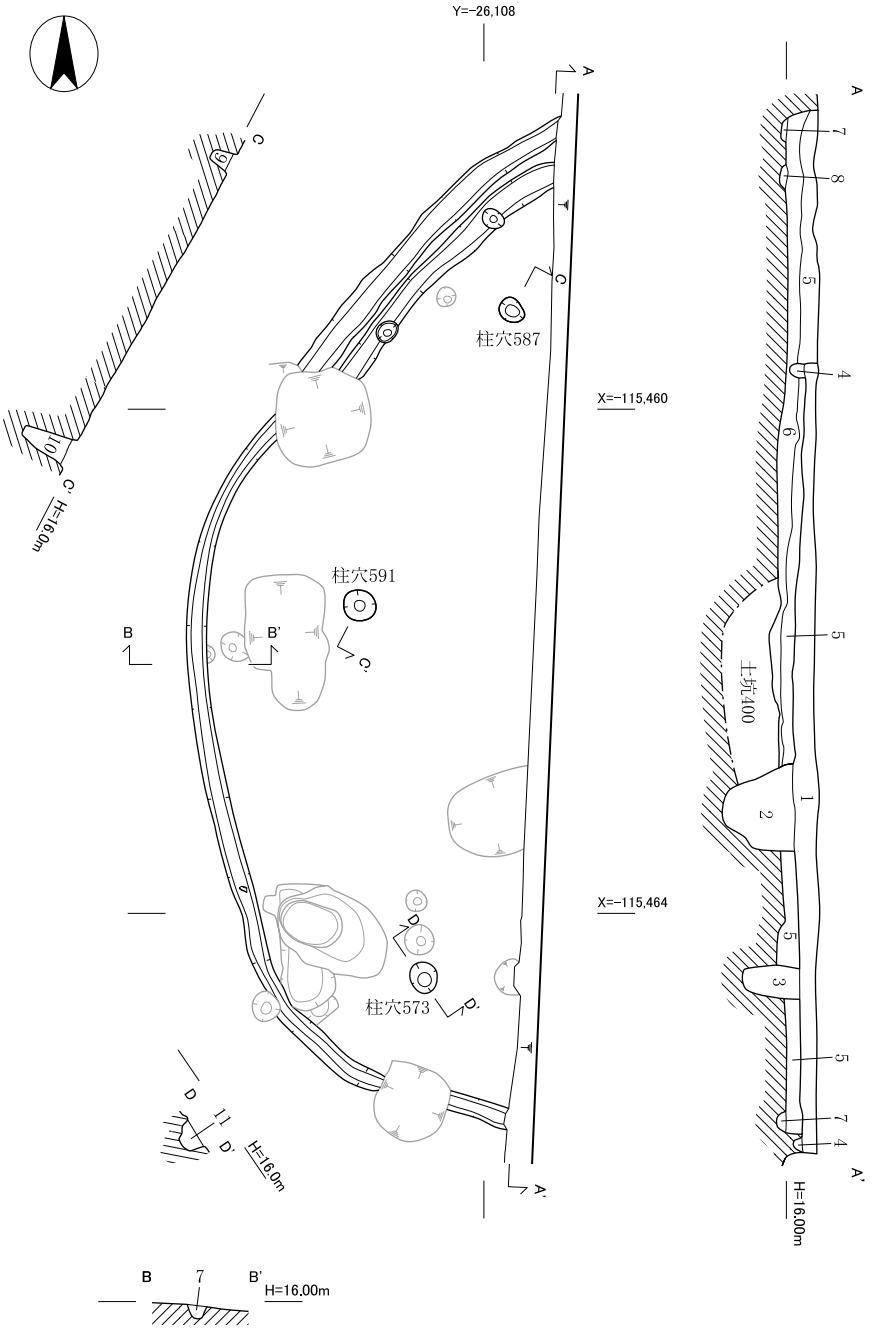
1 10YR4/2灰黄褐色 細砂～極細砂
土器片・炭化物少量混(覆土)
2 10YR4/4褐色 細砂～極細砂
炭化物微量混(壁溝)
3 2.5Y4/1黄灰色 細砂～極細砂
土器片・炭化物少量混
4 10YR3/2黒褐色 極細砂～シルト
灰・炭化物多量混
炉491
5 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 細砂
土器片・炭化物微量混(柱穴525)
6 7.5YR5/1褐灰色 極細砂～シルト
土器片・炭化物微量混
7 10YR5/3にぶい黄褐色 極細砂
～シルト 土器片・炭化物少量混
8 10YR5/1褐灰色 細砂～極細砂
炭化物少量混
9 10YR4/1褐灰色 極細砂～シルト
土器片・炭化物少量混
10 2.5Y4/2暗灰黄色 極細砂
11 2.5Y4/1黄灰色 極細砂～シルト
炭化物微量混
主柱穴
12 10YR6/6明黄褐色 シルト(基盤層)

竪穴建物311



1 10YR5/1褐灰色 極細砂～シルト
土器片・炭化物・φ2㎜以下の礫少量混(覆土)
2 10YR.6/1褐灰色 シルト(壁溝)
3 2.5Y6/6明黄褐色 細砂～シルト
4 2.5Y5/1黄灰色 粘質シルト 炭化物少量混
5 10YR3/1黒褐色 細砂 炭化物・焼土混
炉485
6 7.5YR4/1褐灰色 粘質シルト 細砂混
7 2.5Y6/1黄灰色 細砂 土器片・炭化物微量混(柱穴349)
8 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 炭化物・土器片少量混(柱穴346)
9 2.5Y5/1黄灰色 細砂～シルト 炭化物微量混(硬化面)

竪穴建物310・311実測図（1：60、土器は1：12）



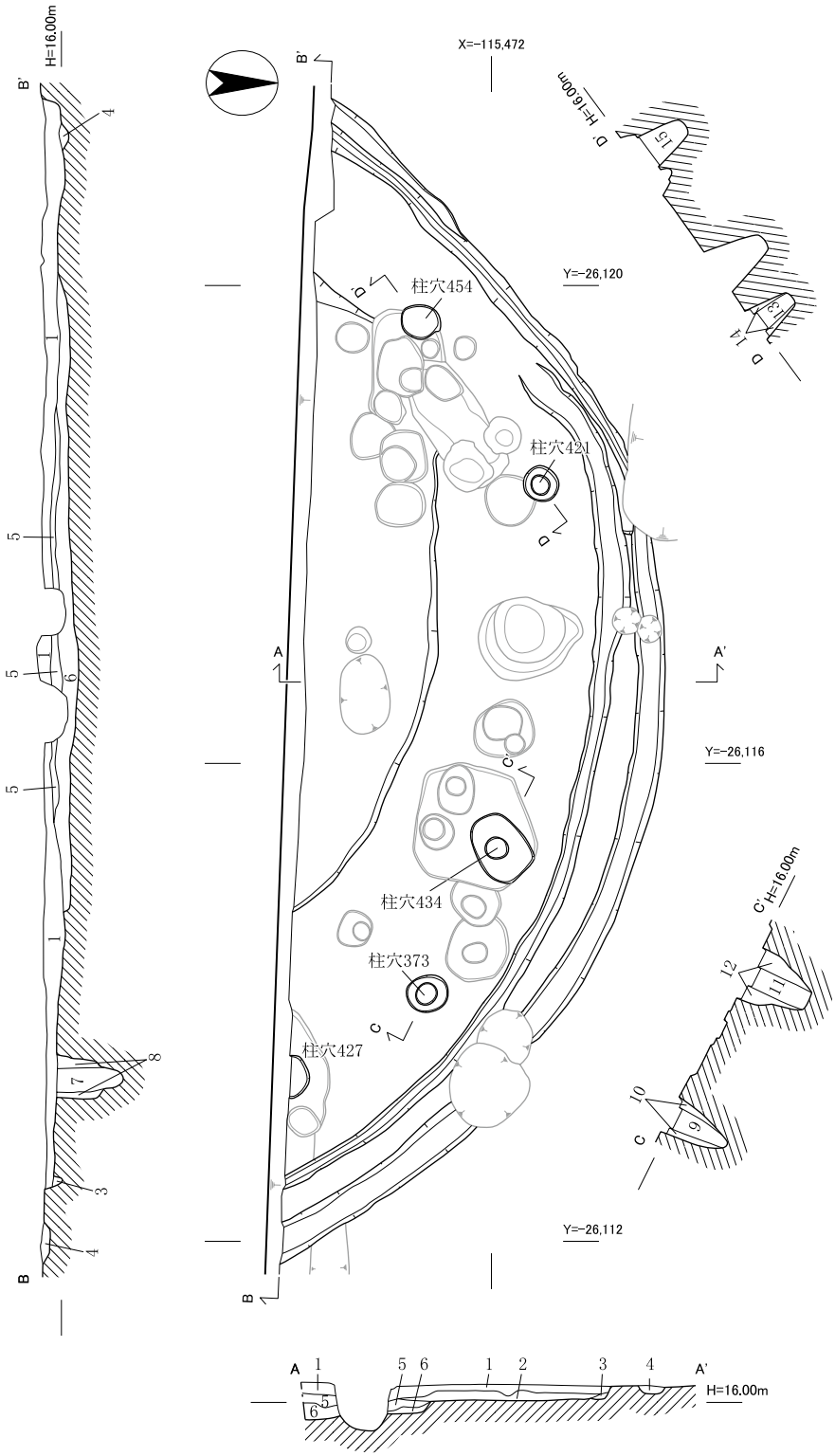
1　10YR3/2黒褐色 シルト～極細砂　炭化物・土器片少量混(覆土)
2　10YR3/4暗褐色 シルト　炭化物・土器片少量混(柱穴677)
3　10YR2/3黒褐色 シルト　炭化物少量混(柱穴649)
4　10YR4/2灰黄褐色 シルト～極細砂(壁溝)
5　10YR3/2黒褐色 シルト～極細砂
　10YR5/6黄褐色シルトブロック混　炭化物・土器片少量混
6　10YR4/6褐色 シルト　炭化物・土器片少量混
7　10YR4/2灰黄褐色 シルト
8　10YR3/1黒褐色 シルト～極細砂　炭化物少量混
9　10YR3/2黒褐色 細砂　炭化物・土器片少量混
10　10YR2/2黒褐色 細砂　炭化物微量混
11　10YR2/2黒褐色 細砂　炭化物・土器片少量混

竪穴建物355
覆土
壁溝
主柱穴
竪穴建物480

※ 竪穴建物355の平面は図版10参照

0　3m

竪穴建物480実測図（1：60）

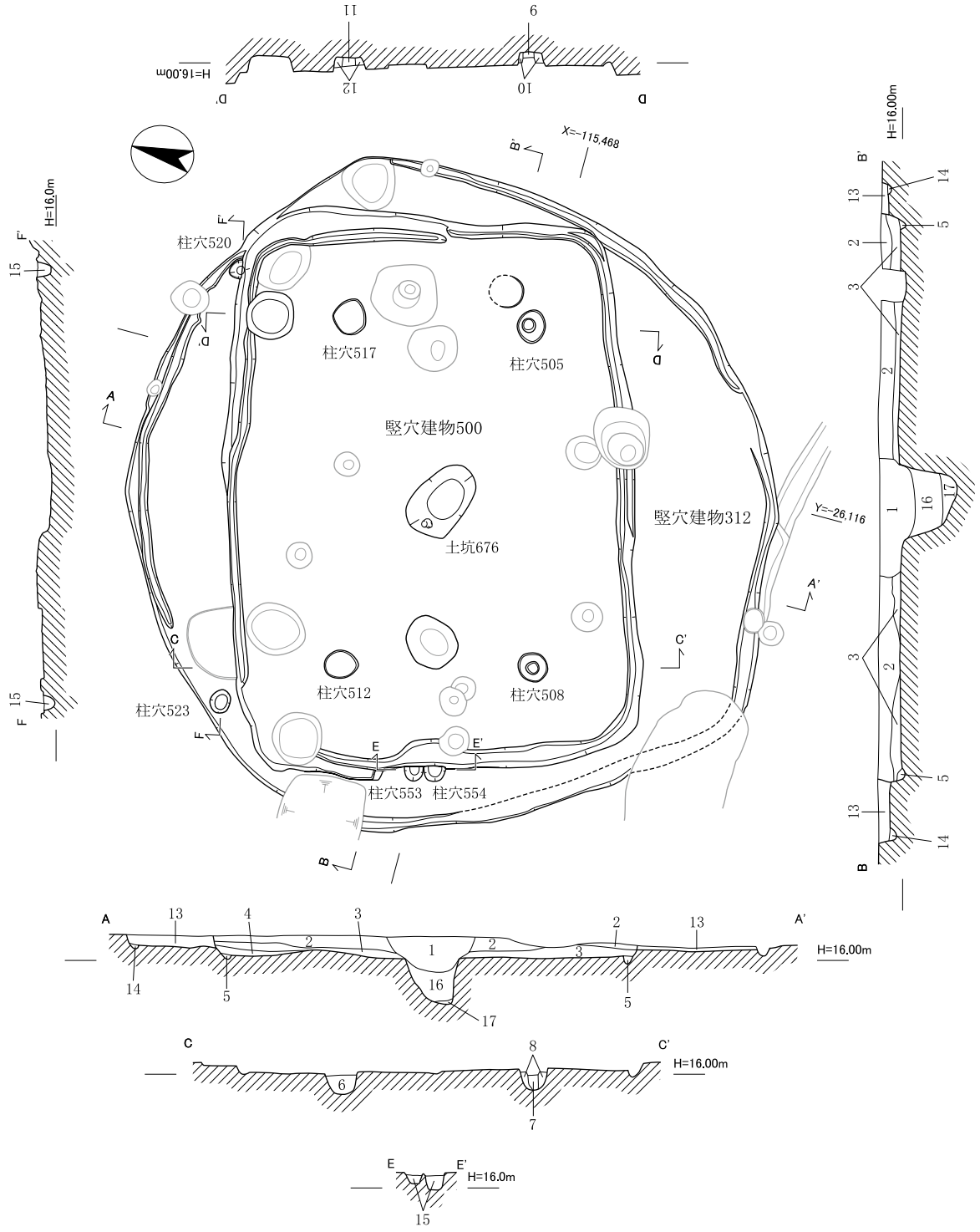


1　2.5Y4/2暗灰黄色 細砂　土壌化　炭化物・土器片少量混 ┐ 覆土
2　10YR5/4にぶい黄褐色 細砂　炭化物少量混 ┘
3　10YR5/1褐灰色 細砂　炭化物微量混 ┐ 壁溝
4　10YR3/1黒褐色 細砂　炭化物少量混 ┘
5　10YR4/1褐灰色 細砂　炭化物中量混
6　10YR4/2灰黄褐色 極細砂～粘質シルト　炭化物・土器片少量混
7　10YR2/1黒色 粘質シルト　炭化物・土器片微量混 ┐ 主柱穴
8　10YR5/1褐灰色 極細砂～粘質シルト ┘

9　10YR3/2黒褐色 細砂 ┐
10　10YR3/2黒褐色 細砂　炭化物少量混
11　10YR3/1黒褐色 細砂
12　2.5Y3/2黒褐色 細砂　　主柱穴
13　10YR4/2灰黄褐色 細砂
14　10YR2/1黒褐色 細砂　炭化物・土器片混
15　10YR3/2黒褐色 細砂　炭化物・土器片少量混 ┘

0　3m

竪穴建物320実測図（1：60）



1 2.5Y4/1黄灰色 細砂～極細砂 炭化物・土器片中量混(上面土坑)
2 10YR5/1褐灰色 細砂～極細砂 炭化物・土器片少量混
3 2.5Y5/4黄褐色 細砂～極細砂 炭化物・土器片微量混
4 2.5Y5/3黄褐色 極細砂～シルト 炭化物微量混
5 10YR5/4にぶい黄褐色 極細砂(竪穴建物500壁溝)
6 2.5Y4/2暗灰黄色 極細砂
7 5Y5/1灰色 極細砂～粘質シルト 炭化物微量混
8 2.5Y4/3暗オリーブ褐色 細砂
9 2.5Y4/2暗灰黄色 極細砂
10 2.5Y4/1黄灰色 極細砂
11 10YR5/1褐灰色 極細砂～シルト 土器片微量混
12 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂

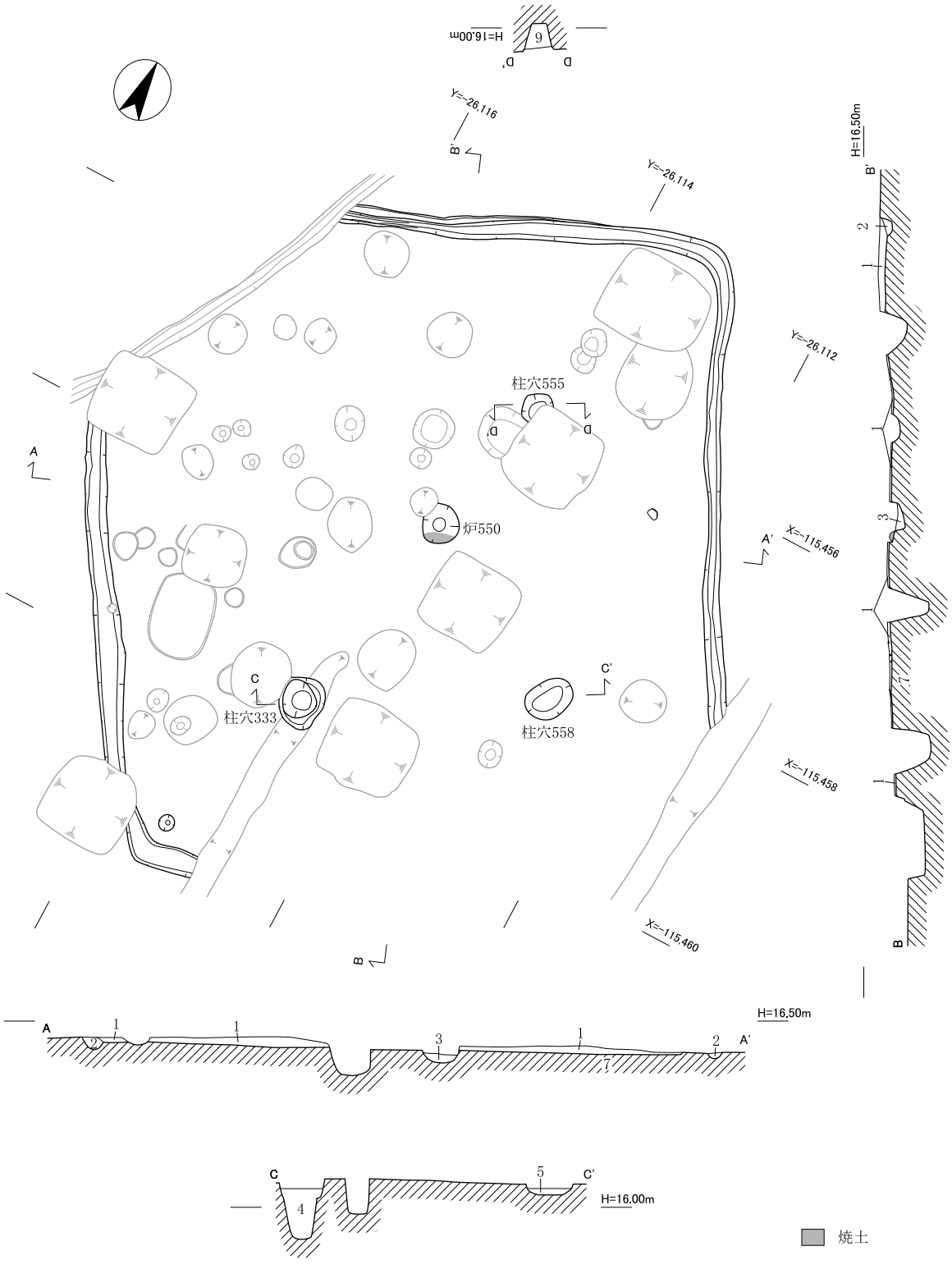
竪穴建物500覆土
竪穴建物500主柱穴

13 10YR4/1褐灰色 細砂～極細砂
炭化物・土器片微量混(竪穴建物312覆土)
14 10YR3/2黒褐色 細砂～極細砂(竪穴建物312壁溝)
15 10YR3/2黒褐色 細砂 炭化物・土器片少量混
(竪穴建物312主柱穴か)
16 10YR3/2黒褐色 極細砂～シルト
炭化物・土器片少量混
17 10YR3/1黒褐色 シルト 粘質
10YR6/6明黄褐色極細砂・炭化物混

土坑676

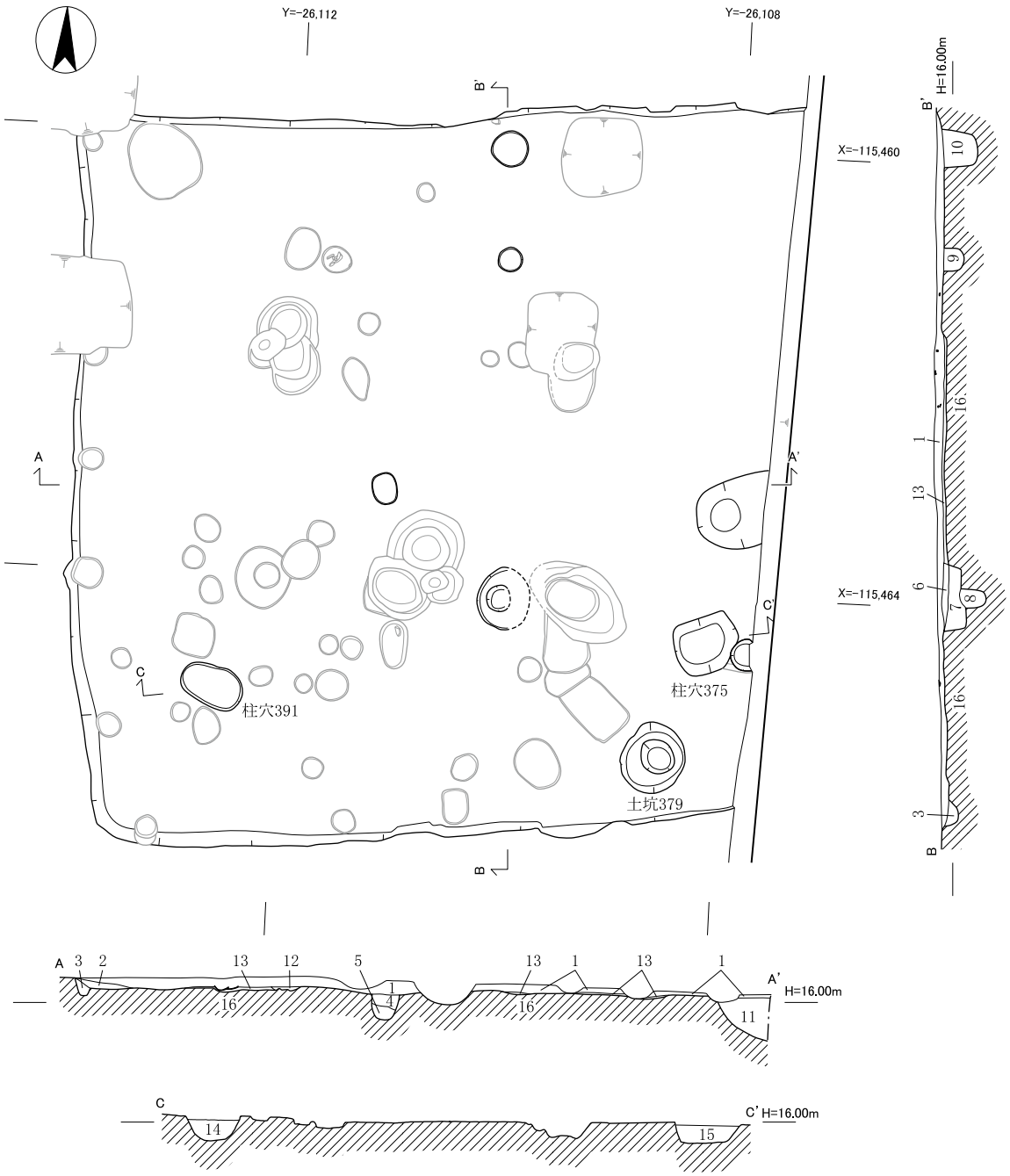
0 3m

竪穴建物312・500実測図（1：60）



1 10YR4/3にぶい黄褐色 極細砂 ―― 覆土
2 10YR5/1褐灰色 細砂 炭化物・土器片少量混 ―― 壁溝
3 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 細砂 焼土混 ―― 炉550
4 10YR4/2灰黄褐色 細砂 土器片混 ―― 主柱穴か
5 10YR3/2黒褐色 細砂 土器片微量混 ―― 主柱穴か
6 10YR3/2黒褐色 細砂 炭化物・土器片少量混 ―― 主柱穴か
7 10YR4/4褐色 細砂～極細砂 ―― 基盤層

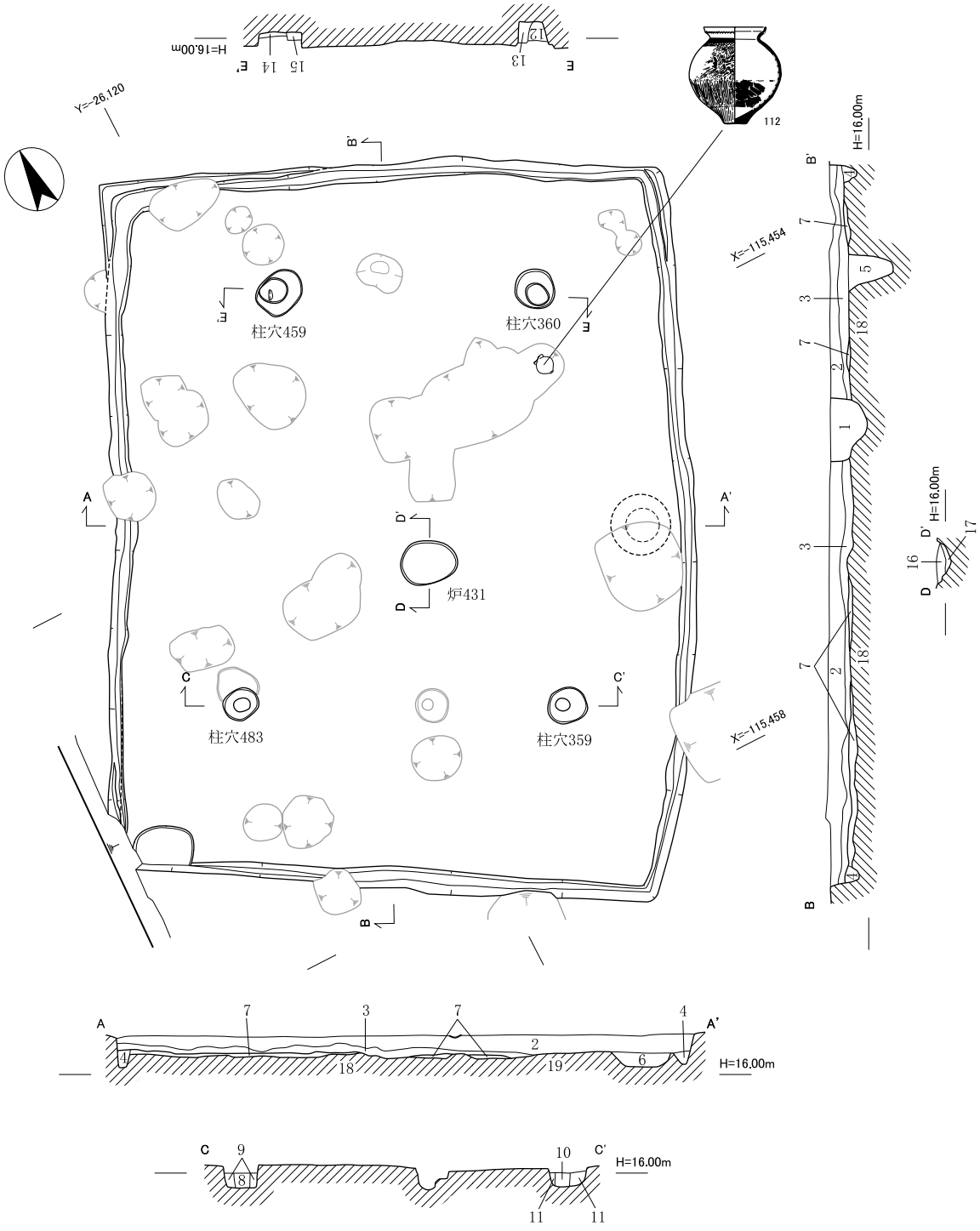
竪穴建物340実測図（1：60）



1 10YR3/2黒褐色 細砂～粗砂 土器片多量混 ― 覆土
2 10YR5/4にぶい黄褐色 細砂～中砂 10YR3/2黒褐色中砂ブロック少量混 ― 覆土
3 10YR5/6黄褐色 細砂～中砂 焼土混 10YR3/2黒褐色細砂ブロック微量混 ― 壁溝
4 10YR3/2黒褐色 細砂～中砂 焼土多量混 ― 柱穴678
5 10YR3/2黒褐色 細砂～中砂 10YR6/4にぶい黄橙色ブロック混 ― 柱穴678
6 10YR3/2黒褐色 極細砂～細砂 10YR6/4にぶい黄橙色細砂ブロック少量混 炭化物少量混 ― 柱穴679
7 10YR3/2黒褐色 極細砂～細砂 10YR6/4にぶい黄橙色細砂ブロック中量 炭化物多量混 ― 柱穴679
8 10YR3/2黒褐色 極細砂～細砂 10YR6/4にぶい黄橙色細砂ブロック多量混 ― 柱穴679
9 10YR3/1黒褐色 極細砂～細砂 炭化物多量混 ― 柱穴471
10 10YR4/2灰黄褐色 極細砂～細砂 炭化物多量混 ― 柱穴472
11 10YR3/4暗褐色 シルト 炭化物・土器片少量混 ― 柱穴677
12 10YR5/6黄褐色 細砂 焼土混
13 10YR3/1黒褐色 細砂～中砂 10YR6/6明黄褐色細砂ブロック多量混 固く締まる ― 貼床
14 10YR3/2黒褐色 細砂 炭化物・土器片少量混 ― 主柱穴か
15 10YR3/2黒褐色 極細砂 炭化物・土器片少量混 ― 主柱穴か
16 10YR4/4褐色 細砂 ― 基盤層(地山)

0 3m

竪穴建物355実測図（1：60）

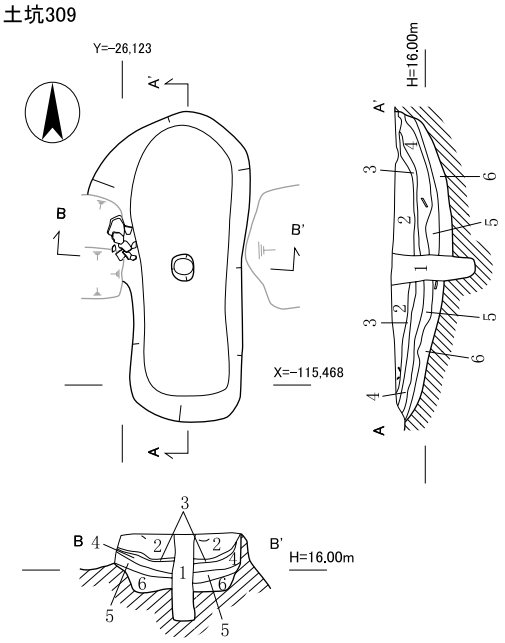


1 10YR4/2灰黄褐色 細砂 炭化物・土器片少量混(上面土坑)
2 10YR5/1褐灰色 細砂 炭化物・土器片多量 φ2cm以下の礫少量混
3 10YR4/1褐灰色 細砂～泥砂 炭化物・土器片少量混
4 10YR3/4暗褐色 細砂～泥砂(壁溝)
5 10YR4/4褐色 細砂 炭化物少量混(柱穴455)
6 2.5Y6/1黄灰色 細砂 土器片少量混(土坑680)
7 10YR5/6黄褐色 細砂～泥砂 炭化物微量混 かたく締まる(貼床)
8 10YR4/3にぶい黄褐色 中砂～細砂 炭化物微量混 ┐
9 10YR4/4褐色 中砂 ├ 主柱穴
10 7.5YR4/4褐色 中砂～細砂 炭化物微量混 ┘
11 7.5YR4/6褐色 中砂～細砂 ┐
12 10YR4/2灰黄褐色 中砂～細砂 やや粘質 ├ 主柱穴
13 10YR3/4暗褐色 中砂 炭化物微量混 ┘
14 10YR5/4にぶい黄褐色 細砂
15 7.5YR4/1褐灰色 シルト 粘質
16 7.5YR4/3褐色 細砂～中砂 炭化物・土器片微量混 ┐ 炉431
17 10YR4/3にぶい黄褐色 中砂 ┘
18 10YR3/3暗褐色 極細砂～泥砂 ┐ 基盤層
19 10YR4/1黄灰色 中砂～粗砂 ┘

0 3m

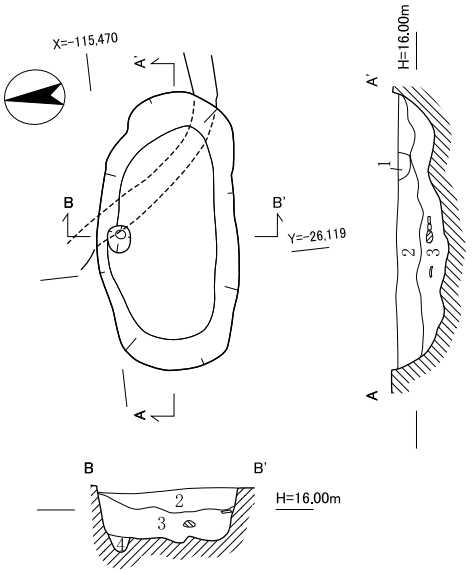
竪穴建物250実測図（1：60、土器は1：12）

土坑309



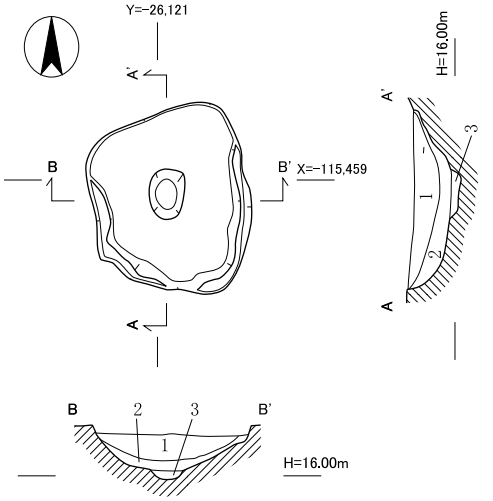
1　5Y4/1灰色 粘土　炭化物・土器片微量混
2　2.5Y4/1黄褐色 極細砂～シルト　炭化物・焼土・土器片少量混
3　10YR5/1褐灰色 極細砂～シルト　炭多量混
4　10YR3/1黒褐色 シルト　炭化物少量混
5　2.5Y5/3黄褐色 細砂　焼土少量混
6　2.5Y4/1黄灰色 極細砂～シルト　炭化物・土器片少量混

土坑316



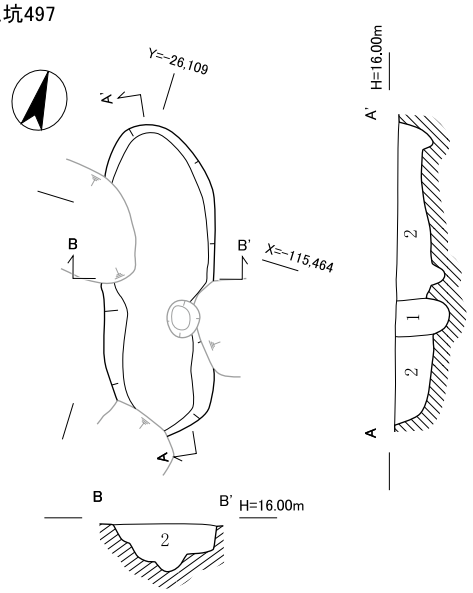
1　10YR3/2黒褐色 細砂～極細砂(竪穴建物312壁溝)
2　10YR3/2黒褐色 細砂　炭化物・土器片少量
　φ3㎝の礫微量混
3　10YR3/4暗褐色 細砂　炭化物・土器片少量混
　2.5Y6/8明黄褐色細砂(φ2～5㎝)混
4　10YR3/1黒褐色 極細砂

土坑295



1　10YR4/1灰黄褐色 細砂　炭化物・土器片少量混　下部に炭
2　2.5Y4/1黄灰色 細砂　炭化物・土器片少量混
3　7.5YR4/1褐灰色 細砂　炭化物・土器片少量混

土坑497

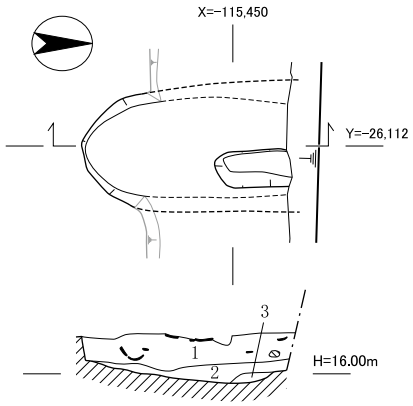


1　10YR3/1黒褐色　極細砂～シルト　炭化物・土器片少量混
　(竪穴建物480 柱穴573)
2　10YR4/1褐灰色　極細砂～シルト　炭化物・土器片少量混

0　2m

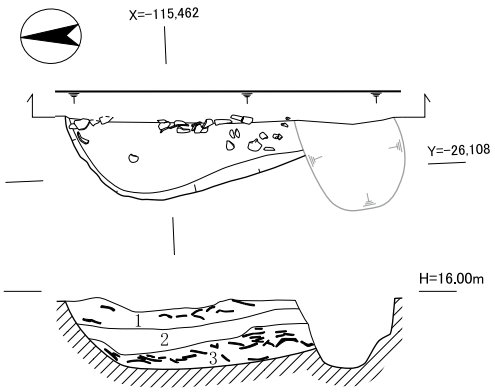
土坑309・316・295・497実測図（1：50）

土坑216



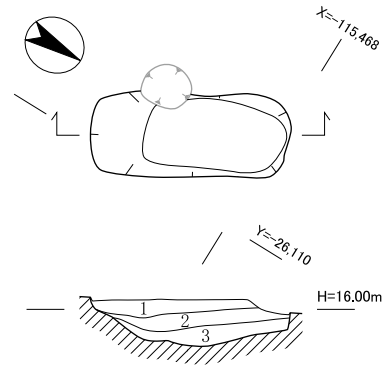
1　10YR3/2黒褐色 細砂　やや粘質
　φ8cm以下礫微量混　炭化物・土器片多量混
2　10YR4/4褐色 泥砂　炭化物・土器片微量混
3　10YR2/2黒褐色 細砂　粘質　炭化物少量混

土坑400



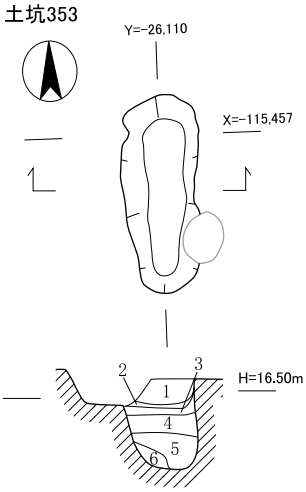
1　10YR3/2黒褐色 シルト　土器片多量混　炭化物少量混
2　10YR4/1褐灰色 シルト　粘性有　炭化物・土器片少量混
3　10YR1.7/1黒色 シルト　粘性有　炭化物・土器片多量混

土坑562



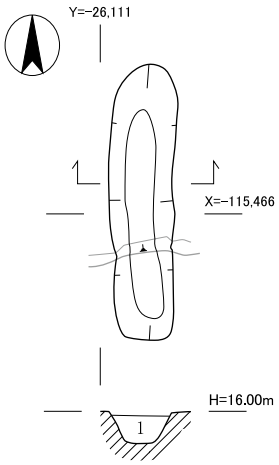
1　10YR3/1黒褐色 シルト　炭化物・土器片少量混
2　2.5Y3/1黒褐色 シルト　粘性有　炭化物多量・
　土器片少量混
3　2.5Y4/2暗灰黄色 シルト　粘性有
　土器片少量混

土坑353



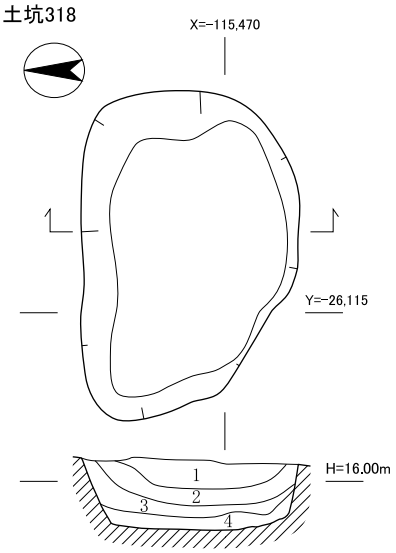
1　10YR2/2黒褐色 極細砂～細砂　10YR6/6
　明黄褐色シルトブロック混　炭化物少量混
2　10YR3/1黒褐色 シルト　炭化物多量混
3　10YR3/1黒褐色 シルト　炭化物少量混
4　7.5YR4/1褐灰色 シルト　炭化物・灰・焼土少量混
5　7.5YR2/1黒色 粘土　炭化物・灰・焼土少量混
6　2.5Y4/2暗灰黄色 粘質シルト　炭化物微量混

土坑410



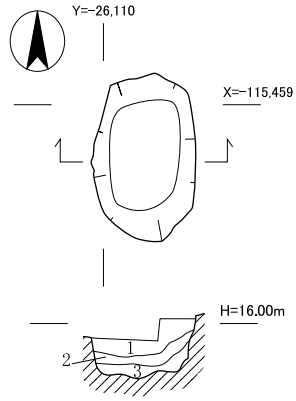
1　10YR3/2黒褐色 細砂
　炭化物・土器片混

土坑318



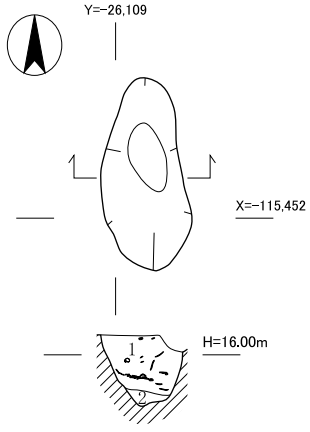
1　10YR4/2灰黄褐色 極細砂　炭化物微量混
2　10YR3/4暗褐色 極細砂　炭化物・土器片少量混
3　10YR4/1褐灰色 シルト　焼土・炭化物中量混
4　7.5YR4/1褐灰色 粘質シルト　10YR6/6黄色
　極細砂ブロック・炭化物・焼土・土器片少量混

土坑617



1　10YR4/1褐灰色 極細砂
　炭化物・土器片少量混
2　10YR5/1褐灰色 極細砂
　炭化物・土器片微量混
3　2.5Y4/1黄灰色 粘質シルト
　炭化物微量混

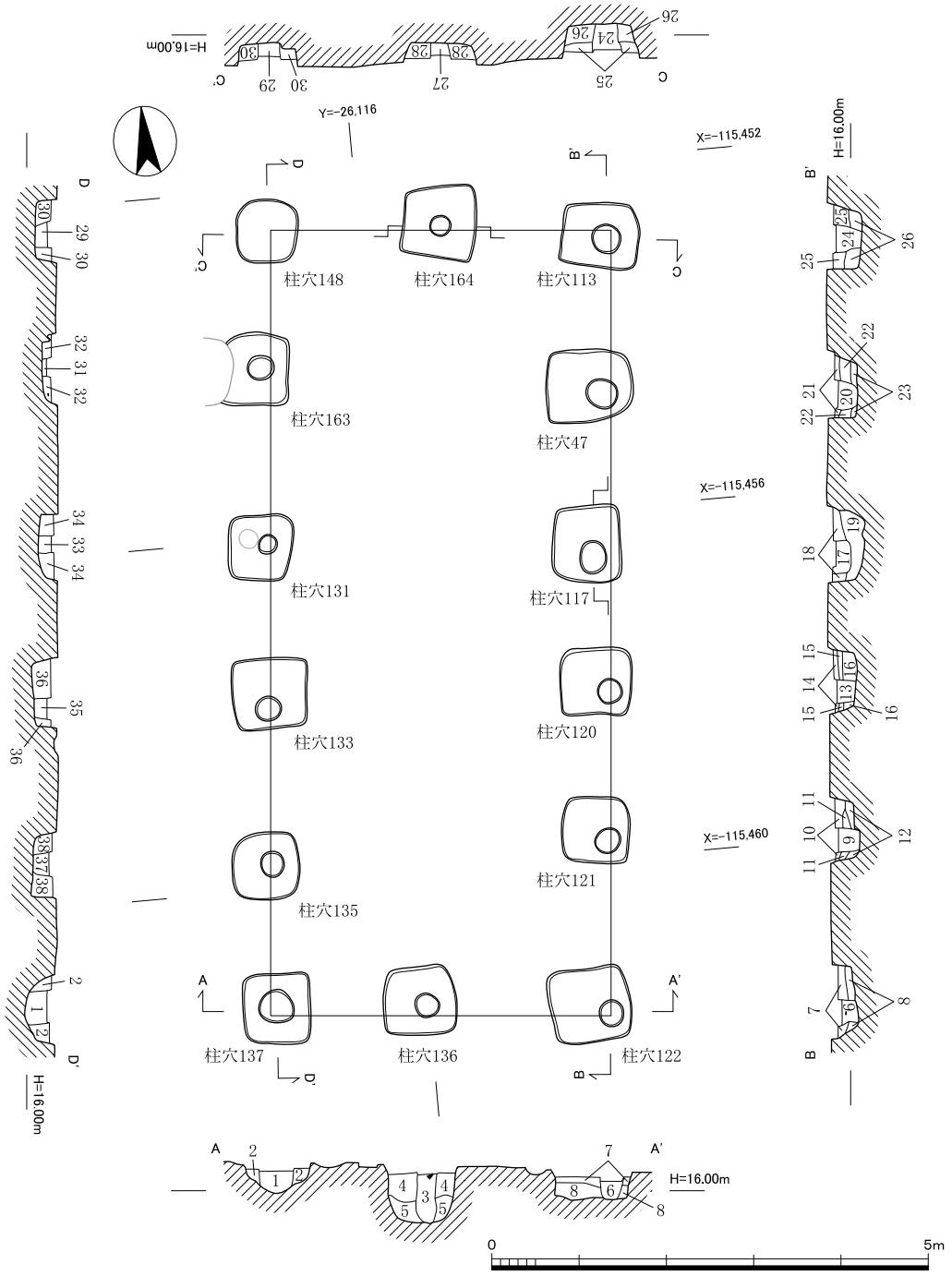
土坑205



1　10YR4/2灰黄褐色 細砂
　炭化物・土器片多量混
2　2.5Y4/6オリーブ褐色 極細砂

土坑216・400・562・353・410・318・617・205実測図（1：50）

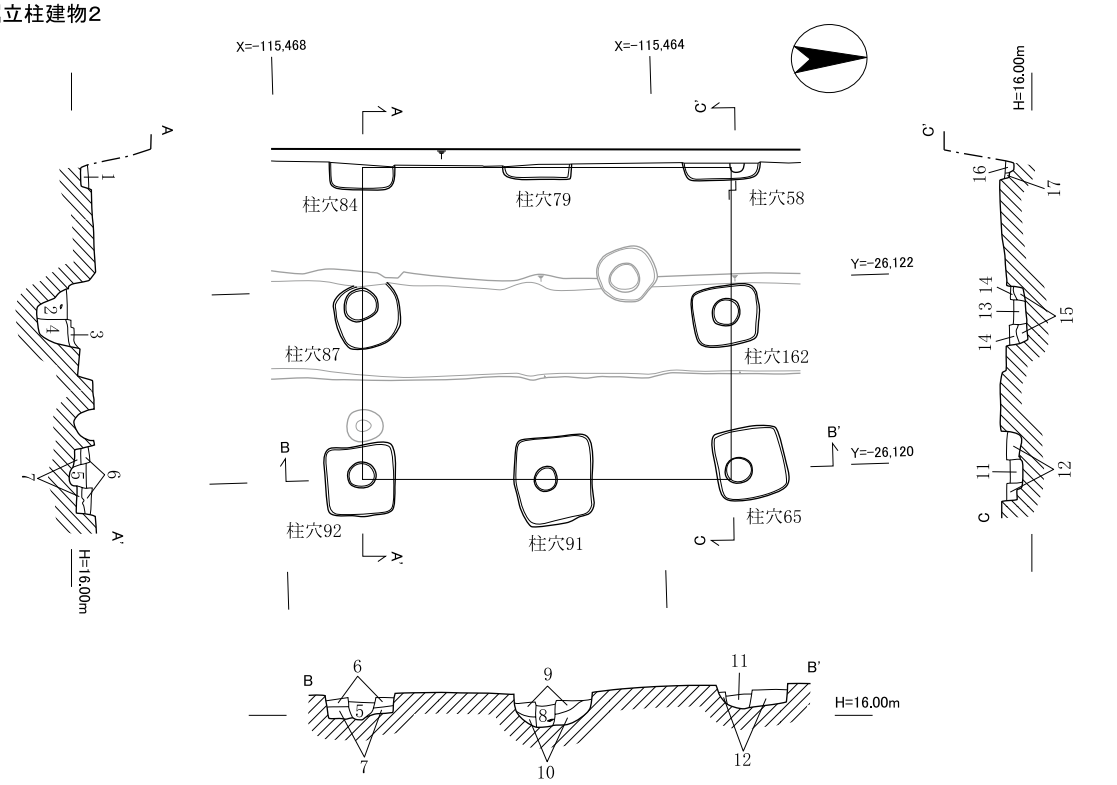
図版14　遺構



1　2.5Y5/1黄灰色 細砂　マンガン中量混
2　10YR5/6黄褐色 細砂　マンガン少量混
3　7.5YR4/2灰褐色 細砂　マンガン少量混
4　7.5YR4/4褐色 細砂　炭化物・マンガン少量混
5　10YR4/6褐色 泥砂～シルト
6　10YR4/1褐灰色 細砂　φ5cm以下の礫・炭化物微量混
7　10YR3/2黒褐色 細砂　マンガン少量　土器片微量混
8　10YR5/1褐灰色 細砂　マンガン少量　土器片微量混
9　10YR4/1褐灰色 細砂　やや粘質　炭化物・土器片微量混
10　5Y4/2灰オリーブ色 細砂　炭化物・土器片微量混
11　5Y3/2オリーブ黒色 細砂　5Y6/6オリーブ色細砂混
12　5Y4/3暗オリーブ色 細砂　5Y6/6オリーブ色細砂混　土器片微量混
13　5Y3/1オリーブ黒色 細砂　炭化物・土器片少量混
14　2.5Y5/1黄灰色 細砂　φ5cm以下の礫微量　炭化物・土器片混
15　2.5Y4/2暗灰黄色 細砂　5Y6/6オリーブ色細砂少量混
16　5Y4/3暗オリーブ色 細砂　やや粘質　土器片微量混
17　10YR3/1黒褐色 細砂　やや粘質　炭化物・土器片少量混
18　10YR4/2灰黄褐色 細砂　マンガン少量　炭化物・土器片微量混
19　10YR3/2黒褐色 細砂　炭化物・土器片微量混
20　10YR3/2黒褐色 細砂　やや粘質　マンガン・炭化物・土器片少量混
21　2.5Y3/2黒褐色 細砂　マンガン中量　鉄分少量混
22　2.5Y3/1黒褐色 細砂　マンガン微量　炭化物・土器片少量混
23　2.5Y3/3暗オリーブ褐色 泥砂　炭化物・土器片微量混
24　10YR4/1褐灰色 細砂　マンガン微量　炭化物・土器片少量混
25　10YR3/3暗褐色 細砂　マンガン・鉄分・土器片少量混
26　10YR3/4暗褐色 細砂　炭化物・マンガン少量混
27　2.5Y5/3黄褐色 泥砂　マンガン少量混
28　2.5Y4/6オリーブ褐色 泥砂　マンガン少量混
29　2.5Y3/2黒褐色 細砂　マンガン少量　炭化物・土器片微量混
30　10YR5/3にぶい黄褐色 細砂　マンガン微量　土器片少量混
31　10YR3/2黒褐色 細砂　φ6cmの礫微量混
32　10YR3/4暗褐色 細砂　土器片中量混
33　10YR4/1褐灰色 細砂　φ5cm以下の礫微量　土器片微量混
34　2.5Y3/2黒褐色 細砂　φ5cm以下の礫微量　土器片微量混
35　10YR5/4にぶい黄褐色 細砂
36　10YR4/6褐色 細砂　マンガン少量混
37　7.5YR4/3褐色 細砂　マンガン中量混
38　7.5YR5/2灰褐色 細砂　マンガン少量混

掘立柱建物１実測図（１：80）

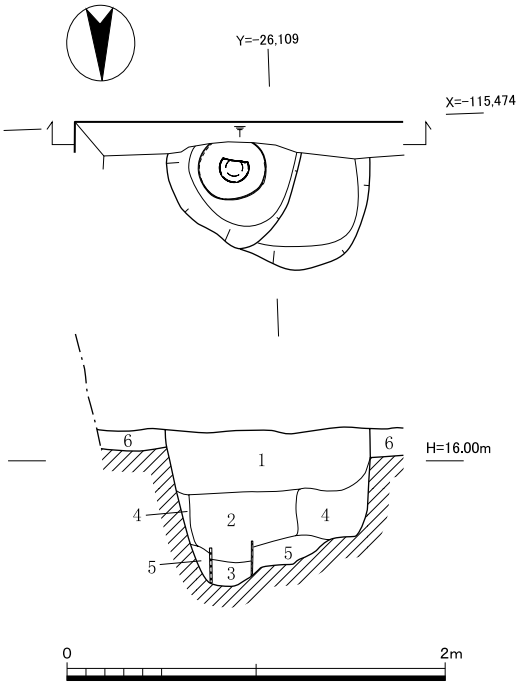
掘立柱建物2



1 10YR4/3にぶい黄褐色 細砂 マンガン多量 土器片微量混
2 10YR2/3黒褐色 細砂 マンガン少量 土器片微量混
3 10YR3/2黒褐色 細砂 マンガン少量 土器片微量混
4 10YR5/1褐灰色 細砂 マンガン少量 土器片微量混
5 7.5YR4/2灰褐色 細砂 マンガン少量 土器片微量混
6 10YR4/2灰黄褐色 細砂 マンガン少量混
7 10YR5/6黄褐色 細砂
8 10YR4/1褐灰色 細砂 やや粘質 土器片混
9 2.5Y4/1黄灰色 細砂 φ3～5㎝の礫・土器片微量混
10 10YR5/6黄褐色 細砂
11 2.5Y3/2黒褐色 細砂 やや粘質 土器片微量混
12 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂 炭化物・土器片微量混
13 10YR3/4暗褐色 細砂 炭化物・土器片少量混
14 10YR4/6褐色 細砂 炭化物・土器片微量混
15 10YR5/6黄褐色 細砂 マンガン少量混
16 2.5Y4/1黄灰色 細砂 やや粘質 土器片微量混
17 10YR5/4にぶい黄褐色 細砂 マンガン微量混

0 5m

井戸322

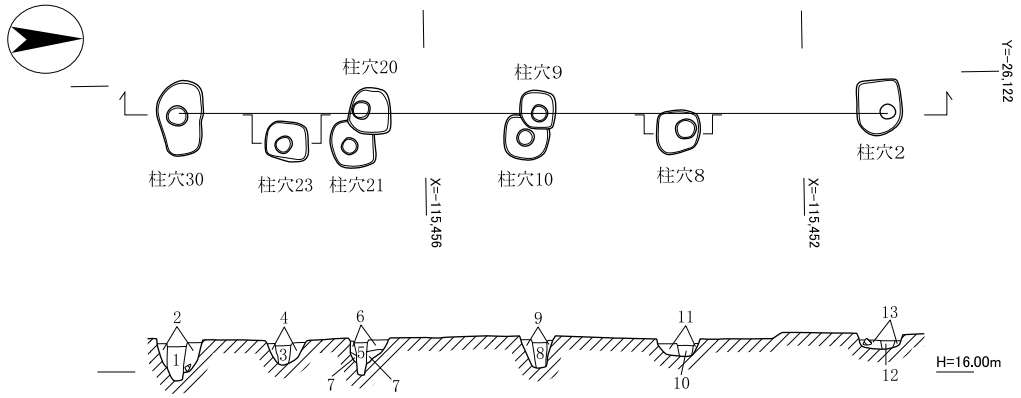


1 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 極細砂 ── 埋土
2 2.5Y4/2暗灰黄色 細砂～シルト ┐
3 2.5Y4/2暗灰黄色 中砂～粗砂 ┘ 井戸枠埋土
4 2.5Y6/6黄灰色 細砂 ┐
5 10YR4/4褐色 細砂 ┘ 掘形埋土
6 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 中砂～粗砂 土壌化(遺物包含層2)

0 2m

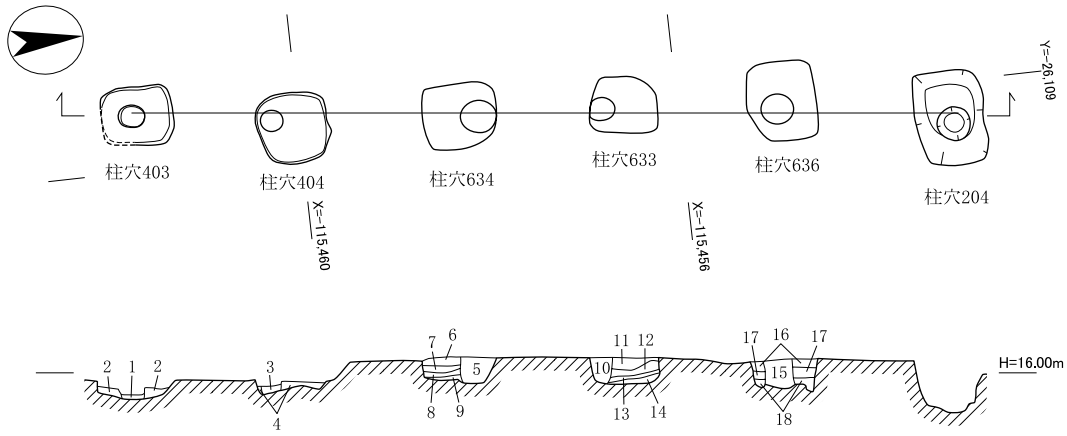
掘立柱建物２、井戸332実測図（１：80、１：40）

柱列3



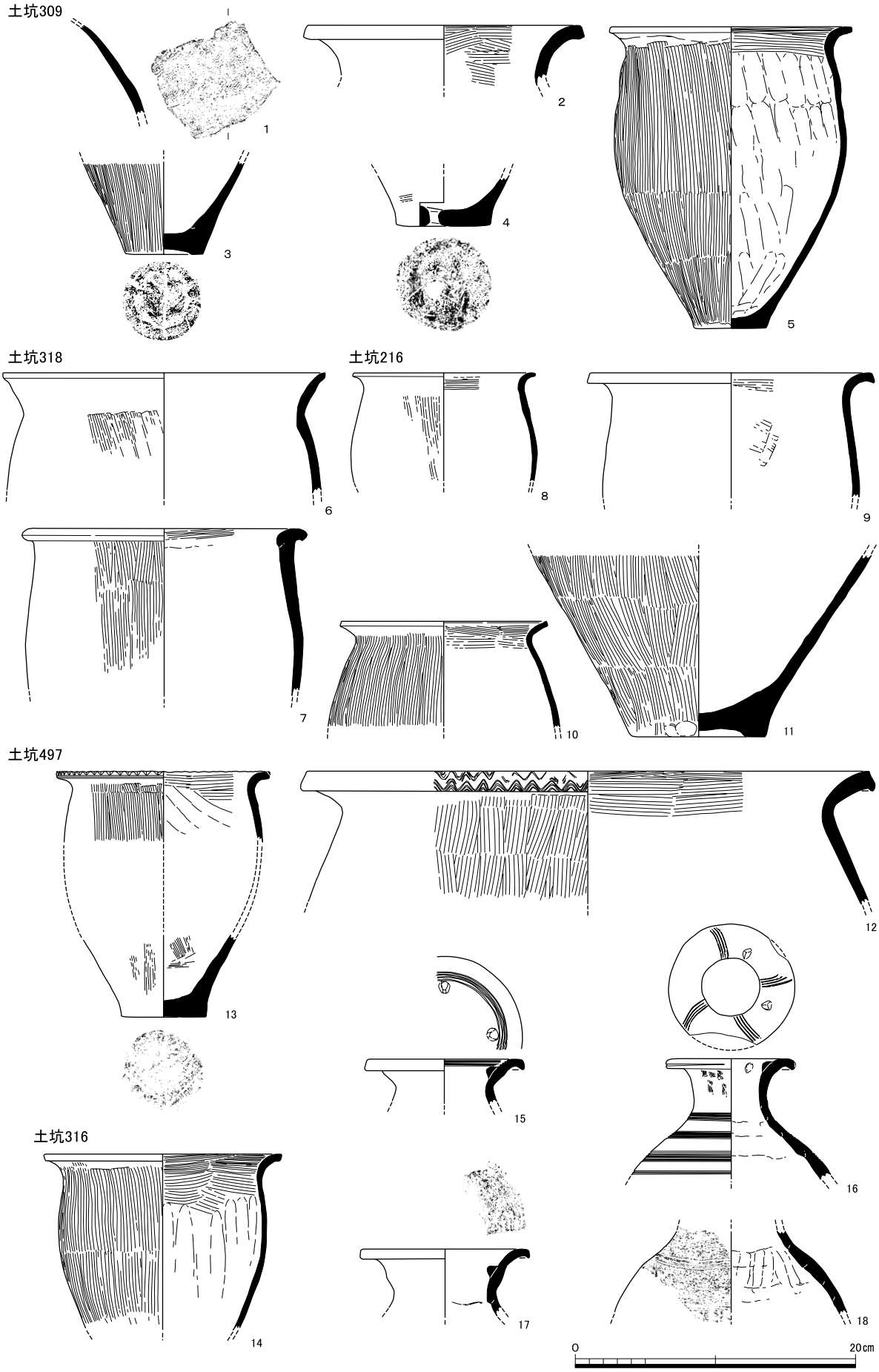
1　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト　炭化物混
2　10YR5/3にぶい黄褐色 シルト　炭化物・土器片混
3　10YR3/3暗褐色 シルト
4　10YR3/4暗褐色 シルト
5　10YR3/3暗褐色 シルト
6　10YR4/2灰黄褐色 シルト
7　10YR3/4暗褐色 シルト
8　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト　　土器片混
9　10YR3/3暗褐色 シルト　炭化物・土器片混
10　10YR3/2黒褐色 シルト
11　10YR4/2灰黄褐色 シルト　炭化物・土器片混
12　10YR3/2黒褐色 シルト
13　10YR3/3暗褐色 シルト

柱列4

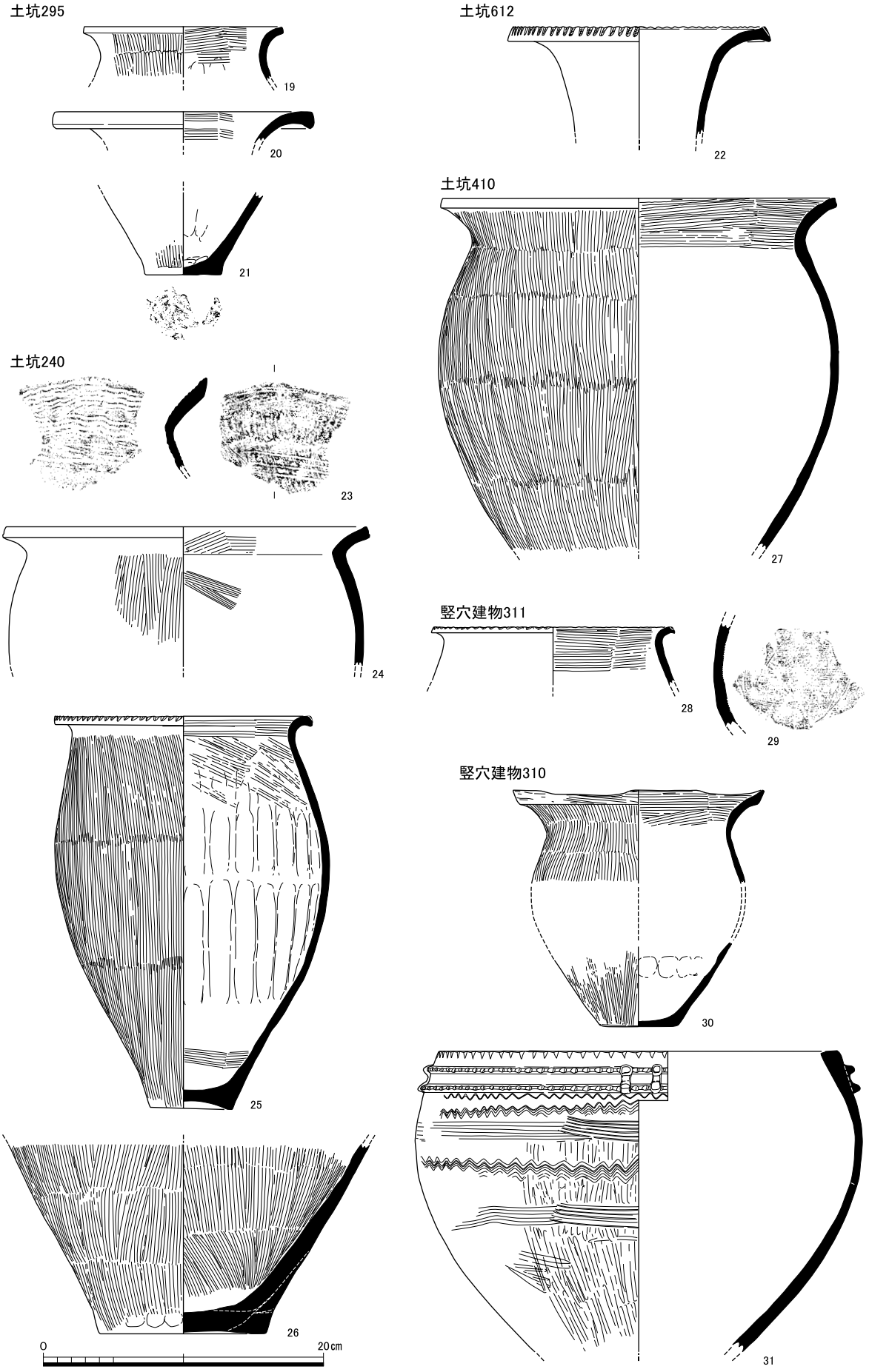


1　10YR4/1褐灰色 細砂　炭化物・土器片微量混
2　10YR4/4褐色 細砂
3　10YR4/1褐灰色 シルト～細砂　炭化物・土器片少量混
4　10YR4/4褐色 細砂　φ3㎝の10YR5/8黄褐色細砂ブロック混
5　10YR4/2灰黄褐色 シルト　土器片少量混
6　10YR5/2灰黄褐色 シルト　炭化物微量混
7　10YR3/2黒褐色 シルト　炭化物微量混
8　10YR4/1褐灰色 シルト～極細砂
9　10YR5/6黄褐色 シルト
10　10YR3/2黒褐色 シルト　炭化物微量混
11　10YR5/6黄褐色 シルト　土器片少量混
12　10YR3/4暗褐色 シルト　土器片少量混
13　10YR5/6黄褐色 シルト　土器片少量混
14　10YR3/3暗褐色 シルト　土器片少量混
15　10YR3/3暗褐色 シルト　炭化物・土器片少量混
16　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト　土器片少量混
17　10YR4/1褐灰色 シルト　炭化物・土器片少量混
18　10YR5/6黄褐色 シルト　炭化物微量混

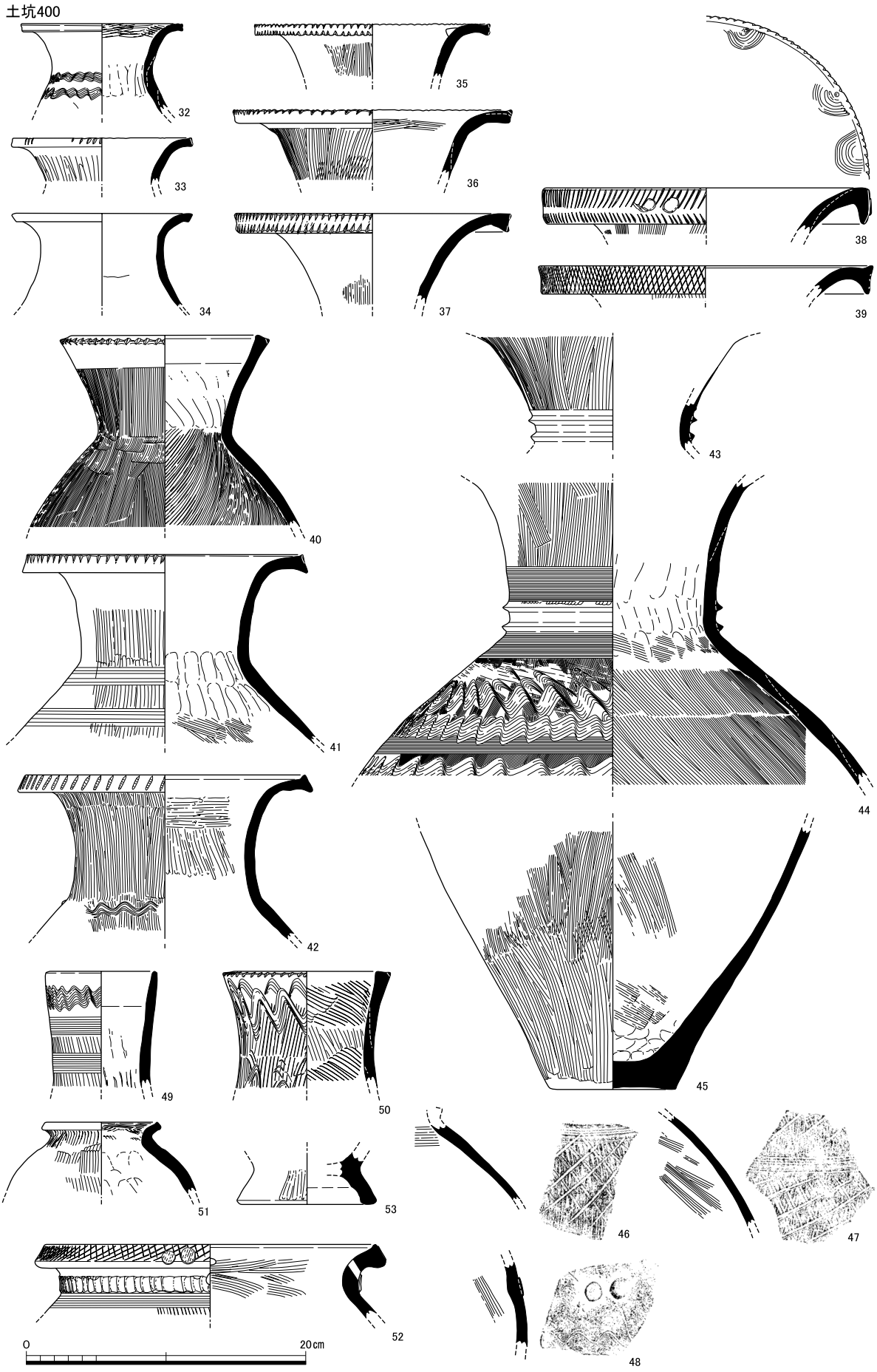
柱列３・４実測図（１：80）



土坑309・318・216・497・316出土土器実測図（1 ： 4）

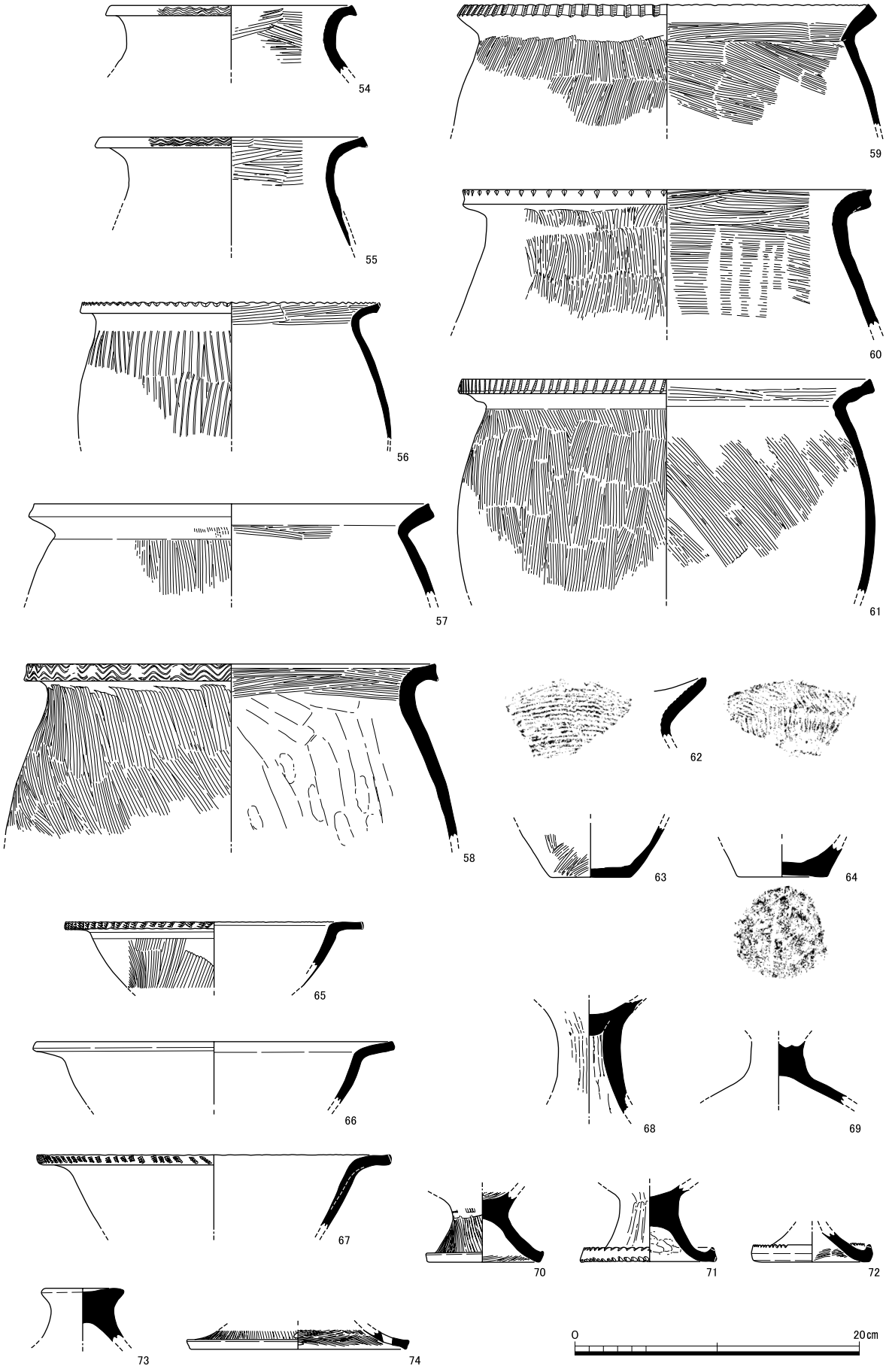


土坑295・612・240・410、竪穴建物310・311出土土器実測図（1 : 4）

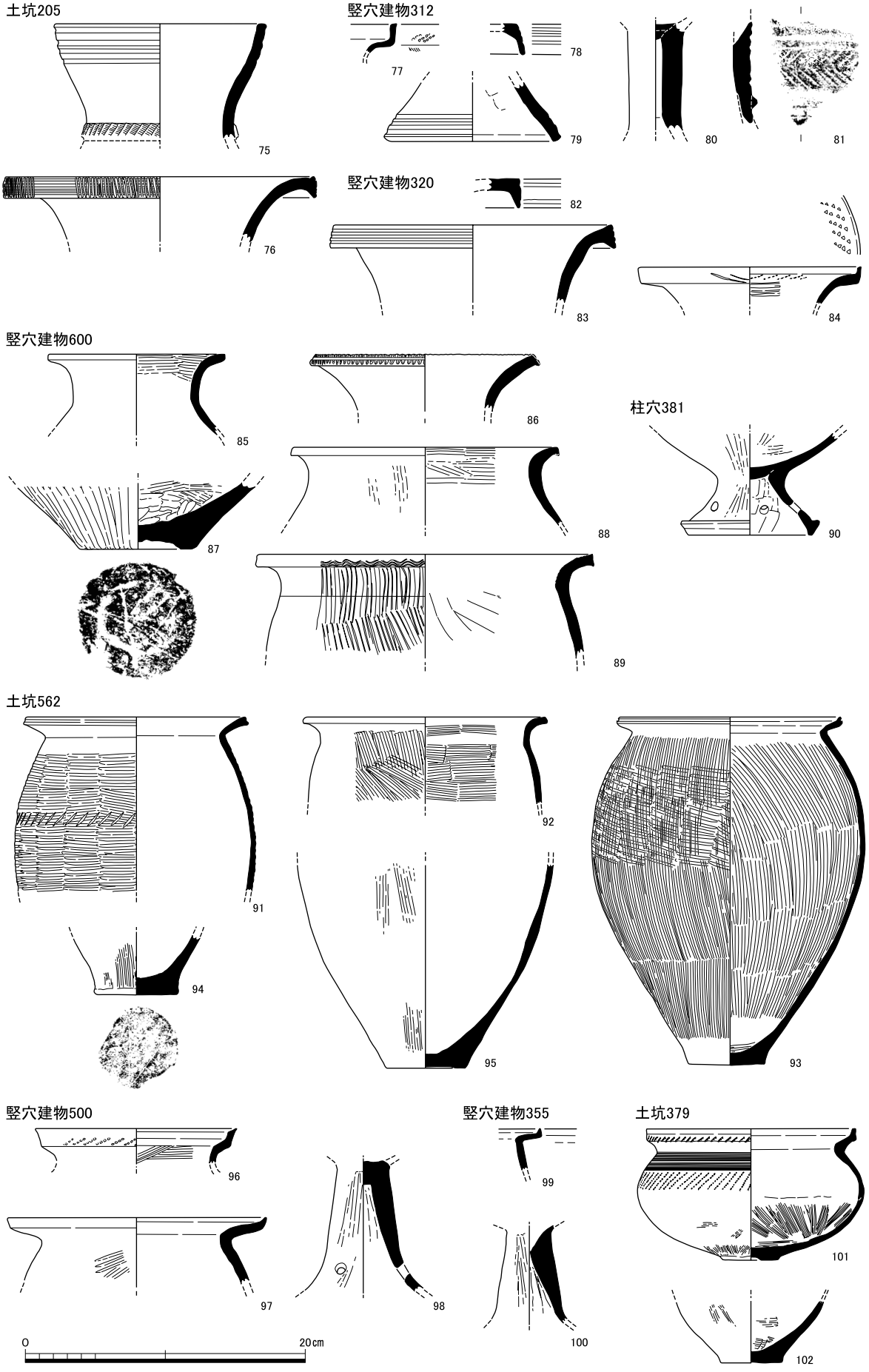


土坑400出土土器実測図１（１：４）

土坑400

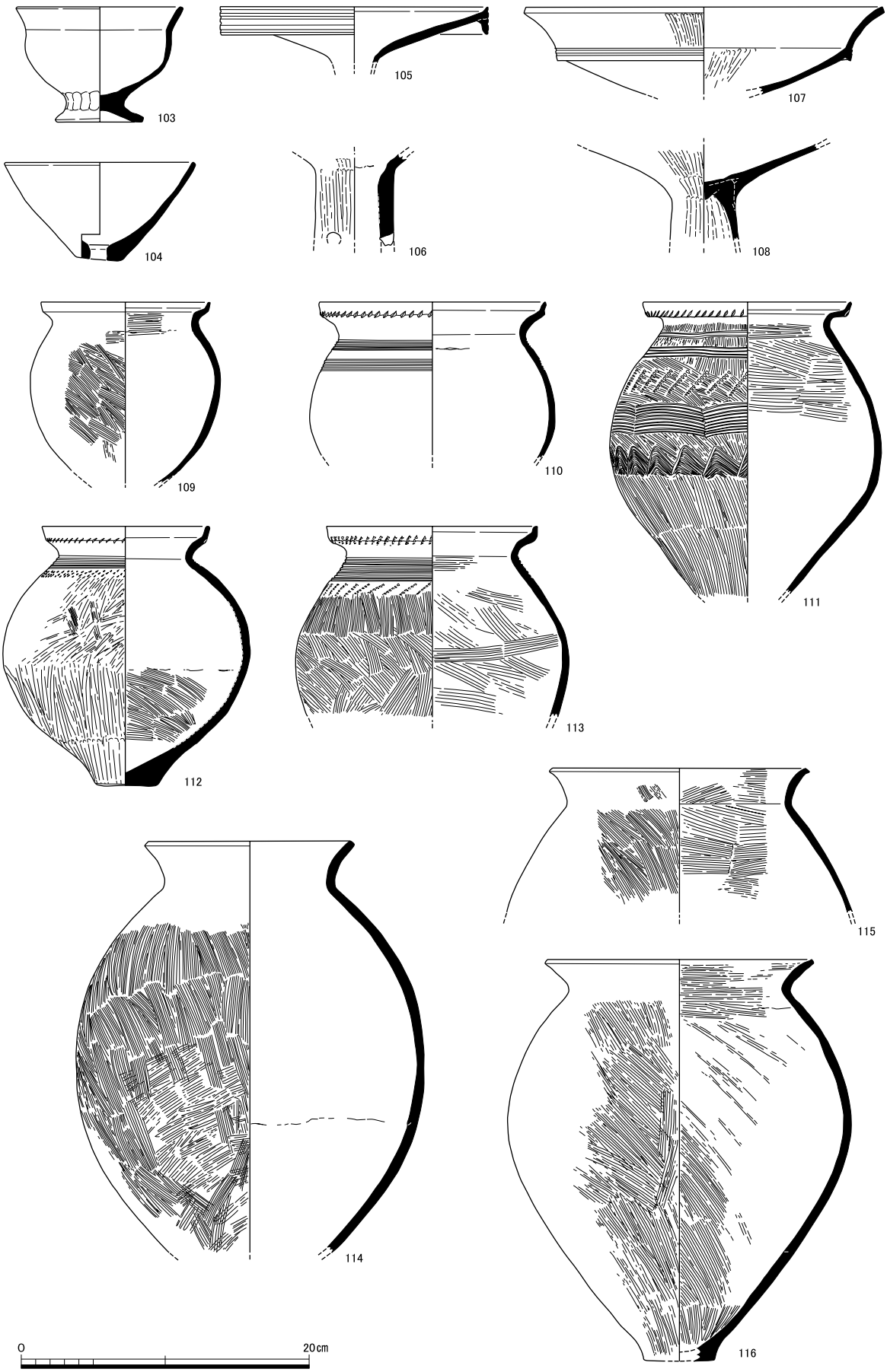


土坑400出土土器実測図２（１：４）



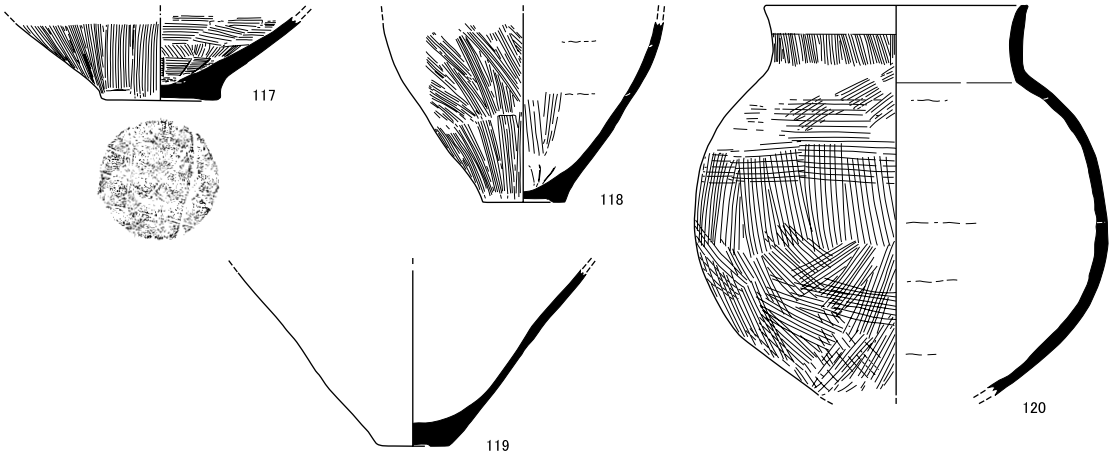
柱穴381、土坑205・562・379、竪穴建物312・320・600・500・355出土土器実測図（1 : 4）

竪穴建物250

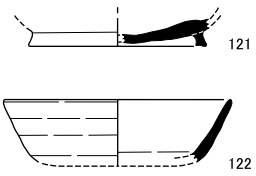


竪穴建物250出土土器実測図１（１：４）

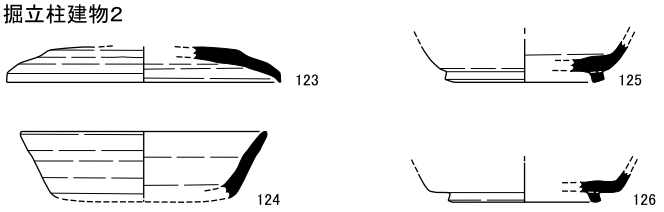
竪穴建物250



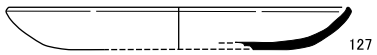
掘立柱建物1



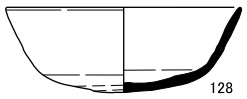
掘立柱建物2



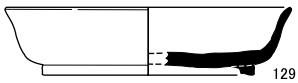
遺物包含層2掘下げ



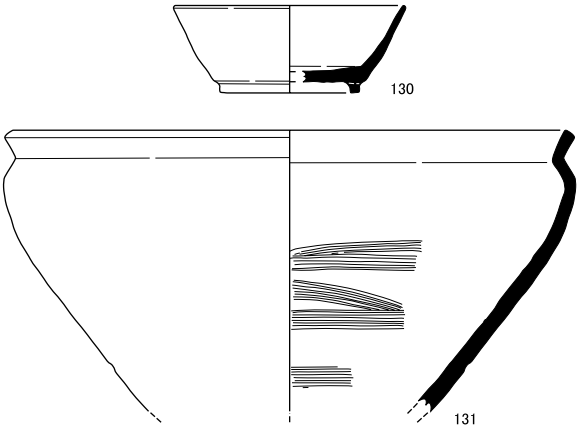
柱穴126



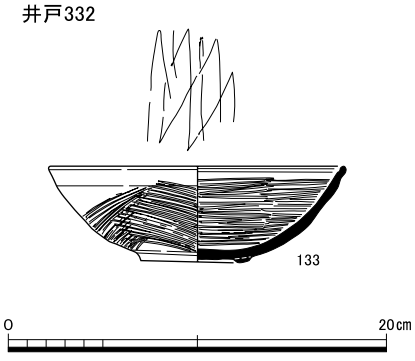
柱穴12



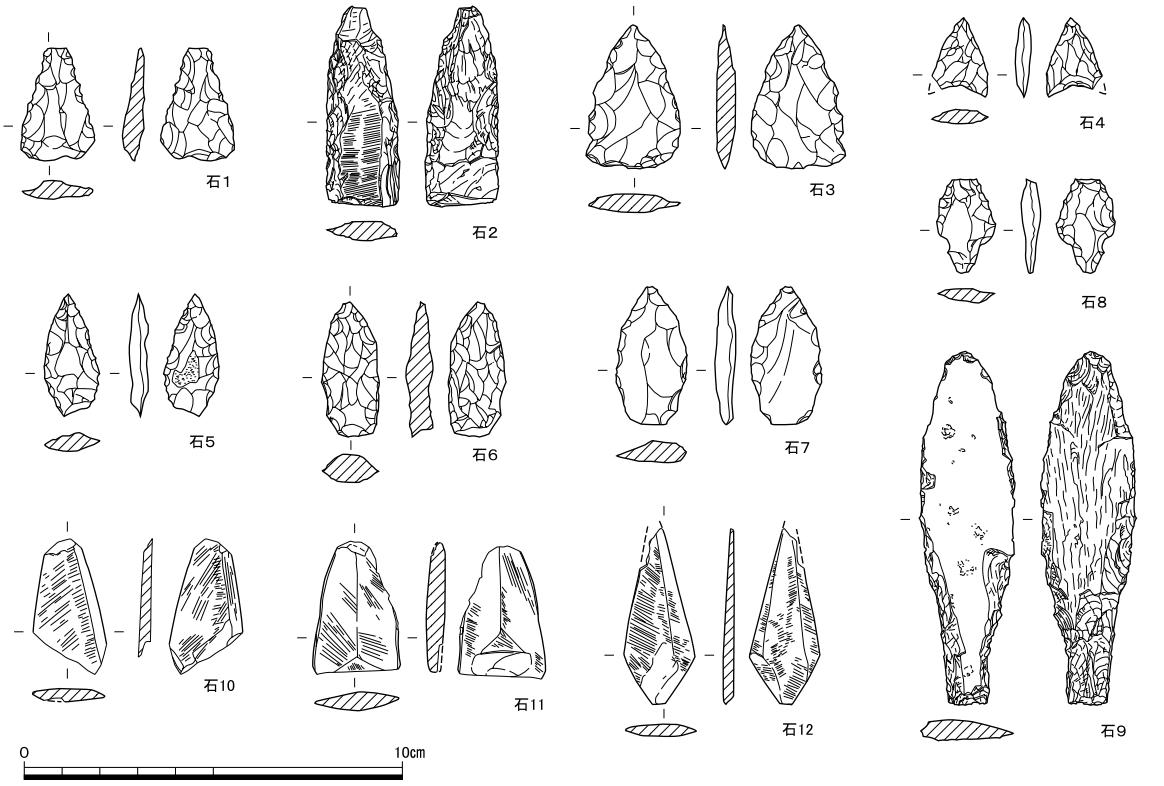
柱穴171

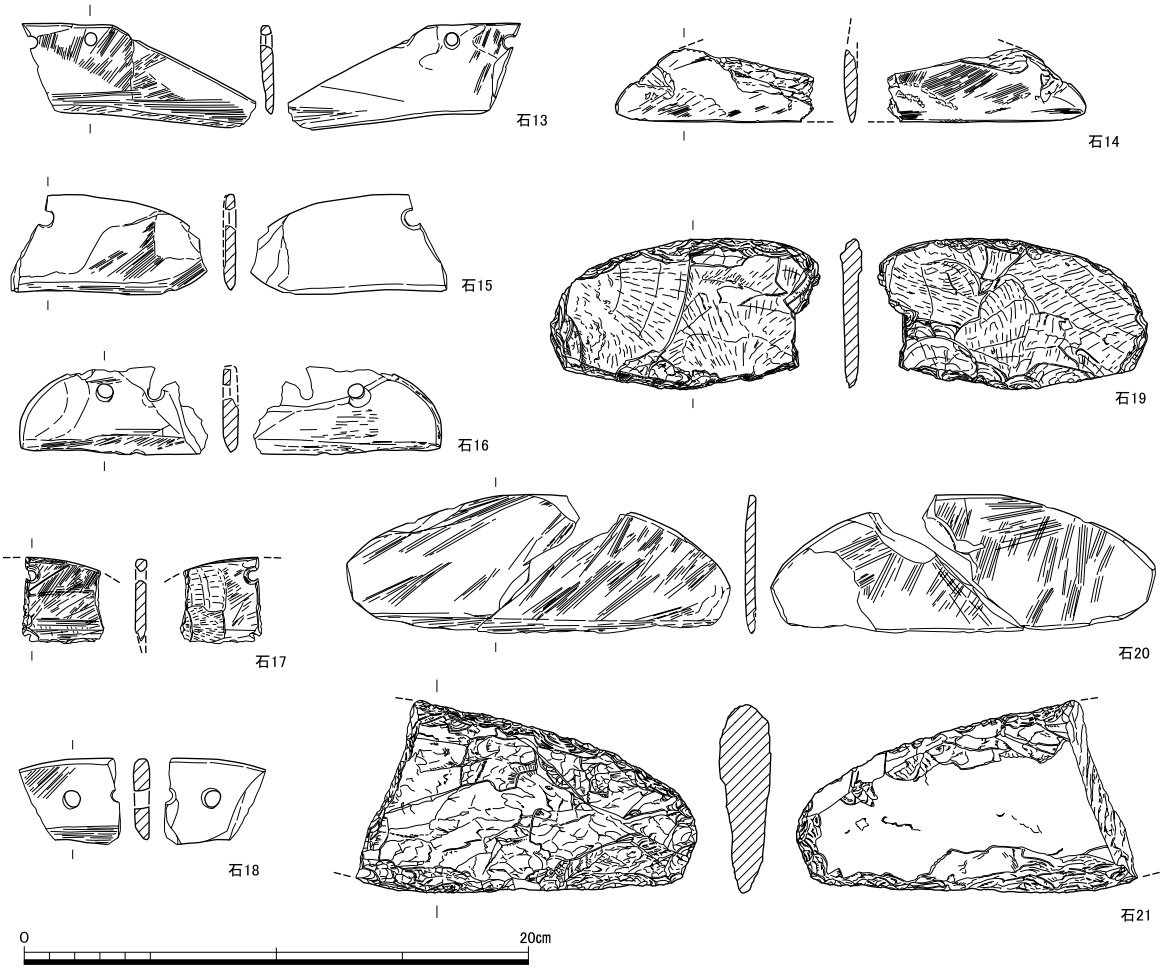


井戸332

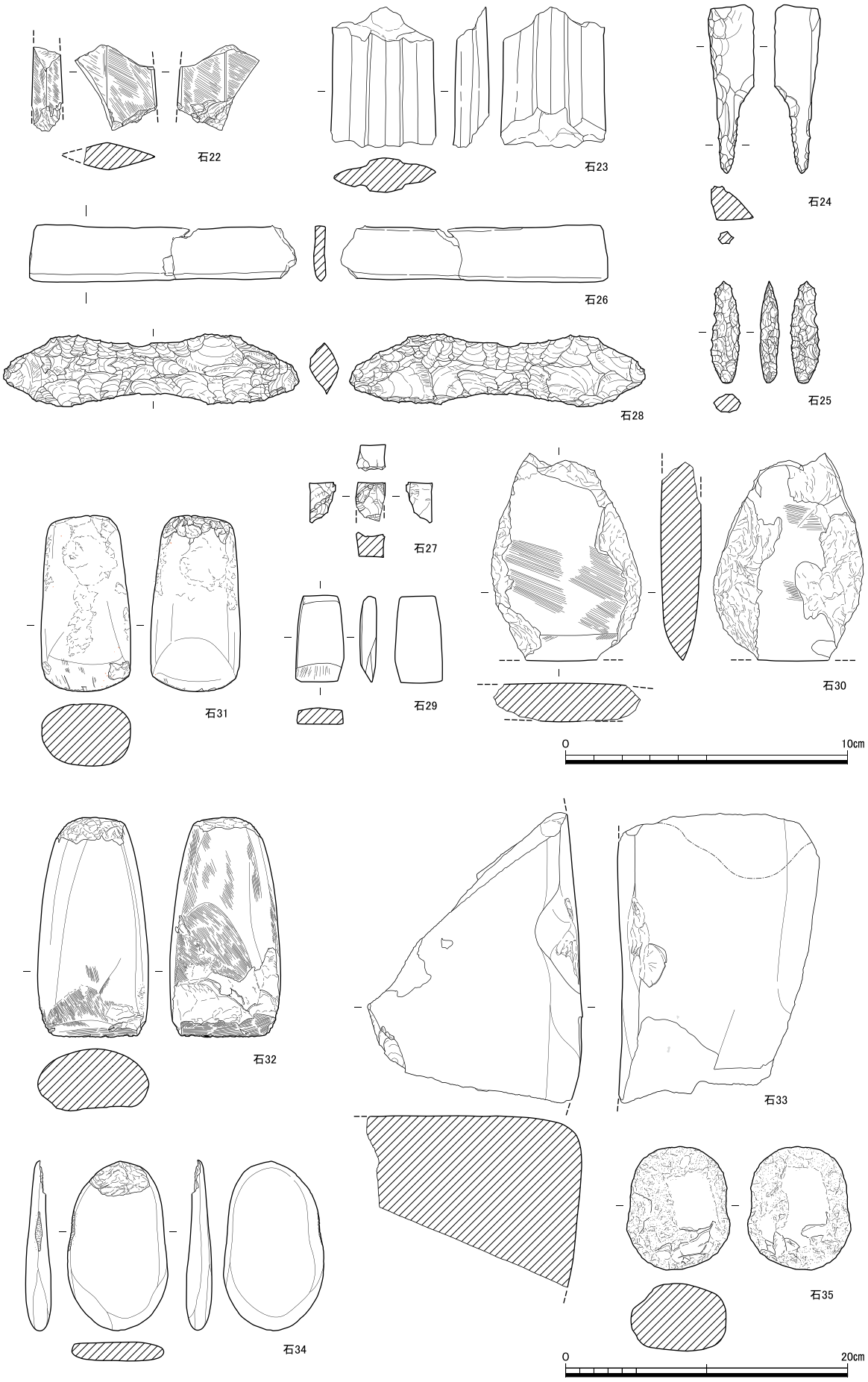


竪穴建物250出土土器実測図２、奈良時代以降の土器実測図（１：４）

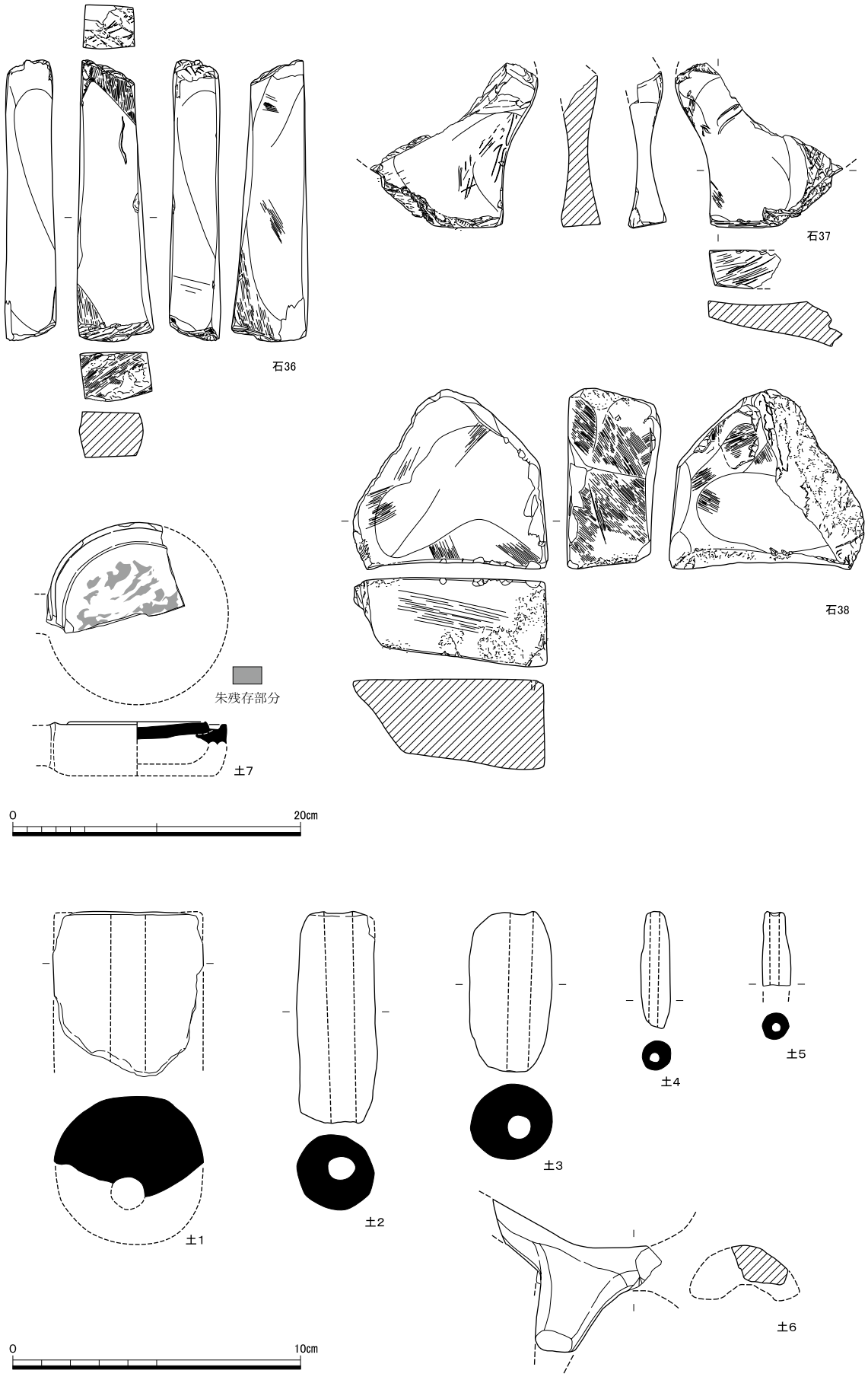




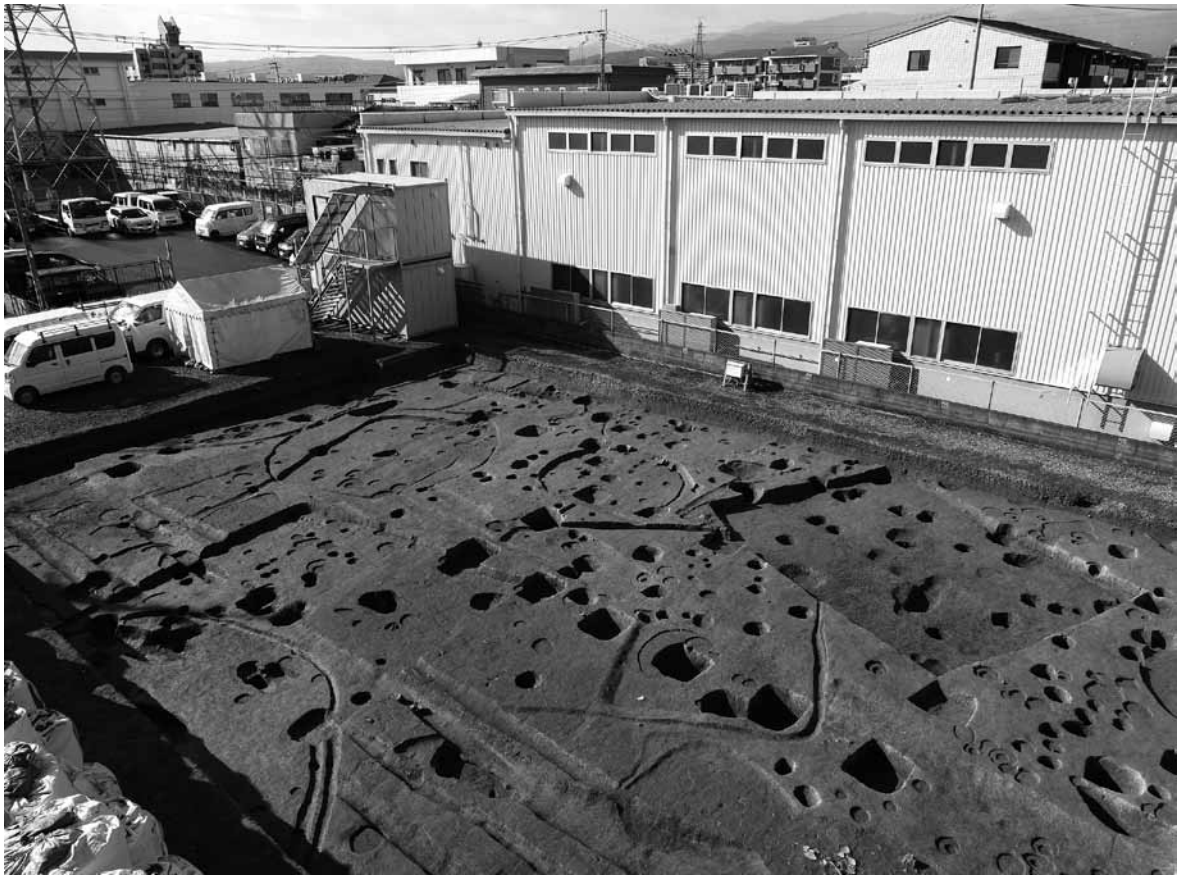
石器実測図１（石１～12は１：２、石13～21は１：３）



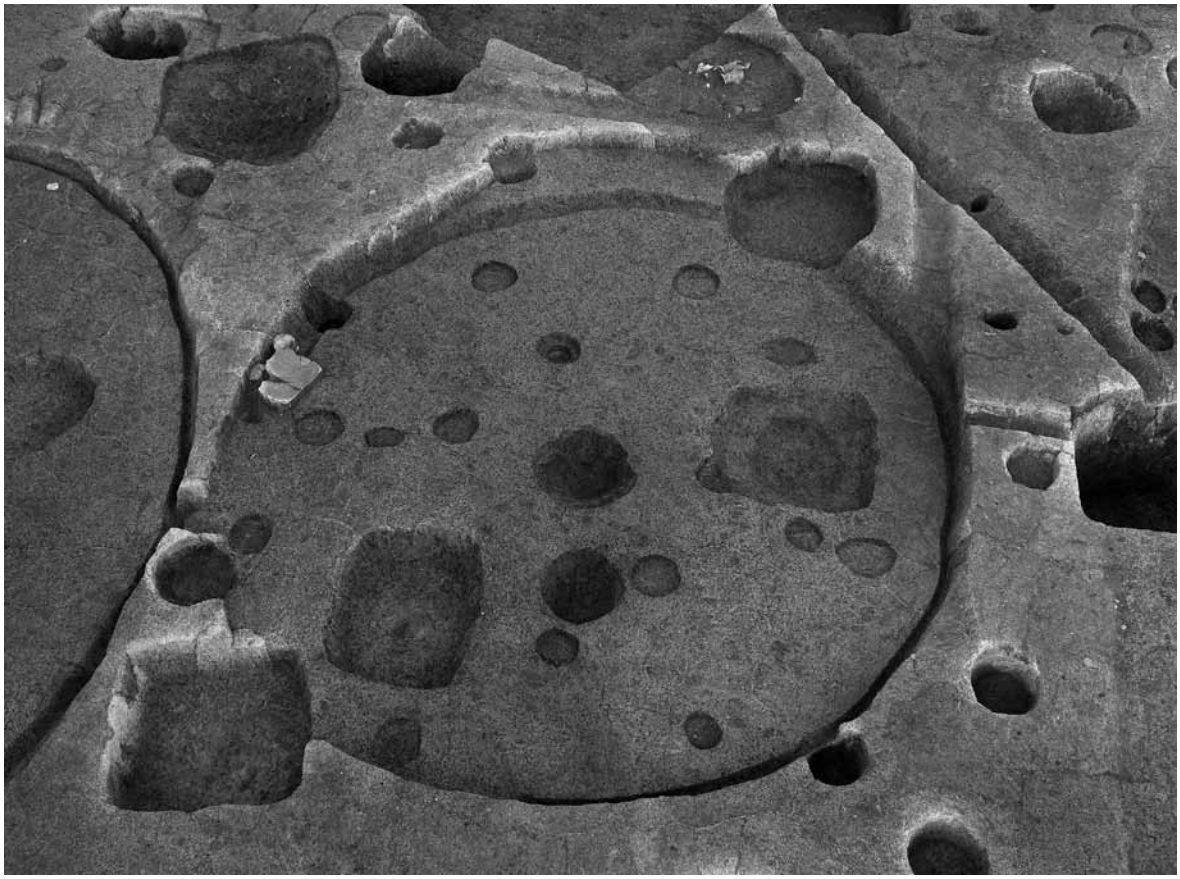
石器実測図２（石22～30は１：２、石31～35は１：４）



石器実測図３（１：４）、土製品実測図（１：２、土７のみ１：４）



1　調査区全景〔弥生時代〕（北東から）

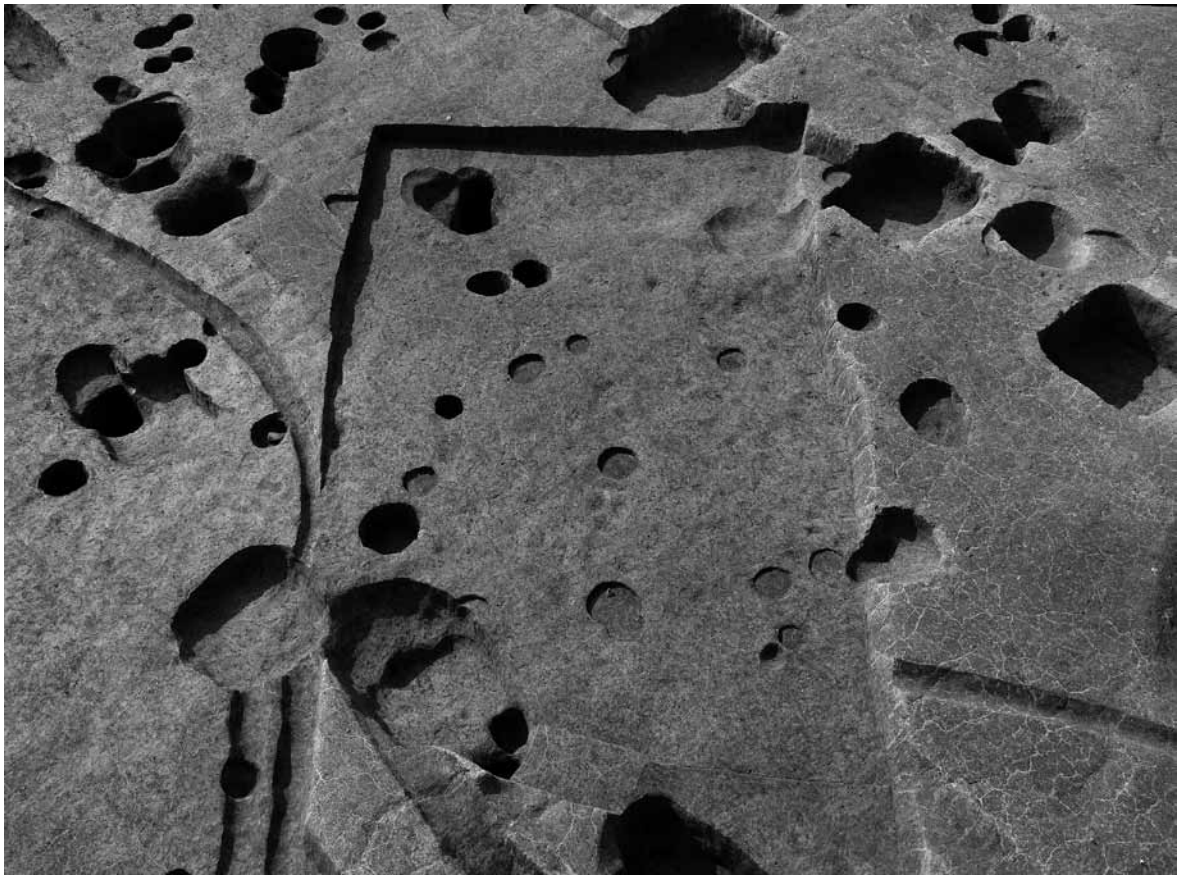


2　竪穴建物310（南から）

1　竪穴建物311（南東から）

2　竪穴建物480（南西から）

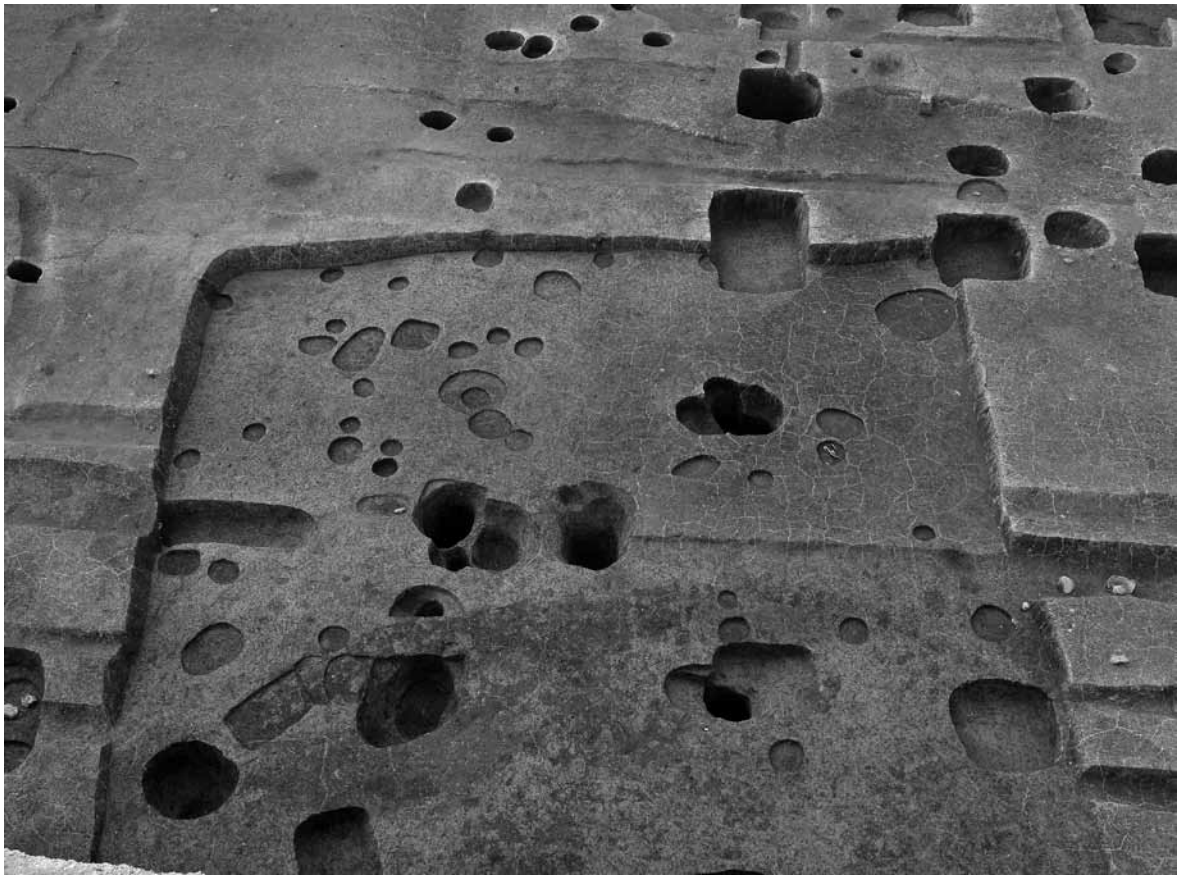
1　竪穴建物320（北東から）



2　竪穴建物600（北東から）

1　竪穴建物312・500（北東から）

2　竪穴建物340（北東から）



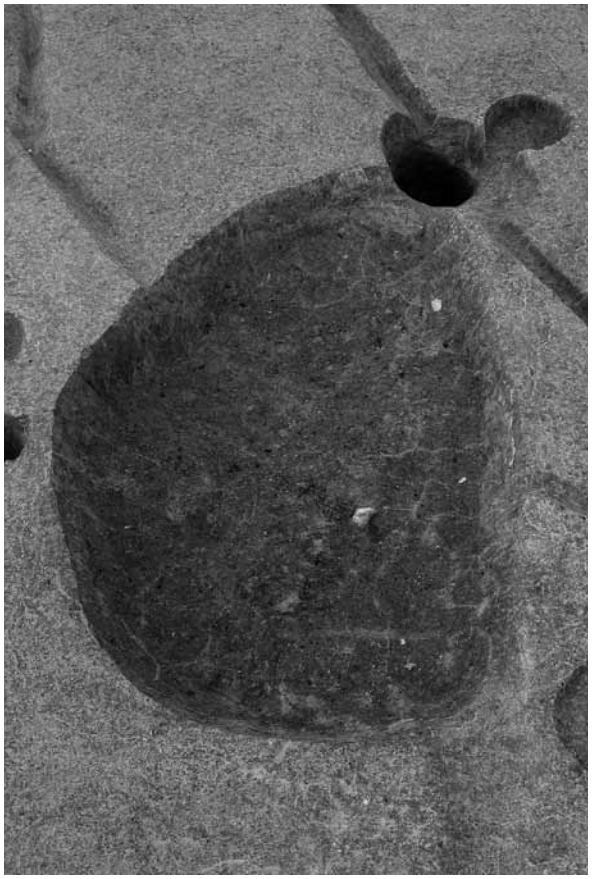
1　竪穴建物355（東から）

2　竪穴建物250（北東から）

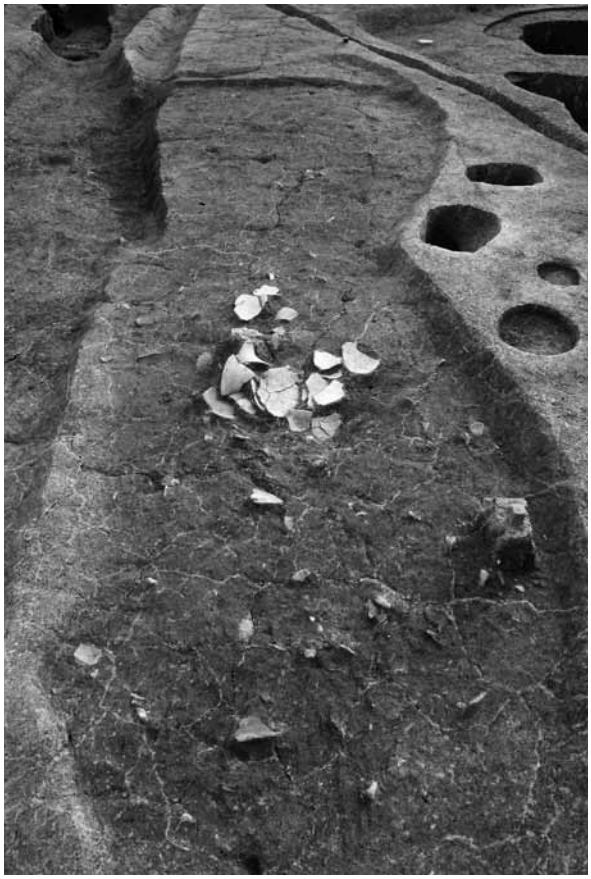
1　土坑309（北から）

2　土坑316（東から）

3　土坑295（北から）



4　土坑318（東から）



1　土坑240（北から）

2　土坑353（北から）

3　土坑400（北西から）

4　土坑205（北から）

1　調査区全景〔奈良時代以降〕（北東から）

2　掘立柱建物１（北から）

1　掘立柱建物２（北から）

2　柱列３（北東から）

3　井戸332（北西から）

5

6

11

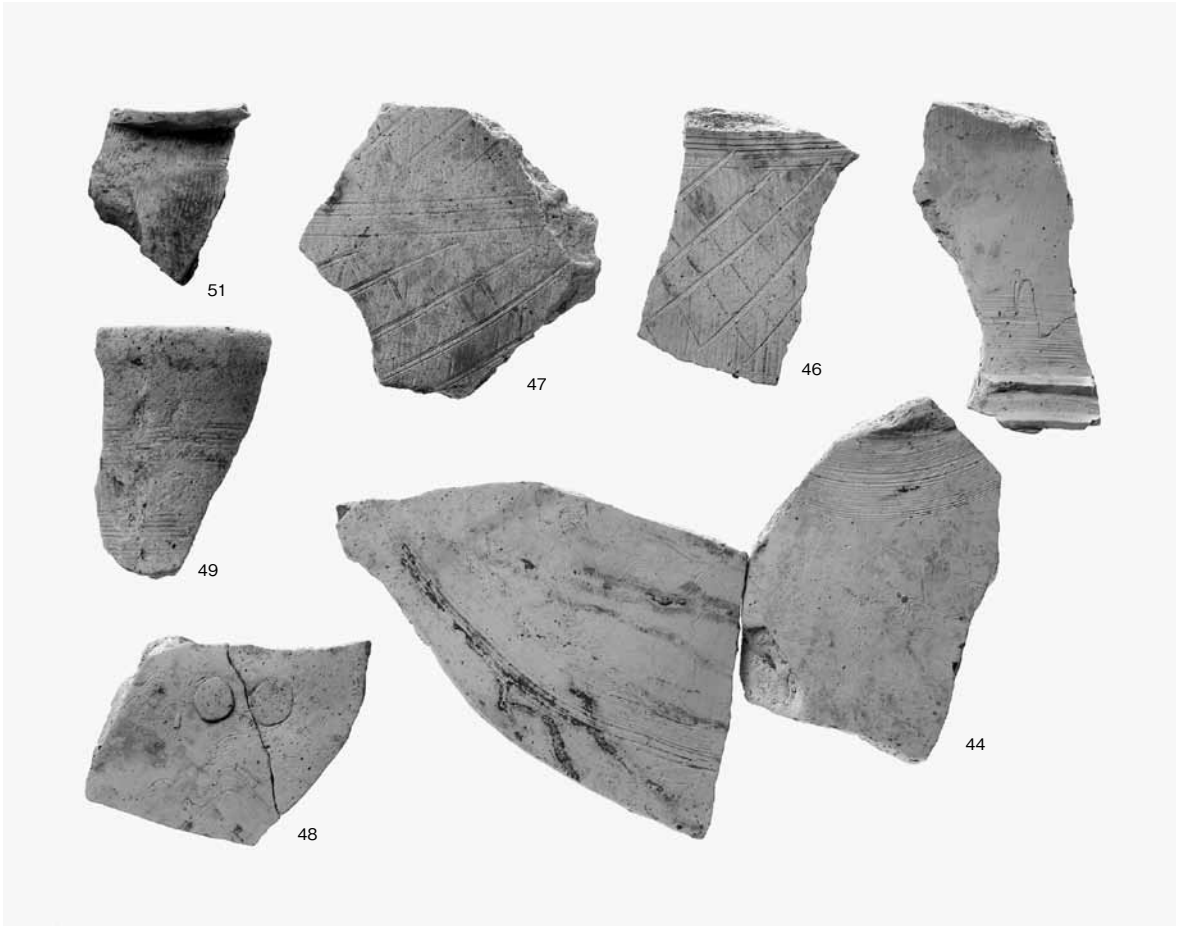
15

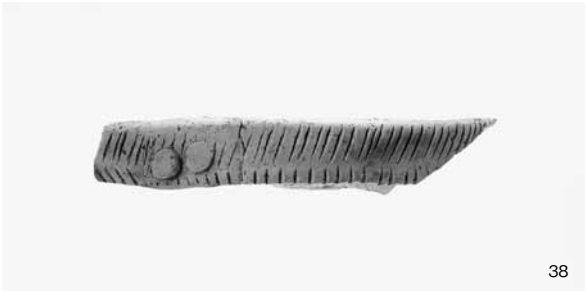
25

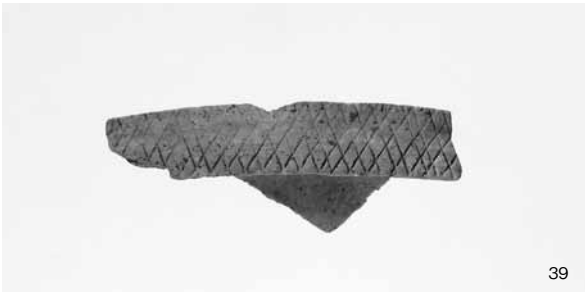
27

31

土器類 1







土器類２

61

103

91

104

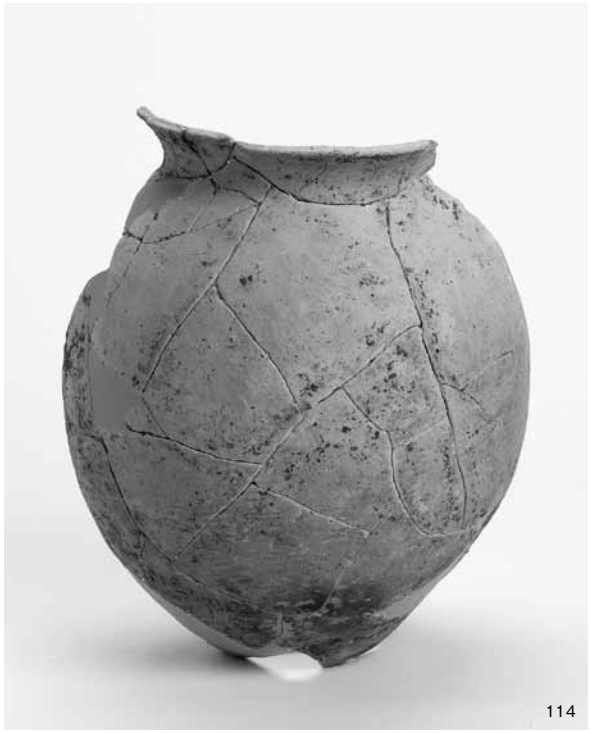
107

93

111

土器類３

112


114

120

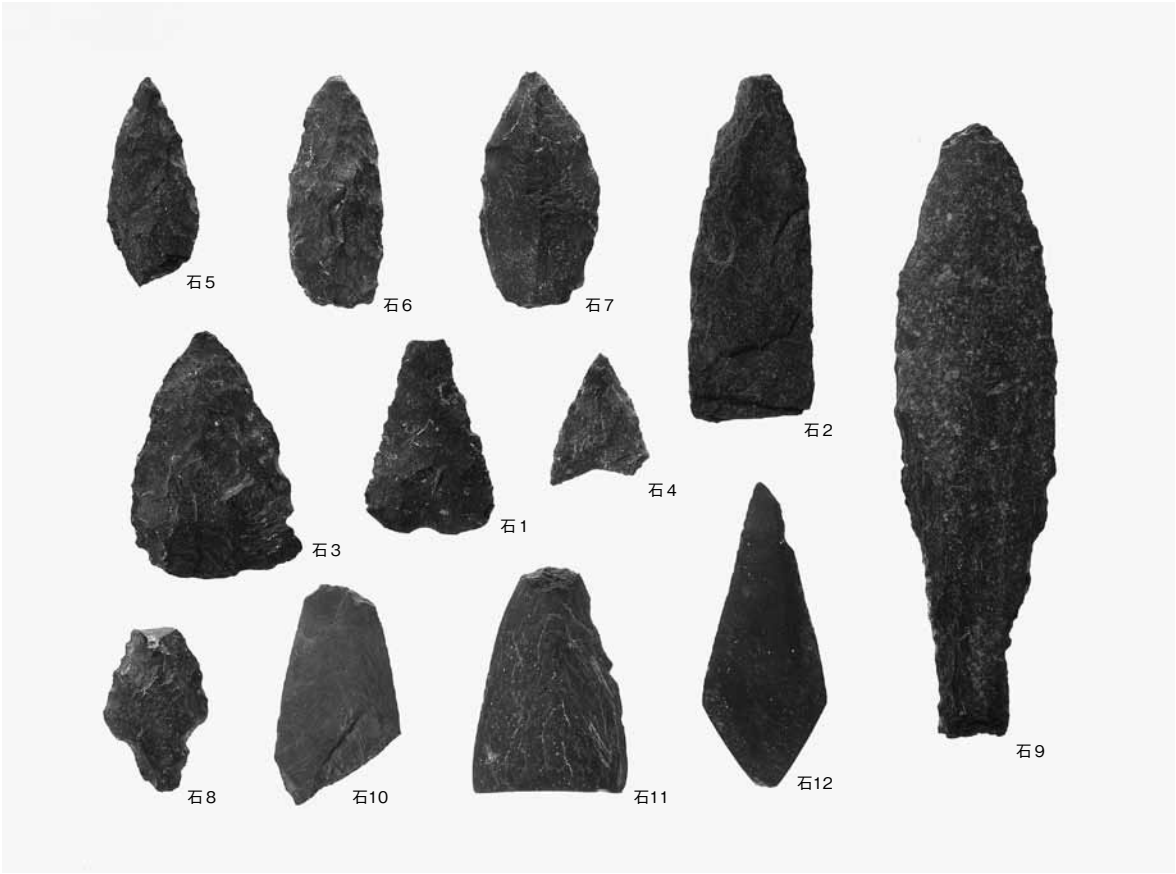
116

128

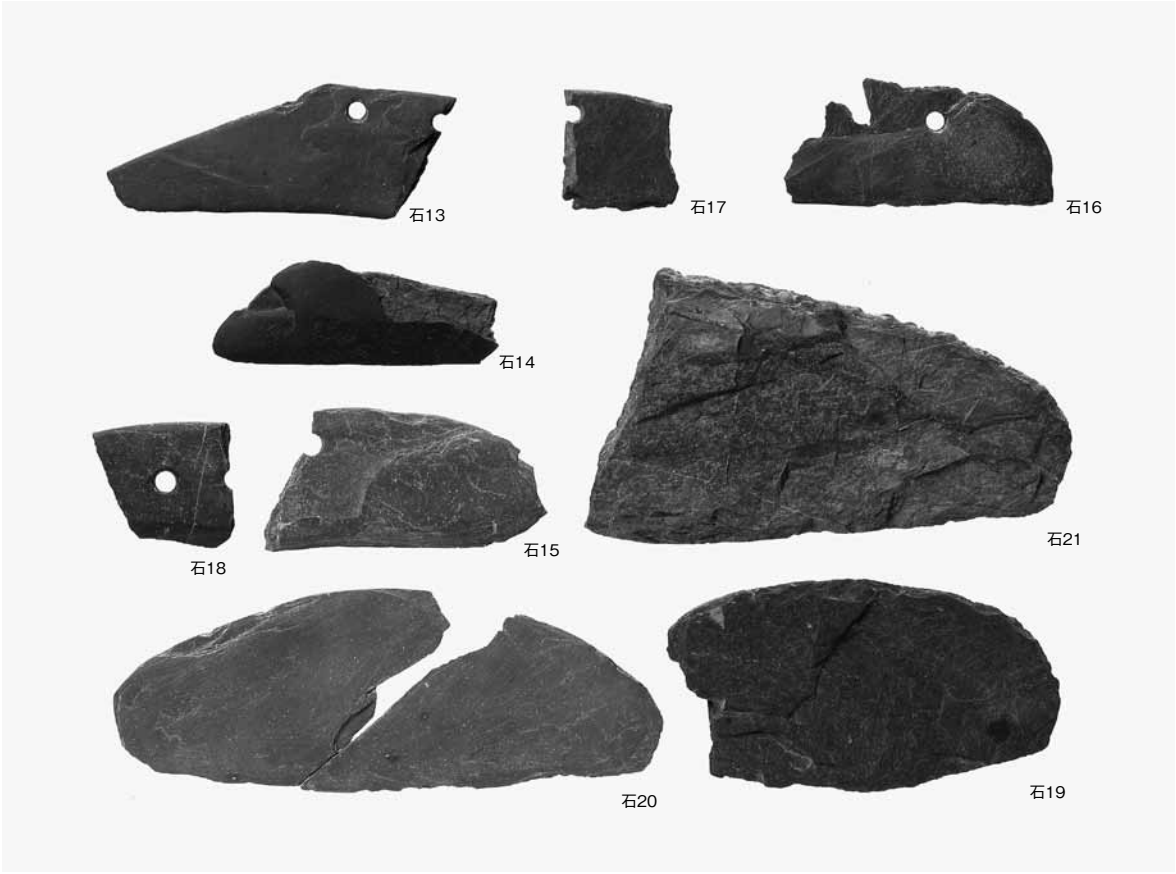
129

132

土器類 4


石5
石6
石7
石2
石4
石3
石1
石9
石8
石10
石11
石12

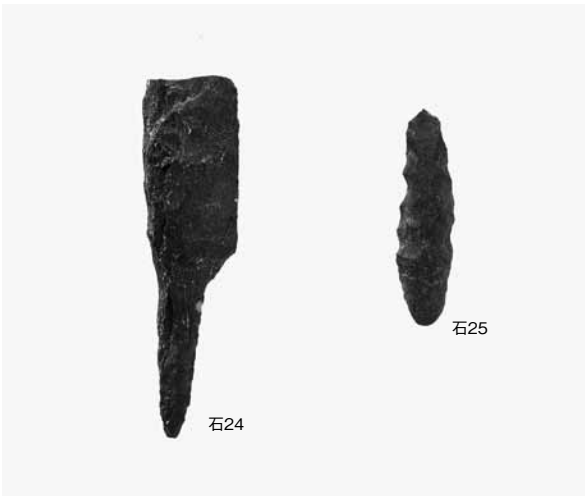
1　石鏃

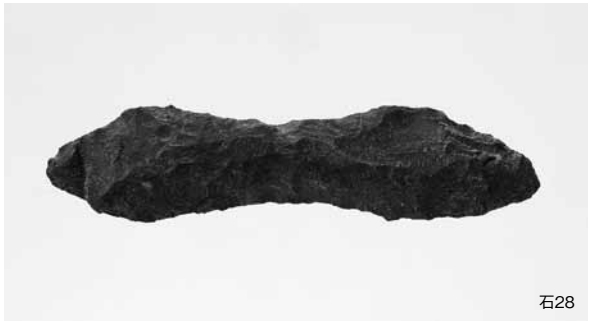

石13
石17
石16
石14
石21
石18
石15
石20
石19

2　石包丁

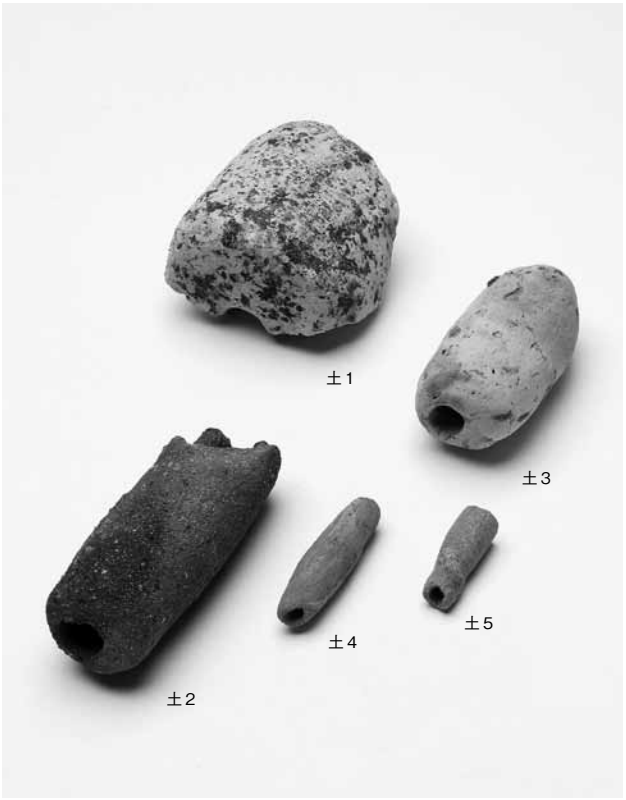
1　石斧

2　台石・敲石・砥石





1　石剣・石錐・石鋸・碧玉剥片・不明石器



2　土製品

報　告　書　抄　録

ふ り が な	なかくぜいせき
書　　名	中久世遺跡
シ リ ー ズ 名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告
シリーズ番号	２０２３－８
編 著 者 名	渡邊都季哉
編 集 機 関	公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
所　在　地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
発　行　所	公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
発 行 年 月 日	西暦2024年７月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
中久世遺跡（なかくぜいせき）	京都市南区（きょうとしみなみく）久世中久世町（くぜなかくぜちょう）４丁目（ちょうめ）18-1, 18-2, 18-3	26100	772	34度57分32秒	135度42分51秒	2023年11月27日～2024年２月２日	392㎡	工場建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中久世遺跡	集落跡	弥生時代	竪穴建物、土坑	弥生土器、石器、土製品	弥生時代の竪穴建物を多数検出した。
		奈良・長岡京期	掘立柱建物、柱穴列	土師器、須恵器、土製品	
		平安時代	井戸	黒色土器	

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告　2023-8

中久世遺跡

発行日　2024年7月31日

編　集
発　行　公益財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435　TEL 075-415-0521
http://www.kyoto-arc.or.jp/

印　刷　三星商事印刷株式会社

住　所　京都市上京区七本松通下長者町下る三番町273番
〒602-8358　TEL 075-467-5151